

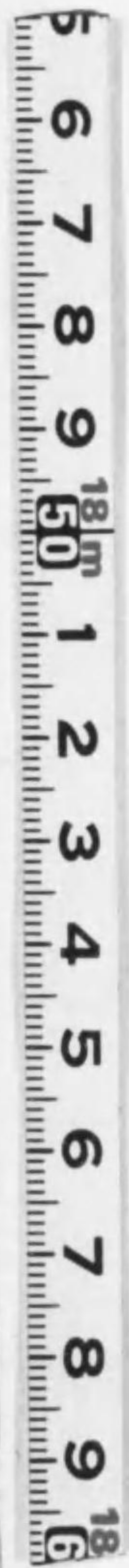
挾冠  
註導

灌頂式文

三摩耶戒  
胎藏金剛

特257

513



始



特 257  
513

澁谷慈鎧編

冠導  
挾註

灌頂式文

三摩耶戒  
胎藏金剛



## 例言

一、灌頂の式文は阿闍梨開壇を行はんとする師は各々灌室に就て先づ式頂戴の作法に依つて式文を請け前行の間に練習して後ち灌頂を行ふのが順序ではあるが當時は多くの場合行はれ難い事情があるので、本書に依つて式の次第及び出典と其意義等を知らしめる爲に作つた者である。

一、式文は此の外に許可と云はれて略灌頂式があり、又洗五鉢法、取水作法、五瓶加持作法、五色線五寶等を作るにも夫々作法があつて此式文に總てが盡された者でないことも勿論である。

一、合行灌頂の式文を省略したのは全く胎金を合したに外ならぬ故に、其の目次而耳を掲載したのである。

一、瑜祇灌頂と第五は從來多く傳法灌頂の後ち數年修練して後更に受たものであり、且つ各灌室で相違して居ると、機根に因て其灌頂に多少の異りがあるので茲には載せ難いのである、又此の相違ある點が同一法系にして而も灌室の分れた所以ではないかと想像されるのである。

一、眞言、陀羅尼の句義は明覺師の胎金句義を始め、圓耳和尚眞流師手澤の儀軌を參考とし其他の古書に依り集めたものである、就中胎藏界の中にある般若陀羅尼の句義に就ては大宮孝潤大僧正を煩したり、大僧正は屢々東京に往復して調査され殊に本年六月茨城縣下未曾有の大水害の際にも拘はらず東京帝大の圖書館を調査されしも日本現存の梵本及西藏本一切經中の般若部に此の部分なく完全なる對校本を得ざる爲め、非常なる苦心と

大宮大僧正と親交ある方々の援助に漸く判讀するに到れるものなり（附録參照）茲に其轉末の一端を記して大宮大僧正の容易ならざる勞苦を深謝す。

一、本書には出典と眞言陀羅尼の句義を集載するを目的とし國譯聖教大系と其選を異にする爲め往々註釋を省略したるものあり彼此對照して讀まれんことを望む。

昭和十三年七月

編者識

# 三摩耶戒

### 三摩戒儀標條

#### ○前方便

(一)入堂	一
(二)加持香水洒淨	二
(三)聲明	三
(四)表白神分等	三
(五)唱禮	三
(六)護身法	三

#### ○正修作法

初戒體	五
次乞戒	七
次正作法	七
(一)歸命啓請	八
(二)運心供養	九

#### ○五供養

(三)懺悔諸罪	一〇
(四)歸依三寶	一二
(五)發菩提心	一三
(六)略問遮難	一四
(七)羯磨受戒	一五
(八)求請加護	一六
(九)修四攝行	一七
(十)四波羅夷及十善戒	一九
次廻向發願	二三
○五供養	二四

## 三摩耶戒儀

### 三摩耶戒

見聞私抄に云く、眞言教に持つ處の戒法とは自性清淨の戒體なり、其の義天台に説く處の性無作の假色なり。凡そ三摩耶戒に付て十種の文段あり皆な是れ發菩提心の相貌なり。所詮發菩提心の後、深法をは傳受すべき故歟。未發心の者は深法を聞て還て必ず邪見を起す故なり、或抄に云く今の三摩耶戒作法に十種四重無盡の法之れありと雖も尙ほ是れ三摩耶戒の前方便なり、是れ顯宗に附順する戒なる故なり、此の上正眞言とて三摩耶戒の眞言之れを授く三摩耶薩埵是れなり亦今受る所の三聚淨戒等並に三摩耶の明は皆な是れ修生受得の戒なり、師に依て戒を受る故なり、其の本性戒とは自心本性六大本不生是れなり、住心品釋自心本性即是尸羅從師得住無爲戒、此本性戒不從師授自然三聚淨戒等功德具足自心文謂く此の六大本不生は一切の惑業煩惱を遠離するか故に攝律儀戒なり、亦此の本不生は一切萬行萬善を攝するが故に攝善法戒なり、又此の本不生は萬法の所依にして諸法を養育し萬法を含藏する大悲胎藏なるが故に饒益有情戒なり、此の如く一切戒を自然に具足するが故に本性戒と云ふなり。顯教の諸戒と云ふは此の佛性戒より緣起したる者なり。亦云く三摩耶戒とは三摩耶は平等の義なり。戒は是れ不二和合の義なり、戒の字をばイマシムと讀む即ち而二の見をイマシメて不二に歸する意なり。佛法廣と雖も顯密俱に戒定慧の三學を出でず、今三摩耶戒の後に兩部の灌頂を受くるは即ち戒定慧の次第なり、此の中に戒は總體なり、不二の義なるが故に、此の總體より定慧の二徳を開出して兩部灌頂と爲すなり、定とは胎(理)慧とは金(智)是れ即ち二教轍を殊にして手を蓮金壇に分つ義なり。云云。(原漢文)

## 式文の梗概

### 前方便

- (一)入堂……四智讃は阿闍梨の四智を讃歎する著坐の讃なり。
  - (二)加持香水洒淨……自身及び壇上の供具に洒ひて淨潔ならしむるなり。
  - (三)聲明……云何唄……唄は又は唄匿と云ふ譯して讃誦と云ひ又翻して止と云ふ。此の梵唄を唱ふるに依て諸緣自ら止み心中寂靜となり佛事を行するに堪ゆ故に法會の最初に之を唱ふるなり。此の間に逆洒水を行ふことは水に清淨の徳あり、香に遍至の徳あるが故に香水を四維四方と遍く滿堂に洒て道場を清淨にするなり。
- 散華……文は諸佛菩薩の影向を勸請し供養し上るもの。
- 對揚……は佛陀に對して稱揚を作す貌なるも今用ゆる所のものは祈願の言はなり、因に經軌の上には讚衆あることなし總て皆阿闍梨及び弟子の所作なり自ら堪能ならず故に之に代らしめ或は助音せしめて法會を莊嚴するなり。
- (四)表白、神分等……法會の事由を述べて三寶に祈願す。
  - (五)唱禮……先胎藏界次金剛界の三部五部の諸尊を頂禮す。
  - (六)護身法……先胎藏の護身法―入佛三昧、法界生、轉法輪、被甲或は不動刀印を用ひて護身す。次に金剛界の作法―五佛加持、五佛灌頂、五佛緊鬘なり、之れ皆三部五部諸尊の本誓を仰き其加被にあづかるものなり已上を以て正授戒の前方便となす。

### 正授戒

- 初戒體**……阿闍梨、受戒の緣由を述べて眞言法教に入らんとする者必ず先づ戒に因ることを説なり、此の故に遮那覺王は三聚十重の戒品を説て生死の大海を超て涅槃の岸に到る船筏となし玉ふ所以を説示す。
- 次乞戒**……弟子正しく師に對して授戒を請ふなり。
- 次正作法**……此の中に十の文段あり次に列ぬるもの即是なり。
- (一)歸命啓請……弟子を教へて先づ三寶歸依の志を述べて至心に三寶を頂禮せしむるなり。
  - (二)運心供養……是れ亦弟子を教へて運想して遍く十方の諸佛菩薩を頂禮讃歎し奉るなり。
  - (三)懺悔諸罪……是れ亦弟子を教へて無始已來身口意三業に造る所の無邊の重罪を今諸佛の前に發露懺悔して罪障の消滅を祈るなり。
  - (四)歸依三寶……三歸依なり弟子を教へて盡未來三寶歸依を誓はしむるなり。
  - (五)發菩提心……既に三寶に歸依し竟て大誓願を發せしむ即ち五大願なり。
  - (六)略問遮難……前の懺悔諸罪は無始已來重輕の一切諸罪を懺悔すと雖現身に若し七逆罪を犯する者は戒を授くる事を得ず懺悔の行を修して好相を得て後ち戒を授くるが故に今正しく三聚淨戒を授けんとして遮難を問ふなり。
  - (七)羯磨受戒……正しく弟子に三聚淨戒を授くるなり、顯教の十二門戒儀と今の三昧戒とは受戒の作法異ると雖其戒法は同じく三聚淨戒を授く期する處は同じく三身の佛果を成するに在り。
  - (八)求請加護……弟子を教へて既に三聚淨戒を受け畢る故に十方諸佛菩薩の證明を請ひ又諸佛菩薩の加護に依り無上菩提を證せんことを願ふなり。

(九)修 四攝行……弟子を教へて布施、愛語、利行、同事の四攝法に依て貪瞋癡慢の四煩惱を調伏し四律儀を持たしむるなり。

(十)四波羅夷及十善戒……四波羅夷は(一)捨正法(二)捨離菩提心(三)慳吝法(四)不饒益有情行にして略出經及大日經に説く所なり、又十善戒は瞿曇經及び義釋に説く所の(一)退菩提心(二)捨離三寶(三)毀謗三乘經典(四)疑大乘經典(五)趣向二乘法(六)發二乘心(七)二乘人説大乘(八)發邪見(九)外道説妙戒(一〇)爲有情作利益事の十戒であつて顯教の殺盜婬妄の四波羅夷及菩薩の十重禁戒と異り今説く處の戒は之を十重又は十重無畏戒或は佛性戒とも云ふ。

次廻向發願……上來修する處の懺悔授戒等の功德を以て無盡法界の衆生に回施し法界の衆生と俱に無上菩提を成せんと發願するなり、若し結縁受戒の者ある時は此に於て道場の外に去らしむべし。

### 五 供 養

五供養とは塗香、白華、燒香、燈明、誓水なり。此は佛を供養するに非ず阿闍梨一弟子に授けて弟子をして五波羅夷及び三聚淨戒の功德を具せしむるものなり。五供養の塗香は戒、白華は忍辱、香は精進、燈明は智慧、誓水は布施波羅夷を表し、又齒木は攝律儀戒を誓水は饒益有情戒を金剛線は攝善法戒を表し、三聚淨戒の功德莊嚴を表するなり、この三昧耶戒は七日作壇の時は第六日の作法にして灌頂の入壇に當つて先三摩耶戒を授くることは胎金等の行法には専ら定慧の二門を説て戒品を説かず、然るに戒定慧の三具足せざれば佛法に非ず故に灌頂の大壇に入らんとする者には必ず先つ此三昧耶戒を授くるなり。今は合行の次第に依つて之を授くるも若し胎金兩壇に入るに時を隔て、入壇する時は胎金各別の次第に依つて先づこの三摩耶戒を授くるなり。一尊法を授くる時の如きも師先づ弟子に塗香を授け或は戒波羅夷の印明を授くることは皆この意なり、又灑水は灌頂の意なり故に受戒して灌頂を授けて而して傳法する形なり。

### 三摩耶戒儀

先壇場莊嚴 大幕引之依便宜若不引之 雜色幡懸  
之 高座一面南向立之師座也 上張天蓋高座  
南立花机 誓水 塗香 華 燈明 燒  
香 灑水 香爐 齒木 金剛線  
机南向北敷半疊受者座也

受者座東淨蓮一枚置之 三重許押折其耳在東西 受者座左盥水瓶  
加紙一枚手巾料 置之讚衆座隨便宜可敷之 前方左方敷  
屏風一雙可儲之受者右方置之  
次入堂而授抄云入堂時分必未(午後二時也) 作法如曼陀羅供但行道無之  
讚衆列座如常 阿闍梨持珠杵 受者隨

〔三摩耶戒儀〕鸚鵡抄云凡三摩耶戒私記說處大日經六卷受方便學處品第十八也釋菩提心戒儀一卷有之行者心戒乞事要致也善無畏釋禪要云一卷疏依此等三摩耶戒記ヲ沙汰スル也文又云三摩耶者梵語此云等持秦言正心行處也有一四種三摩耶一平等三摩耶謂見衆生性一切佛平等也二本誓三摩耶憶念本誓我令衆生知佛性云々三驚覺三摩耶念本誓已正即是驚覺衆生令知佛性云々四除障三摩耶也云々戒警也制也律也云々文

〔三戒高座向方〕傳法要決一云示云三昧耶戒高座多分在北向南立之是即傳法灌頂縱兩夜修之三昧耶戒合行作法授之故向南立之然而或在東向西授之事粗其例有之歟付合行以胎爲本樣金爲本樣二姿有之山門胎藏爲本故向西立之義有之歟大師御記楊枝堂高座在東向

西旨見但是胎藏時事也云々文因舊譯云楊枝新譯云齒木也

〔阿闍梨〕 鸚鵡抄云寄歸傳云梵語阿遮梨耶 (Akarya) 唐言軌範菩提資糧論云隋言正行私云明解師翻略抄

〔四智讚〕 鸚鵡抄一云列讚ハ新阿闍梨ヲ讚スル故ニ阿闍梨ハ不助音也二反目ヨリ同音ナルベシ文面授抄云仰云是著座讚事也若此讚立誦時讚衆自入堂時不著座可誦之爾受者即可著座也若漢語居誦時四智梵語畢鉢已後聽坐也四智漢語三反一度隨意也常用二反也是名著座讚事非云讚衆著座阿闍梨令著座讚故名著座讚也云々文萬全記云四智漢語著座讚云訛也漢語二返ナラハ始一返總微音ニテ同音ヲ唱ヘ第二返目ヨリ塗香器蓋取ナリ若一返ナラバ句頭ハ除キ其次一句同音付微音唱其次句ヨリ塗香蓋取ナリ他流人四

智漢語始マルト直ニ行法ヲ始ムルハ以外不覺ナリ云々不限三戒曼茶羅供等總如此可意得文

〔唄〕 鸚鵡抄一云要覽云梵云唄匿 (Patrika) 華云止斷也○諸天聞唄心則歡喜故須作之文

〔逆酒水〕 鸚鵡抄云後仕去事諸天影向道酒故此道不可踏也逆ノソ、ギトテ逆ニ廻ルニ非ス云云文種悉地經奉請成就品第十四云若於中庭及與室內或佛堂中作曼茶羅時○但持誦香水灑即便成淨不假掘地若於本念誦室中作此法速得成就此文逆酒水典據賦

〔散華〕 鸚鵡抄云供養義也文

〔對揚〕 鸚鵡抄云要覽云都講前法師對揚之人也文今者對佛陀爲稱揚貌也文常師契中云兩壇之時散華對揚不用之合行之時用之云々兩壇佛頂現行合行智泉現行

後指蓋蓋蓋正入堂之時蓋置門前便宜處 到門前加持香水自

身灑淨之後顧後灑弟子頂上三反於此所

弟子止蓋三戒時門前酒水用否兩義也佛頂房(行殿)不用之智泉房(覺範)用之

次師登高座敷座具於草座之上不用禮拜 受者座机前半疊

次讚衆誦四智讚一本云梵語三返鉢打一本云漢語

次加持香水灑淨常如(四智讚三反之間行之)

次阿闍梨執杵香爐云何唄問持之也

次云何唄先金二打

大儀之時佛前三戒本尊無之指阿闍梨前如此云敷別坐到尅限

着坐唄了歸本坐金二打

次逆酒水云何唄之間十弟子中勤之若無弟子讚衆勤之用門前瓶先拔瓶花置机上或乍立花用之酒水師後サマニ酒之酒

訖十弟子賦華籠地不踏汗之意也起立唱之不行道

次散華諸衆起居禮畢鏡一下

次對揚取香爐

次表白取香爐 神分 祈願

次佛號置香爐取如意(隨要記云取香爐)阿闍梨自唱之唐音受者讚衆共取次第共起居禮(此唱禮宿德聲也)常師云漢音人開程讀之異修法等唱禮云云

先胎藏界兩界各別時可用一界

南無清淨法身毘盧遮那佛

南無東方寶幢佛

南無南方華開敷佛

南無西方無量壽佛



〔表白〕 鸚鵡抄云、僧史略云、亦曰唱導也、梁高僧傳云、夫唱導所貴者其事四焉、一聲二辯三才四博也、非聲無以警衆、非辯無以適時、非才言無可采、非博語無依據、

〔唱禮〕 鸚鵡抄云、智度論云、禮有三品、一口但稱南無、是下品、禮二屈膝著地、是中品、禮三五輪著地、是上品、禮文傳法要決鈔一云、佛號兩界共被出之三戒傳法時、大旨合行修之故、如此書ツ、ケラル、歟、若一夜中修兩壇灌頂時、三戒兩部合事、誠似得便宜、若胎金兩夜修之時、三味耶戒隨兩部各別ニコソ可修之アレ、雖然一夜兩夜、義依離合、行用作カエン事、有煩故、多分胎灌、日兩部合行、三戒授也、云々兩界護身法准之可知、

其身云々轉法輪、大日經云、是名爲法輪、最勝吉祥、印是人當不久同於救世者、眞言印、威力成就者、當見常如法輪轉而轉、大法輪、文金剛甲、大日經云、次以眞言印而撥金剛甲、當觀所被服遍體生焰光、用之嚴身故、諸魔爲障者、及餘惡心類觀之、咸四散、文唵砧甲冑、緒眞言也、

南無北方天鼓雷音佛  
南無胎藏海會一切佛菩薩等  
次金剛界  
南無常住三世淨妙法身金剛界大悲毘盧遮那佛  
南無福德莊嚴聚身寶生佛  
南無受用智慧身阿彌陀佛  
南無作變化身釋迦牟尼佛  
南無金剛界大曼荼羅一切佛菩薩等  
次前方便  
胎 入佛三昧耶 法界生 轉法輪  
被甲 加十二所 不動刀印 刀鞘如常  
金 五佛加持 五佛灌頂 五佛繫鬘  
次振鈴 面授抄云、現行不用之三昧流用之三井用、  
次戒體 阿闍梨取如意、  
夫欲超有廿五流 流暴海 達本無生、無爲無漏涅槃  
先捨惡 身口意三 進善 具三聚十重尸 捨惡者調身  
口意進善者專修戒定慧慧者即一切陀羅尼門、  
定者即是一切三摩地門、  
門者要藉正戒以爲根本、  
而是三門

〔有流〕 鸚鵡抄云、廿五有、流轉也、廿五有者、四州、四惡趣、六欲、梵世、無想、五那含、四禪、四無色也、

〔陀羅尼門〕 鸚鵡抄云、陀羅尼、(Dhāraṇī) 者、防非止惡、義惣持、義也是、慧心所也、サテ三摩地者、調直定、義禪定門也、サテ此

二門、遍學スル事、戒門也サレハ戒、油鉢  
傾キヌレハ定慧、冷水易洩、定メタリ文

〔五類諸天〕六欲天、四禪、四無色、無想天、  
五那含天也

〔乞戒偈〕略出經卷四左八說、灌頂法、中云、  
於其師所、生如來、想、合掌恭敬、頭面、禮手、  
按師足、作此白言、尊者、即是如來、即是執  
金剛、我今歸依、尊者、求學、正等菩提、爲金  
剛性、淨故、求學、淨戒、律儀、惟願、尊者、哀愍、  
攝受、如諸最勝子、見有菩提、種子、衆生、皆  
不捨置、我今已發菩提心、爲欲建立不退  
轉位、故求入曼荼羅、惟願、尊者、慈悲、教示、  
令我、盡見、受一切諸佛、共所灌頂、被金剛  
寶、蓮花、羯磨、及大部、所有諸勝妙事、文依  
以上之文、作此偈也

如世伊字闕一不可自有古德先達大德則  
求那跋羅求那跋陀羅譯功  
德賢中天竺人也三藏達磨達磨  
三藏師資  
傳授唯詮三摩地門又三藏瞿多地瞿多  
具云阿三藏  
留支具云善提  
留支三藏唯集陀羅尼門次有三藏善無  
畏與金剛具云金  
剛智菩提流志始名達  
磨流支即天竺高德  
唐土傳燈鳩此三門歸于一揆其定慧門者  
乃是滅煩惱之要津登涅槃之直路甚深微  
妙難可測度以上妙解以下妙行於秘密上乘法門  
雖勝知解三摩地行無增上不退心若不發  
增上心精勤勇探者則不合得聞勝上法門  
矣仰願大日如來金剛薩  
埵等海會聖衆梵王帝釋  
一切五類諸天降臨此道場證知證誠今日

灌頂三昧耶戒事謹誓願

置如意

次受者乞戒

師取并古合掌之中立  
先受者禮拜三反長跪合  
掌然後唱偈有音曲唱了又禮拜三反但略時前  
後許禮之如法可證也若受  
者多時並居高座前同音可唱之

我今勸請阿闍梨

合掌恭敬頭面禮

當於尊者生佛想

及執金剛菩薩想

我等歸依尊者所

求學菩薩淨戒儀

唯願闍梨哀愍攝

爲欲建立不退位

入兩部胎藏  
金剛界曼荼羅

慈悲教示令我見

受諸佛所共灌頂

是故至心歸命禮禮三

次阿闍梨置并取如意  
已下戒林聲

善哉々々稱讚  
言也如汝所請我今依佛教能授與

〔加持〕 鸚鵡抄云佛日影衆生心水淨云加衆生心水佛日影感云持云々

〔十種方便〕 鸚鵡抄云歸命啓請私云不惜身命也運心供養私云運信心供養聖衆也懺悔諸罪覆罪根生長露罪根消滅也歸依三寶如文發菩提心顯教四弘誓願密教五大願也密煩惱無邊誓願斷略福智無邊誓願集加事所治煩惱略能治心舉也略問遮難問受者遮難貌也云々

〔至心頂禮〕 鸚鵡抄一云長阿含經云二肘二膝頭頂謂之五輪輪者圓轉之義也

亦云五拜凡禮拜必先並足正身合掌俯首以手裹衣即袈裟也文五百問論云不裹三衣禮拜得衆多罪先以右膝著地次下左膝著地舒二掌過額承空示有接足敬以頭在地良久方爲一拜若以中拇指相柱或以掌承面或捺地並非儀文

〔運心供養〕 無畏禪要云次應教令運心遍想十方諸佛及無邊世界微塵刹海恒沙諸佛菩薩想自身於一一佛前頂禮讚歎供養之鸚鵡抄云私云至誠心運動種

汝等應當一心諦聽汝莫散亂心若散亂者一切如來及金剛薩埵所不加持汝當發露懺悔已上略出經四卷三藏善無畏告曰欲入大乘者先發無上大菩提心次受諸佛菩提心戒身器清淨然後得受法約有十種方便已上不空受菩提心戒儀文也出無畏三藏

- 一 歸命啓請
- 二 運心供養
- 三 懺悔諸罪
- 四 歸依三寶
- 五 發菩提心
- 六 略問遮難
- 七 羯磨受戒
- 八 求聖加護
- 九 修四攝行
- 十 說四波羅夷及十善戒也

初歸命啓請者 無畏禪要作第一發心門

弟子等歸命十方一切諸佛諸大菩薩大菩提心爲大導師能令我等離諸惡趣能示人天大涅槃路是故我今至心頂禮已上無畏禪要文也

眞言曰「歸依方便梵語也」

唵薩縛沒駄一切佛 冒地薩怛鏗菩薩即 設羅僧寶 救藥車到 弭縛日羅剛金 達磨法法 頡利即寶

意云 我今歸依一切佛菩薩及一切法 即歸依三寶 意也 無畏禪要 總梵語無之

二運心供養者 無畏禪要作第二供養門 弟子 今於十方無量世界所有一切

々勝事三寶供養是運心供養也

最勝上妙，香華幡蓋種々勝事，供養諸佛，諸大菩薩及諸聖衆，盡未來際，至誠供養

至心頂禮已上無畏禪要文大同也

眞言曰「不空摩尼眞言也」

唵阿謨伽布惹摩尼跋納麼縛日

隸他藥多尾路枳帝三滿多平等也

鉢羅薩羅舒不壞義

三懺悔諸罪者無畏禪要作第三懺悔門

弟子某甲自從過去無始已來乃至今日

貪瞋癡等一切煩惱及忿恨等諸隨煩惱

擾亂身心廣造一切三業諸罪身業不善

〔懺悔〕受菩提心戒儀略出經四九說灌頂法中云次發露懺悔令自稱己名我某甲從無始劫來以身語意廣作衆罪無量無邊我今於諸佛前悉皆至心發露懺悔不敢覆藏我今懺悔誓不更作願罪消滅廣文○鸚鵡抄云雲法師云懺名白法懺名黑法黑法須悔而勿作白法須企尙

之取捨合論故言懺悔又懺名修來悔名改往往日所作不善法鄙而惡之故名爲悔往日所棄一切善法今日已去誓願勤修故名爲懺文

殺盜邪姪口業不善妄言綺語惡口兩舌意業不善貪瞋邪見一切煩惱無始相續纏染其心如是三業造罪無量或殺父母殺阿羅漢出佛身血破和合僧毀謗三寶打縛衆生破齋破戒飲酒食肉如是等罪無量無邊不可憶知自作教他見作隨喜今日誠心發露懺悔一懺已後永斷相續更不敢作唯願十方一切諸佛諸大菩薩加持護念能令我等罪障消滅至心頂禮

已上無畏禪要文大同也

眞言曰「出罪方便梵語也」

〔三歸依〕略出經四左受菩提心戒儀。鸚鵡抄云五分云佛於鹿苑先授三歸依也。文釋云歸者趣也依者投也薩婆多云以三寶為所歸境優婆塞戒經云佛言為破諸苦斷煩惱受無上寂滅之樂以是因緣先授歸依也云何三歸夫佛為能說壞煩惱因得正解也法是壞煩惱真實解也僧者稟受破煩惱因正解也文

〔五發菩提心〕鸚鵡抄云菩提心為因大悲為根本上摧伏魔怨心口相應大誓約發其發願五大願也文略出經四左受菩提心戒儀

〔五大願〕儀軌傳授抄三脫云顯對四諦說四弘願密約五佛說五大願初願配阿闍者阿闍此云不動謂菩提心堅固不動義也故最初願緣阿闍發第二願念寶生發者此佛萬寶能生之尊福德莊嚴之佛故也而以無智之福是縛此福必應具智所以發福智之願也第三願念彌陀發者彌陀此云無量壽是內德也亦云無量光是外用也是則說法斷疑智慧門之佛也可知第四願念不空成就發者此佛誓令衆生成辦一切事業故也第五願念大日發者理智具足覺道圓滿之佛故也然密五大願約金界立胎藏通行而檢金本經軌都不載之出于今文及下無畏禪要三與尊勝軌此是密宗不共大願發之故五佛數雖過四而缺顯煩惱無邊誓願斷何耶案初願句淺略度他有情深秘亦斷自惑煩惱無邊誓願斷即在其中然斷自煩惱言度有情者如天台觀心三

唵ヲシ薩縛サハ播波ハハ薩佈叱サフキ娜訶囊ナカ縛ハク  
日羅野ニラノ娑縛賀サハハカ  
意云一切罪障為金剛智火被焚燒摧破證得大涅槃也

四歸依三寶無畏禪要作第四歸依門

弟子某甲始終某甲今身當今乃至當座當座

菩提道場七寶菩提樹下歸依如來無上三身

歸依方廣大乘法藏歸依一切不退菩薩

唯願十方一切諸佛諸大菩薩證知我等

至心頂禮一說無畏禪要文大同也

真言曰

唵ヲシ佛步ハツ欠ケツ  
義佛身三有義損減三有虛空平等義僧

五發菩提心無畏禪要作第五發菩提心門

汝等發菩提心諦聽菩提心者從大悲起為

成佛正因智慧根本能破無明業報摧破魔

怨汝等能發大菩提心應心口相應發大誓

願文

弟子某甲始終今日乃至當座菩提道場

誓發無上大菩提心

衆生無邊誓願度行願菩提心

福智無邊誓願集勝義菩提心

法門無邊誓願學

如來無邊誓願事

菩提釋光四記卽此意也乃又顯四密五者由約四諦五佛誓發門戶不同到其得意之地則可四五只是開合異然以門戶不同密五大願不與顯共顯四弘誓密中通行且如華提大明咒陀羅尼經左七令發四弘誓願入祕密法門卽其事也

〔略問遮難〕 鷓鴣抄云遮難障難也小乘身口七支遮難也不利行不同事也云々又云受生已來七逆罪遮難有否問貌也若犯之有之用勝義諦懺悔可消滅之云々勝義諦懺悔者理性懺悔也是觀無生懺悔也妙樂大師云行於事懺必藉觀心若無觀心重罪不滅文無畏禪要云先問若有犯七逆罪者師不應與授戒應教

懺悔須七日二七日乃至七七日復至一年懇到懺悔須現好相若不見好相受戒亦不得戒云々  
〔和尚〕 鷓鴣抄云旨歸云和尚者郁波弟耶(Upathyaya)此云常近受持什法師云梵語和尚此名力生又云毘婆婆論云和尚有四種一有法無衣食二有衣食無法三有法有衣食四無法無衣食文  
〔羯磨等〕 鷓鴣抄云羯磨(Karma)事業也阿闍梨(Acarya)軌範義也苾芻(Bhiksu)草名也柔順故譬沙門也  
〔三聚淨戒〕 出本業璣絡經大衆受學品鷓鴣抄云要覽云三聚戒卽大乘菩薩戒也一攝律儀戒謂惡無不離起證道行是斷德因修成法身持此戒止犯是二攝善法戒善謂無不積卽身口意善及聞思修三慧十波羅蜜八萬四千助道行等是智德因修成報身果持此戒作是三攝衆生戒又名饒益有情戒謂生無不度起不住道是

無上菩提誓願成——三摩地 菩提心

無畏禪要云今所發心復當遠離我法二相顯明本覺真如平等正智現前得善巧智具足圓滿普賢之心文

唯願十方一切諸佛諸大菩薩證知我等至心頂禮

眞言曰 發菩提心方便梵語

唵 冒地唧多 母怛跛娜 夜弭今我

意云 我今發生菩提心

六略問遮難 無畏禪要作第六問遮難門

諸佛子汝等從生已來不殺父否 無畏禪要云有輕罪者應須首罪必

不隱藏得大罪報乃至彼等突吉羅等小罪犯者亦爾無犯者答無

不殺母否 不出血佛身否 不殺阿羅

漢否 不殺和尚否 不殺阿闍梨否

不破和合僧否

汝等若犯如上七逆罪者應可對衆發露懺

悔不得覆藏懺悔也或依勝義諦觀罪性不內

不外不在兩間空無自性了不可得本來清

淨如是觀已了一切法無自性故離諸妄念

永斷相續方名清淨是爲殊勝懺悔能除一

切重罪已上理懺悔也諸佛子應當如是修學已上無畏禪要文大同也

七羯磨受戒

無畏禪要此一段在第六問遮難門中阿闍梨啓白 置如意取香爐

苾芻某甲師名也稽首和南敬白蓮華胎藏若金剛界大

思德，因修成化身果，持此戒作莊嚴論云：初一戒以禁防爲鉢，後二戒以勤勇爲鉢。

〔和南〕寄歸傳三云：言和南者梵云：畔睇(Vandana)或云：畔彈南譯爲敬禮云々

毘盧遮那佛及十方三世一切諸佛大菩薩聲聞緣覺一切賢聖咸願證明今有娑訶世界南瞻部州大日本國比叡山延曆寺於某房有善男子於我所發菩提心求受菩薩三聚淨戒其三聚淨戒者所謂攝律儀戒攝善法戒饒益有情戒此三聚淨戒能持否

私云弟子持トモ又トウトモ可云也 讚衆一人開居可教調受者

八求請加護

無畏禪要作第七請證明師門第八羯磨門置香爐取如意弟子取次第

弟子仰啓毘盧遮那三部金佛蓮五部寶剛金剛塵刹海會一切如來諸大菩薩無邊聖衆唯願慈悲以本願力降臨道場證明我等以大

〔四攝行法〕無畏禪要云：諸佛子等如上已發菩提心具菩薩戒已應修四攝法及十重戒不應虧犯云々 鸚鵡抄一云：私云：四攝者布施愛語利行同事也 布施者如法求財常思行施也 愛語者施已安處令住安樂利行自利利他平等攝取也 同事者爲利益故同其事業又如行而說爲布施無染心說名愛語授他無疲名利行離過安他名同事前是約財後是約法文

〔四障〕鸚鵡抄云：一於有情惡愛作事二平等誓願常恒不可有廢退齊限分量定事三所有所作悉佛界廻向スヘキヲ徒ラニ不爲大事因緣事四身心放逸不誠三業事已上此四障除斷スヘキ也文

〔三昧耶戒〕鸚鵡抄一云：三昧耶(Samaya)等持云也定慧功德等持義也又等至云此功德果地等至貌也又等念云平等一

威光加持護念令我身心堅固不動永無退轉乃至當坐菩提道場於其中間不爲一切煩惱及隨煩惱之所染汙我及一切有情亦復如是 至心頂禮 說三

九修四攝行法

無畏禪要作第十修四攝門

所謂布施愛語利行同事爲欲調伏無始慳貪及饒益有情故應行布施汝等能行之否 爲欲調伏嗔恚憍慢煩惱及利益有情故應行愛語汝等能行之否 爲欲饒益有情及滿本願故應修行汝等能行之否 爲欲親近善知識及令善心無間斷故應

子慈悲以念衆生貌也又調直定云文  
 〔四律儀〕 鸚鵡抄三云第一婆娑論云正  
 法有二種一世俗正法謂名句文身即經  
 律論也二勝義正法謂聖道即無漏根力  
 覺支道支也第二地持論云薩埵是勇猛  
 義精進義文正行者捨離邪曲行也誓者  
 心中誓求義願者外相行化貌也勤者正  
 勤也行者進趣也第四菩薩本行經云佛  
 者諸惡永盡諸善普會無亦衆垢諸欲都  
 滅六度無極皆悉滿畢文第四於一切有  
 情令離苦得樂文

〔四波羅夷及十善戒〕 略出經四左廿一 大日經  
 具緣品第二圓戒廣談卷第二云四重十  
 重トハ惟開合ノ異ノミ又云四重ト十  
 重ト義ニ依テ開合示ス云々又云是ヲ  
 俱密ノ具足戒トシ又總シテ三聚淨戒  
 ト名ク是レ最上乘ヲ奉持スル爲ノ十  
 重禁ナリ云々俱密不共十重此亦名十

行同事如是四法此修行處 汝等能行之否云除四  
 障兼行四律儀法已發菩提心具三昧耶戒  
 竟今入三密門即復應淨除四障四障者  
 一者於有情中及一切法中種々起不平等  
 見是第一障  
 二者於平等誓中作種々限量之心是第二  
 障  
 三者諸有所作隨名利不爲大事因緣是第  
 三障  
 四者放逸縱意不能警察身心是第四障  
 如是四障若纔起時即爲自損亦損於他是

善戒



故精勤誓願除斷應如是持  
 次應修四律儀名爲無作於其功德運々之  
 間自然增長  
 一者於一切如來正法藏中誓願解了  
 二者於一切菩薩正行之中誓願勤行  
 三者於如來度人門中誓願修集  
 四者於一切有情中以四攝法而救濟之令  
 離苦獲安樂是名四無作功德應如是持  
 十說四波羅夷及十善戒相無畏禪要作第十一重戒門  
 將入陀羅尼門復有四種三昧耶是踐如來  
 所行之迹必須專精四波羅夷誓無毀犯波



又云、彼ノ梵網ハ是レ理密一乘ノ比丘戒ナリ、蓋シ俱密眞言藏ノ戒ハ總シテ制シ梵網ノ戒ハ別シテ制シ給フヲ其不同トス、別シテ制スルトハ別別解脱戒ヲ結テ大僧ノ律儀ヲ立給フヲ云ナリ、今ハ不捨菩提心ト總制シ、或ハ彼ノ背大向小ト異ラズ、又不毀三乘教典ト制シテ偏ニ佛乘ヲ執シテ三乘ヲ毀謗セシメズ、宗祖ノ戒疏ニ背大向小戒ヲ釋シテ爲伏外道、讀其經書、亦不犯若學二乘法、爲欲引化、二乘令入大乘、不犯等ト判シ給ヘギモ亦却テ若撥無二乘亦名爲犯ト釋シ給フ、是今ノ不應毀三乘教戒ノ意ト全ク同シ、但シ總別ノ制、別ナルニ依テ重輕ノ名異ルノミ云々

羅夷者毘尼藏中廣明四波羅夷、一者不得捨正法而起邪見若捨正法是第一波羅夷不得犯能持否說三二者不得離菩提心若離菩提心是第二波羅夷不得犯能持否說三三者於一切法中不應慳恪於一切法中有所慳恪是第三波羅夷不得犯能持否說三四者於一切有情中起饒益行若於有情之中不起饒益行是第四波羅夷不得犯能持否說三既能如是護四波羅夷從一切智生終趣薩

此中不分明廣說三戒相是正總制道俗故也

〔巧色摩尼珠〕鸚鵡抄三云、大品云、如摩尼寶、若在水中、隨作一色、以青物裹、水色即青、若黃赤白紅、標物裹、隨作黃赤白紅、標文

〔第五、第六〕鸚鵡抄云、第五私云、已發心者、前一二三四マテノ戒行、說キナハ菩薩大行退窟モヤセン故、強不可說之云、貌也、第六私云、未發心者、前第五若有已發斷三寶種故、戒行說可ラス、若說之、自最初可發二乘心故也

波若此云妙智海本末堅固猶如金剛於一念中恒殊精進轉深轉廣常興義利如巧色摩尼珠應念出寶周遍法界無有齊限今更懇勸重說十戒相其十善戒相者是謂十重

一者不可退菩提心妨成佛故  
二者不應捨離三寶飯依外道邪見法故  
三者不應毀謗三乘經典皆佛法故  
四者於甚深大乘經典不通解處不應生疑非凡夫境界故  
五者若復有人已發菩提心者不應說如是

〔二俱損〕鷓鴣抄云、外道、瞋恨、增長、自心、菩提、退失、二也。

法令彼退、菩提心趣向二乘、斷三寶種、故六者見未發菩提心者、亦不應說如是法、令彼發於二乘之心、違本願故。七者對小乘人、不應輒說深妙大乘、恐彼生謗、獲大罪故。

八者不應發起邪見、斷善根故。

九者於外道前、不應自說我具無上菩提、妙戒、令彼以瞋害心、求如是法、不獨能辨退菩提心、二俱損故。

十者但於有情中、有所損害及無利益、皆不應作及教他作、見作隨喜、即於利他法中、及

慈悲相違背、故今授戒已、將紹法寶、如佛在世、無異此也。是真佛子、當補佛處、此法深奧、難可信受。

次回向發願

取香爐、此偈弟子並大眾取次第

弟子衆等、令令一本道場人、至心合掌。

稽首和南、具大吉祥、至於今日、已入

兩部界會、大毘盧遮那如來大曼荼羅主

得受灌頂、諸忿怒金剛衆、加持護念能

令我等誓當修習、悉地瑜伽祕密教門、悟入

眞宗法、無自性是名眞空性者、體性無生之

性、本來清淨、同歸實際、眞如平等性、空法體

〔眞宗〕鷓鴣抄云、眞言宗義也、卽無性眞空、實林也。

〔五供養〕見開私抄云問三摩耶戒時終授五供養方如何答示云凡秘密教意一座行法即諸佛正覺成就儀式也依三摩耶戒時安鈴杵行法也當世略之印明計授也云々

〔誓水〕鸚鵡抄三云凡誓水者師資相傳誓約也世間吞神水物如不改轉也入白檀事水惡氣拂料也又智慧天然性水事顯也

〔勝三世〕鸚鵡抄云瑜祇經云降三世大日經云勝三世又云聖三世文義釋云能降三世三界三毒故云降三世文念誦法云遜婆此經呼降伏義羅黑暗教王經云大黑疏云降三世文

圓明光明遍照實性身心清淨遍周法界悉地瑜伽一念相應知慧光明了達三世一切諸法無罣碍故能令我等誓出世間悉地成就

廻向之後未入壇者結緣灌頂者等令退出堂外然後敷薦(東向)

次五供養

多受者時初自五供養終至金剛線一人宛授之其間余弟子便宜所聊可立去先受之人亦可用意義真阿闍梨云諸佛加持七反師說惣加持用之此五供只是爲令弟子具功德也非供佛之具云々

先加持誓水 阿闍梨取白檀抹捻入水鬱

金龍腦同加入 次取五帖用勝三世明

加持廿一反 但左右轉

各三反 其咒曰

〔胎藏之意〕  
出普通眞言藏品第四

曩莫三曼多 囉日羅赧訶訶訶 三乘之行本不生即是佛

行 尾娑摩曳 薩囉切一怛他藥多 來如尾灑野

界境 三婆吠 實相從 但麗三路枳也 尾惹也 降也

吓 怖恐 惹 警覺 莎訶

次塗香塗手 師取脇机香授弟子押塗弟

子 双手也受者長跪自塗手是結印料也

私云教授人取塗香等與弟子也

次授淨三業眞言 教虛心合掌即授眞言也 查取次第

唵 娑囉婆囉 性自 秣馱 淨薩囉達摩 性一切法白

娑囉婆囉 秣馱 淨薩囉達摩 性一切法白

次護身眞言 不動刀印 右手自辟除結界加持 五處 三反 師弟共結誦

〔淨三業〕鸚鵡抄三云許可已前未敷(一)許可已後中指少開是佛性蓮花初割也(二)灌頂已後八葉印也授職故八葉九尊顯得貌也文蓋一說也

〔加持塗香等〕大日經一、略出經四左

〔塗香〕見聞私抄云、尋云、塗香、事如何示云、塗香、表戒體成就相也、凡西天法、必沐浴、次栴檀沈水等、名香、塗身也、戒法、又攝律儀、色體清淨、以法身、色體莊嚴也、云々、鸚鵡抄云、私云、今塗香等、明金胎、明長、故從、短借用之也、又云、私云、塗香、戒香、色相、即三摩耶戒成就、貌也、文

〔白華〕見聞私抄云、尋云、授白華、相如何、示云、華、必結、果實、故也、文云、萬行、爲妙華、以、因位、萬行、修因、必可表得菩提之果實、相也、即是華鬘供養、意也、文、鸚鵡抄云、白、花、八葉、白蓮、一、肘間、花、ヨリ、九、尊、佛、果、結、成、ス、ベキ、貌也、萬行、花、萬德、果也、文

〔燒香〕見聞私抄云、尋云、授燒香、相如何、示云、燒香、者是、精進、波羅蜜、意也、故、文云、功德、爲、焚香、文

〔丈夫〕鸚鵡抄云、弘二云、言丈夫、者、人、長、一丈、故、曰、丈夫、此、則、指、人、中、最、勝、者、方、名、丈夫、白虎、通、云、夫、者、扶、也、以、道、扶、接、故、也、今、亦、如、是、以、理、扶、之、方、名、丈夫、見、佛、性、理、方、名、丈夫、故、涅槃、曰、見、佛、性、者、雖、是、女、人、亦、名、男、子、男、子、即、丈、夫、也、文

〔燈明〕見聞私抄云、尋云、燈明、相、如何、示云、燈明、者、破、闇、用、有、之、智、慧、波、羅、蜜、表、示、也、故、文、曰、智、慧、爲、燈、明、文、此、意、也、文、鸚鵡抄云、私云、無、飲、食、事、法、喜、食、也、文

〔齒木〕大日經一、具緣品、第二、廿七、義、釋、四、十、同、六、略、出、經、一、左、鸚鵡抄云、私云、齒、木、カ、ム、意、師、令、弟、子、淨、除、三、業、宿、障、授、與、醍、醐、珍、味、貌、也、文、見、聞、私、抄、云、尋、云、齒、木、表、相、如、何、示、云、齒、木、者、是、飲、食、所、表、也、亦、是、禪、定、表、示、也、○、凡、西、天、法、客、水、臨、時、可、供、養、人、必、與、楊、枝、也、今、儀、式、亦、復、如、是、遂、傳、法、灌、頂、表、可、得、法、喜、禪、悅、食、事、與、齒、木、也、文、灌、頂、七、日、行、事、鈔、卷、中、云、次、當、授

曩莫三曼多 囉日羅 赧 戰拏 摩訶

路灑 傳 吽 授弟子掌 是即戒 波羅蜜 已下四種 供養真言及告 言共出 略出經四左 說灌

次加持塗香 頂法 中 先誦勝三世 明以杵 加持左右轉各三反 下華燈 師 授者 左手取器 右手取香 教弟子兩掌並仰 卽入塗香 于兩掌 令授真言 弟子取 押塗

願汝等得一切如來戒定慧解脫々々知見之香

次加持白華 是即忍辱 波羅蜜 授弟子掌 先加持次誦明 取次 義三身 囉日羅 剛金 補瑟閉 靈華 唵 子種

願汝等獲得一切如來大悲滋潤妙色

次加持燈明 是即般若 波羅蜜 令弟子視之 挑燈 寄弟子 而 前令視之 卽令

願汝等獲得一切如來智慧光明

次加持齒木 師先 作忿怒拳 挿齒木 花 向 上 水 火 背 與 地 風 內 捧一枝

願汝等獲得一切如來三十二大丈夫相 取 訖

次加持香爐 是即精進 波羅蜜 薰弟子雙手 師取香爐 指入 弟子雙手 仰下

願汝等獲得一切如來智慧光明

次加持燈明 是即般若 波羅蜜 令弟子視之 挑燈 寄弟子 而 前令視之 卽令

願汝等獲得一切如來智慧光明

次加持齒木 師先 作忿怒拳 挿齒木 花 向 上 水 火 背 與 地 風 內 捧一枝

與齒木令諸弟子嚼之因即視彼人成器  
及非器相所以為此法者亦是順彼方俗  
誦因用祕密方便而作加持也印度國人  
凡請僧食乃至世人相命皆先遣其齒木  
以種々香華嚴飾而授與之當知明日請  
彼飯(飲食)也所以如是者為明愛敬之心  
恐彼先有痰痕宿食因緣若受我供或令  
發動不安故先以善意將護而警發之令  
彼先淨身器或服訶梨勒等則明日隨意  
飲嗽無所犯觸身心安樂也今阿闍梨亦  
爾授弟子楊枝時即當寄此方便為說深  
法我方當授汝佛性醍醐極無過上味已  
教汝發善提心淨除三業宿障以三世無  
礙智調伏之牙噬諸煩惱竟今復以此祕  
密加持滌除身心過患汝又當淨其口過  
在所遊方勿妄宣傳明日當貽汝不死甘  
露皆令充足也又云當取優曇鉢羅或  
阿說陀木樹端直屬好者不危不細劑十  
二指量○此二木是過去佛菩提樹若無

者當求有乳之木謂桑穀等記木上下別  
皆以枝末為上根柢為下以香水灌洗又  
復塗香而薰之於其下末以白線纏華用  
為莊嚴亦作標誌令上下易知云々(略抄)  
略出經一左丁云若欲嚼楊枝時應先誦  
一切如來金剛微笑密語七返已嚼之此  
能破一切煩惱隨煩惱密語曰唵跋折囉  
賀娑訶上文

齒木—攝律儀戒—斷惑  
誓水—饒益有情戒—注護字法水  
金剛線—攝善法戒—五色系表通信念  
定慧無漏五根

佛齒木用五色花用杵左木加持之掛念珠于中指以五指撥反數不動慈救咒百反一說云先  
酒水三反次取塗香以右手塗五供養香次薰香爐次加持百反左右轉也云橫當額花方左奉獻  
之大日等諸尊誦普供養明而後還本所  
曩莫命歸三曼多遍普沒馱南諸佛薩嚩訶一切欠智一切  
種 搵娜藥底生娑頗羅哩唎遍普誡々曩欠空虛  
莎訶  
次取一枝弟子齒木用授弟子酒水塗香薰香弟子仰  
兩手花方成受之次授齒木偈取次第  
汝獲無等利 成辨於大事 汝等於今日  
位同於大我 皆以  
經作明日之即第七日也當得大乘生正受灌頂生  
收法界於我大我即大日一切諸如來 此教菩薩衆 皆以

攝受汝

阿闍梨下高座向高坐後邊 此時教授讚衆呼弟子持  
齒相共到高坐後邊

次嚼齒木

齒木為煩惱之鉢入牙菩薩  
弟子長跪向薦三味嚼之又占器非器也東向左手金拳押腰右手忿怒拳水火二指  
把木花方小以右牙令嚼尖方三反即誦明令嚼之 即  
誦一切如來金剛微笑密語三反可誦之取次第

東 薦(即茶羅也) 師 受者 教授

唵 嚩日羅 賀娑 賀娑

告曰 此密語能破一切煩惱隨煩惱 文  
以三世無碍智調伏牙能噬諸煩惱隨煩

### 惱結畢除身心過患

「一本云告曰：我方當授汝佛性醍醐極無過上味，已教汝發菩提心，淨除三業宿障，以三世無尋智調伏之，牙噓諸煩惱，竟令復以此秘密，加持滌除身心過患，汝又當淨其口過，在所遊方，勿妄宣傳，明日當胎汝不死甘露，皆充足也。」

即取齒木臨盥令洗洗大悲慈潤義嚼頭即用手巾拭  
 了受者嗽口令手巾而後令結普賢三昧  
紙或ハ耶印印末插齒木嚼方爲向東蹲踞臨薦成曼  
 茶羅想發信心令投之訖返取木如前置机  
 上勿濫佛與弟子  
 若嚼處向外悉地不成就 向身者成就

〔齒木好相〕 瞿醯經 上卷八左、十一右 義釋四  
 十略出經四 左十一 灌頂儀軌

遠擲却來近身不久成就 向上成就更速

首直，堅向上也

首向下者是人當入修羅龍宮

若擲在空中當知此人先已成就也

又向北方東方上成就 西方中成就 南

方下成就 但向東擲時嚼處向東不成就

也餘准此方類而可知餘如瞿醯經中說也

次師還高座弟子亦如本著坐受者長跪

次授與金剛水爵金龍鬚白檀等和合加入香水

密語曰 唵三身義跋折羅剛金剛鄔陀迦水叱子種

次令飲之三口三度以匙酌之弟子兩手受之以爲飲噉

〔誓水〕 瞿醯經 上右十一 略出經一 左五 同四  
 一十 義釋四 右廿八 見開私抄云 尋云 誓水相  
 如何答云 誓水者法性智水也故秘決云  
 以無漏妙香和鑊字智水吸之去煩惱塵  
 垢成法性器文鸚鵡抄一云 誓水無漏法  
 水吞有情乾田潤シヲサムトノ貌也

以祕密加持故乃至地獄重障皆悉除滅  
內外俱清淨堪為法器也

(二本) 告白 此即名誓水誓水合無碍戒光與大悲慈亦順世諦猶  
如盟誓之法今於一切衆聖前飲此香水自誓其心要令  
不退大菩提願也復以無碍戒光和合轉字門清白心水  
諸有飲觸之者皆必定成無上菩提如此清淨其心則堪  
入祕密曼荼羅也

### 次授金剛線

線有二條以五如來眞言各加持一色次以  
辨事眞言在右各三反總加持以并加持

先取一條在右不師繫自左臂護持自身一切  
線也不結之  
次取一條在左貫賜受者令繫左臂衣上  
繫之  
私云若不用加持者賜受者時誦五如來慈救咒兩明

次召結緣灌頂者 近代或此次回向 願  
以此功德云

〔金剛線〕 大日經具緣品義釋四右十四略  
出經四十灌頂儀軌云五色線五佛加持  
貫攝萬行令住等持臂歷經僧祇令不失  
壞故名金剛結文見聞私抄云問線義如  
何答譬如世人珠玉多畜不串收時速疾  
紛失行人設雖積諸行業無五根時其業  
失壞此故必用信等線又云廿一結相如  
何示云凡祕密成器表相也亦是結護義  
也結線一一以眞言加持之令具足祕密  
三摩耶也○尋云授母珠方如何示云諸  
佛成正覺必具十大弟子亦者具十眞十  
號圓滿爲表此等授母珠也文

次讚衆四智讚 同音打一反

次阿闍梨事了脫自臂線置前机上而後下  
座

受者出堂時不取之金剛線乍繫臂起去

遣夢 灌頂七日行事鈔卷中云次阿闍梨語諸弟子汝  
等臥去若有夢相明朝向我具說之各各用心不得造次  
向他漏泄作是語已次阿闍梨引弟子等從東階下各散  
歸房文

胎  
藏  
界



## 胎藏界灌頂私記標條

一、門前作法	酒水—師資加持—覆面—耳語	五一
二、引入道場	告言—授印明—告言	六〇
三、投華	告言—悲生眼—開面	六三
四、前供養	右方五供養 授印明	六四
五、寂災護摩	三摩波多 假施	六五
六、引入蓮臺	十二執供	六九
七、正覺壇作法		
八、繞壇		九一
九、教誡		九三
十、中間護摩		九四
十一、後供養		九五
十二、說三昧耶戒		九七
十三、傳法密印		九八
十四、最後護摩		九八
十五、結緣灌頂		一〇〇

1、新佛供養	七三
2、白拂	七三
3、繞瓶	七五
4、瓶加持	七
5、正灌頂	七事
6、換衣	八五
7、新佛供養	八六
8、祕密道具	八七
壹、覽字觀 (因灌頂)	七七
貳、鏡字觀	七九
參、五輪觀	七九
肆、十二真言王	八〇
伍、暗字觀	八〇
陸、正灌頂 (果灌頂)	八一
質、百光王	八四

## 胎藏界灌頂

### 一、胎藏法の名義

(Garbha kosa-dharmā)

胎藏とは梵語に藥縛俱舍達磨、此に胎藏法と云ふ此に二義あり、一に母胞胎即ち含藏の義なり、胎兒の母胎に託し覆育生長し四肢五軀具足して始めて出生するが如く、此の眞言門の大悲萬行に依て功德圓滿の淨菩提心を顯現出生するを名く、二に蓮華胎藏即ち攝持の義なり、一切萬法を攝持するは阿字本不生の義なり、此の理は如來一切の功德を攝持す、譬へば大悲萬行の蓮華は能く淨菩提心の蓮實を愛護保持するが如し。

### 二、灌頂の緣由

(Abhiseka)

灌頂とは梵に毘濕迦と云ふ。又此の式は天竺の國王即位の時に四大海の水を以て頂に灌き祝意を表す、密教には此の世法に倣て如法に行を積み加行成就して阿闍梨位を嗣ぐべき時に到つて壇を設けて此の灌頂の式を行ひ祕法を傳授して阿闍梨の職位を嗣かしむ、故に大日經義釋六<sup>廿</sup>西方の世人の灌頂の法を受る時の如き四大海の水及境内一切の河水を取り具に(五)寶(五)藥(五)穀等を置き境内の地圖を作て此の童子をして師子の座に踞せしめ種々の珍寶を以て莊嚴し所統の眷屬、其の大小に隨て列次陪奉し章陀梵志の師、衆寶に坐して以て其の後へに臨み此の寶水を持して以て象の牙に注ひて其の頂上に墮さしめ而して後に唱へて言して以て衆人に告げしむ、又古

先の哲王、人を治め代を濟の法を歎説す法の如く隨順して行する者當に壽命長遠なることを得て本枝繁盛し克く轉輪の業を紹くべし、若し是の如きの事を作さざる者は則ち當に自ら其の位を退き身を殞して嗣を絶つべし、是の如く一一而も之を教誨す、今此の法王子の灌頂も(亦)則ち是の如し密嚴佛土法界の大圖を陳列し妙法蓮華自在神通師子の座に坐し本性清淨の智慧慈悲の水、萬德を具含するを以て其の心に灌く爾の時諸の菩薩衆より八部衆生に至るまで歡喜讚歎して敬仰を生せずと云ふこと莫し時に阿闍梨、法王の遺訓を以て之を教誨す此れ從り以後常に如來の家に生ずることを得て定て佛位を紹く若し是の如く對し明さざれば則ち正法の尊重を知らざるなり。云々。

(原、漢文)

### 三、灌頂の旨趣

又此の灌頂を行ふ所以は其器を擇び法を相續せしめんが爲なり、故に義釋十一<sup>五</sup>に云く譬へは世間利利の種の如し謂く其の繼嗣を紹き王種をして斷へざらしめんと欲するが故に其の嫡子の爲に灌頂を作すに四大河の水を取て四の寶瓶を以て之を盛り種々に子の身を嚴飾して衆物咸く備へ又大象を飾て象の背上に於て餅を持し太子をして壇の中に坐せしめ所統舉く集て象牙の上より水を瀉て太子の頂に流注せしむ、此の水を灌き已て大聲を以て三ひ唱ふ汝等當に知るべし、太子已に位を受け竟る今より已後所有る教勅皆當に奉行すへし、今如來法王も亦復是の如し佛種をして斷せざらしめんが爲の故に甘露の法水を以て佛子の頂に灌に佛種をして永く斷せざらしむるが故に世法に順するが爲の故に此の方便印持の法有り此れ從り以後一切の聖衆咸く敬仰する所なり、亦知る是の人畢竟して無上菩提を退せず定て法王の位を紹き諸有る所作真言身印瑜伽等の業皆敢て遠越せざるなり。云々。(原、漢文)以て其旨趣を窺ふべし。

### 灌頂私記の梗概

#### 一、門前作法

- (1) 大鈎召印——此の印明を用て先つ弟子を道場の門前に招くなり大日經に是の如きを鈎印と名く諸佛救世者一切を招集し十地の位に住せしむとあるに依るものなり。
- (2) 酒水—含香—塗香——此等は皆弟子の身器をして清淨ならしむる者にして就中酒水は大悲の水を受者本の菩提心地に滌ぎ、含香は口氣を清淨にし、塗香は之れに依て防非止惡の戒行を具せしむる義なり。
- (3) 授 淨 華——此の授華の觀想は合行灌頂記にある如く此の華を授けて菩提の意を發せしむるなり、告言は大日經の住心品並に義釋に出る處のものにして、その意は凡夫の心は合蓮華の如くなるを以て、阿闍梨開敷せる蓮華を授けて汝が菩提心をして此の如く開敷せよと教誡するなり。
- (4) 加持護身——阿闍梨弟子の身を觀して五輪の相をなし印明の加持を以て弟子の身をして五輪曼茶羅身となし、支分生の曼茶羅を成就す。これ弟子をして佛の加被を蒙り灌頂の大事を受くるに堪へしめんとするにあり。
- (5) 覆 面——面を裹むことは生死の妄境を離れて惡趣の門を閉ち寂光土に入つて五眼の勝用を開かしむる義なり。
- (6) 授三昧耶戒——耳語して三昧耶戒を授くることは不捨正法、不捨菩提心、不慳恪法、饒益有情戒の此の四種の戒法に背く者は真言乘の人に非ず故に犯する者は佛道修行の命根を斷つを以て之れを授けて懇に諭すなり。

二、引入道場……受者道場に入ることとは分段生死の報土を出で、密嚴國土に入るの義なり、弟子壇前に立つは此所即ち曼荼羅の第一重(外より數ふ)西門の中心、二龍王守護の所なり、阿闍梨曼荼羅の諸尊に啓白し祈願し畢て入佛三昧耶及曼荼羅主の印明を用て弟子を加持し畢て告るに金剛頂略出經の文を引て未だ真言法教に入らざる未入壇の人に向つて此の法事を説くべからざる旨を諭して弟子を誡む蓋し機教相違し却て此の法を誹謗するの恐れあり、故に深く是を誡むるなり。

三、投華……曼荼羅に向て投華することは花の墮つる所即ち受者往昔の因縁法門の善知識なり之れに依て進趣修行して佛果を成するなり。又告言は阿闍梨、受者の投華得佛して真言法教の機なるを歡び歡喜の心を以て慰諭し、次に悲生眼の印を以て加持することは大悲胎藏の智眼を得て五眼具足する義なり。又開面は清淨の五眼を開き佛の智見を得ることを表す。

四、前供養……弟子大壇の前に於て禮拜し供養することは投華得佛の尊を禮拜供養するなり、了て阿闍梨得佛の印明を授く或は別所に於て授くることあり。

五、護摩——觀施……護摩は阿闍梨、弟子の滅罪の爲に修するなり、畢りに三摩波多を用ゆることは資の三妄執を燒盡して究竟成辨する義なり、僂施は弟子、阿闍梨の身に親く用ゆる物、即ち三衣の類を施す意なり、又今用ゆる所の文は師受施の時布施の呪願なり、弟子は師に力を盡して財施をなし、師は弟子の機に應じて法施をなすなり。

六、引入蓮臺——十二執供……受者を蓮臺に引入することは此の以後は全く唯佛與佛の境界に入るなり、資西に向ふは胎藏界の大日なり、復蓮臺に座するは即ち佛座に居するなり、本誓に依り十二執金剛此の新成の佛を圍遶して輔翼す、故に阿闍梨先づ資の爲めに護身し次に此の十二尊を供養す、正覺壇は處狭き故に大

壇に請して供養し畢て正覺壇に奉送するなり。

## 七、正覺壇

……總て顯教の中には衆生の成佛を説けども成佛の儀式を説かず、今真言教には衆生成佛の義理と併て其儀式を説く、此の正覺壇の作法は全く聲聞の授記に非ず、菩提樹下成道の儀式なり、委く分別する時は四教の成佛の相あり且く是を受者の座に就て云へば禮盤の虚空なるは虚空爲座の圓教の成道八葉の華臺は別佛の成道、蓮臺の種字の上に坐具を展ふるは天衣通佛の成道、草座は三藏樹下の正覺成道なり。是れ即ち四教一念の成道五智具足の密觀なり以下の作法皆此の意を以て推すべし。

(1) 供養——阿闍梨、受者は最後身の金剛薩埵なりと觀して此の新成の佛を供養するなり。

(2) 白拂——煩惱業苦の塵を拂ふなり、吉慶讚は八相成道の儀式なり、此の正覺壇の作法は専ら應身成道の儀式を用て自性の内證自受用の成道を顯すなり。

(3) 遶瓶——禮拜旋遶皆是れ受者の三摩耶成就を祈願する意なり。

(4) 瓶加持——此の五瓶は五佛五智の表示なり、然るに四瓶を四菩薩の印明を用ひて加持することは胎界は因曼荼羅なることを顯すなり。

(5) 正灌頂——以下を灌頂七事と名く。

(壹) 覽字觀(因灌頂) 弟子阿字方壇金輪の中に在り、其頂上に覽字を觀し智火發生して一切の煩惱罪障乃至身障を焚燒して體金輪に同じと觀す、即ち有漏妄想の身を燒て無漏法身の體を成するなり、此の如く觀想して了て先づ四瓶を以て弟子の頂に灌き次に中瓶を灌くは、如來覽字の智火を以て衆生の煩惱業苦の阿字を燒て灰となして了て更に鍍字の智水を以て死灰に灌て阿字本不生の佛芽の種子を生ずるなり。

(貳) 鍍字觀 前には覽字の智火を以て色心の諸障を燒き了て只本性の菩提心のみあり、鍍字の智水を灌

て淨菩提心の種子を生せしむるなり、又未だ佛身を成せず故に因灌頂と名く。

(參) 五輪觀 五印明を以て弟子の身を加持して五輪成身の觀をなし、五輪即ち五智の五佛の内證に安住し正しく大日尊と等ならしめんとするなり、以上を佛芽の灌頂と云ふ。

(肆) 十二眞言王 此の布字に依て弟子法器と爲り諸佛に等同じ身に三部四重の曼荼羅身を成するの義なり

(伍) 暗字觀 弟子前に既に五輪觀十二處加持等に依り大日塔婆身を成す、今頂上に暗字を觀し百光遍照し大日遍照身と同しくするなり。

(陸) 正灌頂(果灌頂) 大日の非因果を顯はさんが爲の灌頂なり、故に因果不二を表して四菩薩四佛大日と灌頂して是を正灌頂とするなり、即ち想へ弟子大日に同じと又想へ十方の諸佛に同じと、以上を佛果の灌頂と名くるなり。

(質) 百光王 今この百光は大日如來果地の徳なり、弟子既に灌頂を受け了て今又頂上に暗字を置けば轉して中臺大日と成り百光を放て身を照すなり、以上灌頂の七事畢る。

(6) 換 衣——灌頂の時の濕衣を脱して嚴身するなり、寶冠は五智具足することを表し、絡膊は無漏五陰戒定慧三昧惣持等の諸の功德身を莊嚴することを表し、腰線は定を表し、臂線は慧を表し、修多羅の五色は五智を表す、是れ亦應身の莊嚴を表するなり。

(7) 供養——人天に供養せらるべき表示なり、今始めて成道して供養するの徒なし故に師爲に供養するなり。

(8) 祕密道具——五股金剛杵は大日如來の五智金剛、諸障を摧破する體相なり、受者も亦此の五智金剛の體を得て法界に周遍して衆生の惑障を摧くべきことを表す、金錘は無智の眼膜を除て佛の智見を開くことを表し鏡は正しき自心の實相を見る形なり、法輪、高佉は妙法輪を轉し大法の音を周遍せしむるの表示なり、

以上正覺壇の作法畢る。

### 八、遶

壇……………三通行道して三重の行道院を遶り終て西門の二龍廂衛の處に到つて懇懃に禮拜して從來種々の事業を修して曼荼羅諸尊の加持を被り成佛して衆生攝化の爲めに同居土に出ることを表するなり。

### 九、教

誡……………又重て四重禁戒を説き受者をして自心を警察して正法の命根をして相續し法器を引導すべきことを教誡するなり。

### 十、中間護摩

……………受者今既に佛身を成し了る故に弟子心中の法界曼荼羅の衆會を供養する爲なり。

### 十一、後供養

……………種々の事業全く了る故に曼荼羅の聖衆を供養す師は令法久住の爲め般若陀羅尼を授くるなり。

### 十二、說三昧耶

……………即ち十重禁戒を説くなり自行化他共に止作の戒を基とす故に懇懃に三聚四波羅夷十善戒、十重禁戒と鄭重に之れを授くるなり。

### 十三、傳法密印

……………密印を授くることに祕密教を付屬して流通せしむる意なり。

### 十四、最後護摩

……………弟子入壇所得の三昧耶成就の爲め之れを修す、又十方神供、雜神供は影向の神祇を供養して其加護を祈るなり、以上を以て灌頂の儀畢るなり若し結縁の受者ある時は此の次結縁せしむべし。

〔幕〕 瞿醯經中初三行同左十一

〔八色幡〕 見聞私抄云問幡義如何答文云即法界衆生翻迷惑生動出解名為繪幡云々七色即表七覺分法祕密妙行八流是示八正道品深義宗是即遍照大慈大悲利生方便正觀助道種々妙色也文灌頂私見聞云問何故懸八色幡耶答八色八天三摩耶形故八色幡用也問何故東方白色取耶答白色諸色本也東方初故也云々

〔天蓋〕 見聞私抄云問蓋義如何答文云慈悲覆法界文遍照慈悲如覆法界行者觀心慈悲覆法界即是蓋義也

〔概〕 見聞私抄云問概義如何答文云概是表示金剛智用文概者即是杵也金剛妙智碎法界障事猶世間杵能如碎諸物若此智慧概立心壇中無始障無不摧破義也

〔標〕 見聞私抄云問鳥居門義如何表木

### 胎藏界灌頂次第

先莊嚴道場

以大幕二帖始自東北角引之以外表爲亦讚

衆座曳之

道場八方懸八色幡白、紅、黑、烟、赤、水、黃、白、自東順右旋懸之

壇上張設天蓋

道場近東後方除行道所懸曼荼羅佛面西向

大壇對曼荼羅立之下五寶等共以絹一匹敷

壇上并引廻立概標引五色系

灌頂壇大壇西北邊立之壇東立禮盤

半疊之上敷蓮臺其上敷草座是受者座也壇西

爲鳥居門義釋是云通門答密教無釋天台大師釋門左右空假二觀門即中道也從法性中道門往來法界情機入阿字門即是鳥居門密義歟

〔茅環〕蕪悉地經持真言品第六云若供養時若持誦時若護摩時應著草環以著環故罪障除滅手得清淨所作吉祥文

〔敷曼荼羅〕自在金剛集三云山門ニテモ流ニヨリテ敷曼荼羅ニ座ト月輪バカリ畫キタルヲ用ユルヲ法曼流ノ敷曼荼羅是也出釋醮經中右五

〔五瓶〕釋醮經中右十一胎隨要記灌頂七日行事鈔卷下胎隨要私記云或說四寶所成者所謂五藥五寶五香五穀也文釋醮經中右十一其應置瓶勿黑及以赤色端新作勿令闕損輕及端圓盛香水滿及置

五穀五寶五藥繪綵纏首及纏華鬘並著華菓枝葉云々文五香法華觀智儀軌出造壇法之中見聞私抄云問五瓶中入五寶五藥香水妙華意如何答五瓶五智如來也故大日瓶等云五寶者是大慈五種道品以五寶五教並令得五智安樂大悲五種祕密以五藥五道衆生拔濟五住困苦表示也香水者五佛瓶中滿滿頓漸祕密水洗除法界有情五障事相表示也私云義釋安置五種五寶智寶除五種過患生五種五穀善苗ト云テ五香事不演之五香者釋醮經說也令有五種香味意也妙華者是菩薩因花法性五智理水中五品六根住行向地等萬行生長也亦是如來樹王萬德枝條花果等也文

〔五部鈴杵〕面授抄云他流兩壇用之當流計不置之合灌立之○合灌時中瓶東佛中臺中間可立之合行時亦帶瓶立東

禮盤敷半疊是阿闍梨座也壇南立机壇與蓮臺中分立之護摩壇 大壇西南邊對正覺壇立之以絹四丈可引壇中心置葉火爐滿炭火禮盤上敷草座禮盤左敷草座受者座也淨蓮 大壇之西南護摩壇直東屬南壁東西敷之筵之西端有小牀子打懸濕衣料也上安淨衣並師布施筵之上東寄立机上置廣筥蓋入寶冠一臂釧四茅環二修多羅一白繪一花鬘二修多羅一又後邊壁寄立白傘門前机便宜所立之机下邊置香象机北端置灑水瓶一葦花并散杖拂之次白花華造次含香次塗香 南端覆面 白疊安之

廂曲 門前便宜所立屏風敷座 讚衆座 便宜處敷之

次排比供物

大壇 四端敷食道色白其上備四面內外供飯餅均供菓美羹

十二執金剛等供小飯之上挿時菓子一

果盛小土器四方花瓶外一器花瓶內各一器四方壇門火舍左右各一器

此四執金剛四菩薩四使者供養之料也

其壇上可敷曼荼羅

羯磨四枚四角引入置之

五瓶於灌頂壇加持了阿闍梨入道場以

南或東北立之敷曼茶羅迴方故付彼意也。塔鈴者中臺與西佛中間立之輪西佛與般若菩薩中間立之或塔鈴下敷之餘四鈴杵四面火舍內方敷曼茶羅緣也立之云々

〔十方神供〕見開私抄云問四卷略出經廿五丁(不空譯)說八天六卷略出經說十天也今何用十二天耶答經不說師加也此意世間利益最上不過日月故用也問如祕要記用十七器何今用廿杯耶又或說廿一杯用其不同如何答十七器時十天供意也九天九器毘沙門前八杯供廿杯時一天十一器毘沙門九器也其故毘沙門眷屬八天有之謂大黑聖天訶利帝母也廿一杯時加曠野神供也前後合四十二器也問請諸天事灌頂始終御座何用撥遣耶答初請本土今撥遣不送本土其騰懸方大壇撥遣也

〔雜神供〕灌頂七日行事鈔卷下云阿闍梨把香爐出領六弟子一弟子各執一事一人執華水二人共與煮熱五穀一人擊食盤一人擊蜜水鉢(蓋)一人把炬火隨阿闍梨從後行之普皆施與一切陪從並及守護諸鬼神等乃至周遍散施與一切餓鬼之類悉令滿足四方上下總散已○次阿闍梨洗手漱口入道場中文見聞私抄云問十方神供與曠野神供不同如何答內道場勸請諸天上首天也其外無量眷屬有之故堂外天眷屬天云也故曠野神供眷屬天料也尋云諸天飯上飭有意如何答菓子等キザミ合置事如世間法佛下物故也

前置移大壇以白帶瓶置大日座上赤南東黃南西青北西黑北東帶瓶置八葉四角畫瓶上左机灑水後夜香水入之塗香名香居箱右机佛布施九裏香爐箱置之若略香呂箱者居箱置此机

灌頂壇 一面內外供備之蓮臺方內供禮盤方外供開伽等器用新物南机上西端筥入道具置之中鏡四邊五段金鏡法螺銅輪白拂入之東端立五瓶羅醴經上九寸可入香水五寶等各裏五色帛以五色帶繫瓶頸謂一結片力中白加散赤東黃南青西黑北護摩壇 爐右油粥飯生大小杓扇火箸

置之 前芥子粳米胡麻房花散花香酥蜜乳木決云三四十計桑木用之置之 爐左灑水嗽口置之 十方神供 先以淨葉敷設十方位草座也始自東方散之

次備稠粥入堅粥上加惣置一處以印真言加持之加持飲食須彌王一字心水輪觀然後各々位所置之

正北八器左右各四器三方及四維上下各一器上方料東方帝釋北下方料西方水天北都盧十七器也并初後二度三十四坏設之 雜神供 如常修法等神供一桶可設之

〔灌頂加行〕授法次第云灌頂加行五十日初佛眼但持明續者三十日又三七日已後可授此加行中先度所殘尊法可傳授之目錄有之灌頂了印信密印等可授之所殘尊法可授之目錄有之

〔道場〕灌頂私見聞云戒堂門前內道場三不同如何答戒堂法身如來振舞門前報身振舞堂內應身一往如此分別真言云三身九身故故於大壇中臺大日如來法身也四方四佛報身四角四菩薩應身也又於正覺壇正唱三身成道其故結得佛印明誦吉慶漢語問指傘以白拂法身成道也サテ酒五瓶水報身也後嚴身應身成道也サテ此後繞壇三通前順從因果今地林道可三通也雖然忌逆順三通也此意出界內同居士利益衆生意也是蒙本佛加持出如大阿闍梨已成力蒙新佛出利衆生也故三通也文

行明相以前可結願云々  
〔三通繞壇〕見聞私抄云問何故要胎時大壇三通繞壇答初一返出同居意也次一返出方便士意也次一返出實報土意也故回三土向寂光土意也

〔神供〕瞿醯經中入鸚鵡抄一云古抄云蓋開成大願善處以神供爲先崇靈神祭

### 胎藏界灌頂私記

五瓶加持 入堂已前於灌頂壇加持之作法在別

加持了移瓶於大壇

神供總加持 在前

先阿闍梨入堂 讚衆爲先 在前發音四智 打鏡

鉢受者以傘蓋 侍後蓋阿闍梨入堂 但

到堂前受者留堂外廂曲所令隱居也

次阿闍梨入堂內後 與讚衆前 三通繞壇間繞

次阿闍梨禮曼荼羅就座

- 次前方便 常如 次啓白 讚訖鏡打切始用打鳴
  - 次神分祈願 如私記祈受者 次供養文 長音若中
  - 次唱禮 起居 次驚覺 明印 九方便 以上供養文唱禮九方便弟子在壇室外
  - 次發願 廣略用否 五大願 同音共起居誦之
- 讚衆並受者發願之後誦不動真言振鈴之後念誦佛眼真言咒是爲祈三昧耶成就也但近代初鈴後誦大讚等仍念誦少許歟

次供養法 乃 普供養 先供養 次讚 限也 大讚 打一反

佛讚 三反或一

普賢讚 一反 四智讚 一反

次神供 現行道場係修之 諸天讚漢音



庭以佛事為始，文神供，私記東尾座主，教  
四記也。文帖決云：神供時，中安四臂不動，  
二臂身是本身也，更現四臂，是雜類者，易  
見身也，仍安此身，凡先請不動者，雜類者  
來時，且為護行者，且為止，狼得小力者，不藉  
平等與食也。○又云：施飲食，須彌王等，印  
施無畏，印相彼鬼等多畏，故不能受食，故  
爾也。

〔雜神供〕義釋六右云：次又出外施曠野  
神食云々。瞿醯經中八十

〔酒淨自身〕面授抄云：阿闍梨自修神供，  
時外部天等並鬼類等近付，故阿闍梨身  
穢心地有之，故用酒淨等也。  
〔佛布施〕瞿醯經中十八云：所有諸尊一  
一奉施，上妙新淨衣服，自餘諸尊各奉一  
疋，或若不辨各奉三部，主尊用兩疋衣服，  
或若但以兩疋衣服，置箱中奉施，內院運  
心普施一切諸尊，然後各誦諸尊真言，七  
遍，其曼荼羅主真言持誦百返，已上其三  
部真言各誦百返，然後次第應作諸尊手  
印，持誦三遍，如是作已，悉皆歡喜滿其所  
願。文

〔就座念誦〕胎隨要記云：阿闍梨還就本  
座，義釋云：然後住瑜伽座，以五輪字，特身  
首置百光遍照王，以無垢眼，觀自心華臺  
本不生字，方作普門持誦，先於毗盧遮那  
心月中炳現真言，而後持誦，並示密印，周  
遍中胎藏，已次及第二院諸尊，私云：中胎藏言  
乃至終竟，三重云，或一一現前觀之，而作

阿闍梨自座起 講案一人，在前順以指燭付，繼燭 順廻堂內三迴

供之 二手捧器誦，贈  
先正東一器 帝釋天並毘那夜迦 次正南一器 娑囉訶天並

次正西一器 水天並藥囉羅  
次正北八器 右方四器多聞天等部類眷屬 左方四器茶吉尼羅刹又毗者々部多等自中左右供之 已上一周竟

次東北角一器 大自在天並眷屬 次東南角一器 火天並眷屬

次西南角一器 羅刹主並眷屬 次西北角一器 風天並眷屬

次東方一器 上方梵天並眷屬帝釋北 次西方一器 下方地天並眷屬水天北

神供畢，阿闍梨出門前灑淨自身，超薰香入也。

次奉佛布施 為衣服施 阿闍梨還就禮盤取佛布施，先灑淨薰燒香而奉獻諸尊 兩手捧之橫 誦普供養明奉之若召入讚衆令修十方神供之與彼同時供之。

次就座念誦 普門持誦是也

先布字八印無所不至 其後自若以先弟子於師邊可結諸會，又諸會不必盡之根本印 無所不至 胎藏八字 行位 薩埵 佛眼 念誦 無所不至 薩埵 佛眼 各七及

持誦或自身作彼本尊於其心月現真言字而作持誦乃至頓作曼荼羅身而作持誦隨行者觀心勢力若不能爾當以一心誦部主真言百遍隨所餘上首諸尊各誦七遍並作彼印也具如供養次第中說云

〔移瓶〕略出經四左七 瞿醯經下六 鸚鵡抄一云五瓶五佛智水也是移覺壇出化他貌也

〔鈎召〕見聞私抄云問授職灌頂初先弟子鈎召義如何答文云鈎召是即諸佛四攝法門也表示攝召人天安置佛果乃至鈎召三途有情安處善所故阿闍梨灌頂始鈎召印結弟子表引入佛位也文大日經云如是名鈎印諸佛救世者招集於一切住於十地位文

〔加持酒水〕大日經二左六義釋六丁初瞿醯經下右二鸚鵡抄一云祕要記用不動明常流用勝三世明私云勝過三世貌也文

〔含香〕合壇灌頂記云消滅輪迴生死口業成清淨口輪文

〔塗香〕瞿醯經卷下右二丁〇合壇灌頂記云先塗手塗頂上消滅輪迴生死身業成清淨身輪次摩心八葉上消滅輪迴生死意業成清淨意輪文

〔授淨花〕義釋一三〇合行灌頂記云授白蓮花授白蓮華阿闍梨告曰一切諸法以心爲本一切衆生悉皆有心凡有心者皆當成佛當知衆生自心即是諸佛如來菩提涅槃是故一切諸佛菩薩以心真言爲

念誦畢後即頂戴珠未入定以前從座而起頂禮諸尊反三

南無歸命頂禮蓮華臺上摩訶毘盧遮那如來十三大院諸尊聖衆悉地成就

次起立啓白 我今爲某甲灌頂惟願諸佛

菩薩降臨道場受我供養 諦想所請佛

菩薩衆皆來集會

次召入承事謂衆之中雜役人也令取去禮盤便宜所若堂外

次移大壇五瓶置灌頂壇側花机上以挾木白赤黃青黑次第

取之隨本方中四角立之取大壇酒水散杖指中瓶之口

次阿闍梨出道場立於門前結誦大鈎召印

明如弟子召之弟子召之隨召弟子起而曲所

曩歸命阿一切佛薩阿縛阿怛阿羅阿鉢阿羅阿底阿訶阿諦阿

怛無他得藥得黨得來得矩得奢得鈎得冒得地得浙得里得也得鉢得哩得

布羅迦足滿娑縛賀

次加持灑水先以許左右轉誦勝三世明加持香水

次灑淨灑弟子頂三返

次含香取丁子一粒與受者含口次授塗香令塗手弟子兩掌仰並

又師右手捻塗香塗弟子心上誦明大原記同

唵身三嚩日羅剛金獻弟香塗虐子種

次授淨花弟子仰兩手承花立表行者菩提心師即說言住心品

云

所入門，自心能發，大菩提心，自心能修，萬行法門，自心能顯，佛等正覺，自心能證，大涅槃，理發起心，方便嚴淨心，佛國從因至，果皆以無所住而住，其心中然衆生，根鈍難悟，心相故授八葉蓮華，以示華王之果，德私云，是即授白華於弟子，所以也，灌五瓶智水，令生佛種之芽，莖佛以此有相，方便顯彼無相之妙理，強化難化衆生，引入難入佛道，汝深信此旨，須發上求菩提，下化衆生，大願是名真實佛，汝已作佛子，今日以後，乃至成佛，行住坐臥，語默作，莫廢忘此，真言成佛，行業是名授華，觀文胎隨要記云，宣說住心品中，菩提心實義，令知自歸依處，作真正發心，至誠懇重憶念，一切諸佛，住云々文

佛言，一切智々，菩提心爲因，大悲爲根本，方便爲究竟，云何菩提，謂如實知自心，自心尋求菩提，及一切智，何以故，本性清淨，故釋曰，衆生自心，即是一切智々，如實了知名爲一切智者，是故此教，諸菩薩直以真言爲門，自心發起菩提，自心者本有菩提心，即無點阿字也，即心具萬行，(惡)見心等正覺，(點)證心，大涅槃，(點)發起心，方便，(惡)嚴淨心，佛國從因至果，皆以無所住而住，其心云汝等當如是發菩提心，告言了取返花，置本處，是即因花成就，觀也次師爲弟子護身

〔五輪〕義釋六右，鷓鴣抄一云，外五鉢，阿私云，阿字情非情地盤，唱之，五鉢即五大也，八葉，鑲私云，鑲字本有智水也，八葉水大澄淨，義也，火印囉，如上，離染字，沙汰，轉法輪，憾私云，風大言音，則法輪也，依之摧破業風也，大慧刀，欠私云，以大慧空妄，想義也，大日經云，此大慧刀印，〇能斷於諸見，文欠等同虛空，字鉢也已上弟子，不淨五大，五智法鉢，加持義也

〔入佛三昧耶〕合壇灌頂記云，由此印真言，加持故，汝得入大日如來等一切如來，真如境智之中，成無所不至法界之身，是名佛部法界真如之相，文

先阿闍梨觀弟子身，作五輪相，結五輪印，誦五字，明加持五處 臍下古五 臍上葉八 心印火 額轉法輪 頂刀大慧 次弟子，心華臺，潛在淨 置阿字，佛頂印 曩〇南歸命一 阿子種 即想於其心華臺中，有阿字，即同大日之體

次弟子，頂上置阿字，可觀金色 入佛三昧耶印明，印頂上十指，表十界(託胎) 曩莫命歸三曼多，遍普 沒馱南，諸佛一切 阿三迷，等無 怛里，三迷 三摩曳，本誓 娑縛賀，成就圓滿，究竟涅槃

意云 歸命一切諸佛無等，三平等究竟圓滿

〔法界生〕合壇灌頂記云、由此印真言、加持故、摧滅焚燒法界妄想、汝心月蓮華周遍法界、即蓮華部法界真如之相文

〔轉法輪〕合壇灌頂記云、由此印真言、加持故、汝成金剛薩埵之身、轉妙法輪、摧滅一切魔王惡鬼、悉皆令住金剛部法界真如文

〔金剛薩埵印明〕合壇灌頂記云、由此印真言、加持故、汝心蓮阿字變成暗字、變成周遍法界、遍照王大日文

法界生印明

印心上 不投擲 火印、三指、表三毒大空 三昧燒、三毒也、出胎

○南達磨馱都

界法 薩縛婆縛 本性句含也

意云 歸命一切諸佛我同法界自性

轉法輪印明

印齊輪上 轉法輪、掌大智、入指、八輪、二大指、心捧也

曩莫三滿多

縛日羅 諸執 縛日羅 剛金

怛摩句 哈

身 哈也 意云 歸命普遍諸執金剛同我身金剛

次金剛薩埵印明

五股印印 身五處

○極戰拏

摩訶 嚕灑拏 咩 咩 子種

想彼心中阿字 轉為縛字

縛字、金剛薩埵也 弟子、可觀金剛薩

成金剛事業

〔自護身〕義釋六左初

〔覆面〕大日經三十三轉字輪曼荼羅品、義釋六右、大教王經下左、瞿醯經卷下右、丁金剛頂瑜伽文珠師利法品、降三世大儀軌、見聞私抄云、問何故覆弟子面、入道場、又白、繪者如何答、面裏事、如閉惡趣門、云也、其故、無始已來、現妄境、被封未入佛家、故今離生死、妄境、入寂光土、時、閉衆生肉眼、可開、五眼、勝用、白髣者、唐土糸太、織絹也、文覆面、未除、無明、位、投華了、マデヲ地前三劫位トス

〔三昧耶戒〕大日經卷二右、受方便學處品第十八、義釋六左、十

次阿闍梨自護身

師亦更以三昧耶等而自護持

教王記云、如先加弟子也

次覆面

阿闍梨取白髣、先以不動真言、如法作淨髣

復用本部真言、三轉加

持之、然後周覆弟子面門

次授三昧耶戒

師當深起慈悲護念之心、耳語告彼三昧

耶戒、勿令諸未入壇者聞聲、偈曰

佛子汝從今 不惜身命故 不應捨正法

〔引入〕鷄抄云、入佛印如前、三通、三土也、但穴太入佛印、端取引入密語、門前內堂、中間誦也、至內堂無念貌也、仍師右手、以引入事、權智化他、心也、又智慧、門戶、引入義也、文灌頂私見、問云、問何故、今道場必隱不見、人耶、答內道場、物深、隱事、非界內、相也、三界六道、凡夫、非其境界、相、表、又王內、評定、非、民、知、所、能、々、可、思、合、又、十二、執、金、剛、灌、頂、已、後、隨、遂、也、是、即、本、誓、也、云、  
文

〔受者邊壇〕灌頂私見、問云、三通繞壇、可依曼茶羅、十三大院、皆用時、不繞壇、一曼茶、投華也、サレハ覺大師、大勇金剛、號是則薩埵、金剛號也、此時、用四重輪壇、覺サテ中臺八葉計、用時、繞壇也、今受者、五大院、立投華也、故、不、三、通、不、可、投、花、覺、文、  
〔阿闍梨言〕瞿醯經下左二

捨離苦提心、慳恪一切法、不利衆生行、佛說三昧耶、汝善住戒者、如護自身命、護戒亦如是、應至誠恭敬、稽首聖尊足、所作隨教行、勿生疑慮心、次師結火印、觀弟子頂覽白字、字、四邊遍有光焰字、中又遍流出白光、如淨滿月之輝、以此淨法界心、所加持故、能除內外諸障、  
囊○南歸命一諸佛子覽、次引入道場從是十地、中入初地、到大壇、經過十地、則超十地也、阿闍梨教令結入佛三昧耶印、口誦密言、師

以右手執取其印末、引入壇場、此間令越香象至第一重門、二龍守護之處、令正當門、廂立不得前却弟子立門中心正、向天日尊、師立其北、阿闍梨應作是言、我某甲如法作此曼茶羅、將弟子入隨其福德宿善種性宿緣及與成就所堪上中下等、三品成就、法器唯願於此曼茶羅中示現其相於曼茶羅中、現放光等、異相也、次師自作入佛三昧耶印、置弟子頂上果佛位、引入、誦真言、三返加持義也、次作曼茶羅主印、置弟子頂上當會、大日也、誦彼真言、

〔告言〕略出經四十二面投抄云胎部經無事金引用云々

〔示位注記〕面授抄云示位注記坐壇左右時佛左示位右注記也一方坐時佛方示位壇前方注記也示位上位故也  
〔投華〕瞿醯經下右示上中下成就相而授抄云慈覺大師御說唯以三度爲限ト云ヘルハ三度マデ不當佛空處ナラバ弟子出門前重如前加持作法又入道場

可令投華佛當タラバ何佛凡只今一度ニテ可定之也○見聞私抄云問以華投佛意如何答文云海者是即真如理手持華者即是菩薩也文今以花投佛表菩薩成佛也問見花墮所告之意如何答有障行者誰應行業理故明師告其行業實因稱實果也問開面見曼茶羅其意如何答是說三種妄執已除奉見本源真如理佛也文灌頂私見聞云著尊頂成就佛部諸尊意也可思又中蓮華部下成就金剛部可思也又依著尊遠近一生二生可成就也八葉外其成就久可思也餘四佛四菩薩投華又多生曠劫宿習深可思也惣投華作法直立兩手指指出シバラク振サテ擲也今比投花其相不如法也文  
〔告言〕瞿醯經下卷六行左  
〔悲生眼〕大日經密印品第九鸚鵡抄一云大悲胎藏眼智得五眼具足義也文

五股印 曩○南切諸佛一阿

次告言弟子此間猶不解前引入印也

此是三昧耶金剛契契盟契約義也汝若向未入壇人說者令汝頭破裂汝於我所莫生疑慢應當深生敬信汝於我身當如執金剛菩薩我所教誨當盡奉行若不爾者自招其禍令中天死墮地獄汝應慎之

次投花

師以花鬘令掛弟子印上自本所作之三昧耶印也華末大指方也以至誠心向曼茶羅擲花之大悲滿行花也隨花所墮之處當知即是行人往昔因緣法門善知識也依

此方便進趣修行也

看花示位東寺樣不限度數只以著大日爲限今家依慈覺大師御說唯以三度爲限隨所得授傳法阿闍梨位云

次應開面開佛眼令瞻觀曼茶羅以歡喜心而告之曰汝今觀此妙曼茶羅深生敬信汝已生諸佛家諸明尊等同共加護一切吉祥及與悉地皆悉現前是故堅持三摩耶戒住在此佛家以戒爲本故於真言法教應勤修習此告言責師共如本向壇立言之次以悲生眼印明加持弟子兩眼先左右 曩○南切諸佛一誡々曩虛縛羅無上落吃又憚相迦嚕拏悲摩耶體但他曩多來如作吃菊眼婆

縛賀

意云、願如虛空、無相無碍、成如來大悲眼、隨要記云、受明灌頂、法先出印明、後出告言、此極可也云々、悲生眼、之後即令禮曼茶羅、是師之用心也、文不說之云云

次令弟子修五供養

受者禮所曼茶羅聖衆供養也

禮曼茶羅之後壇前半跏座、右方五供一々捧供之、常如此、此間師猶立也

先闕伽 次塗香 次花鬘 次燒香 次

飲食 次燈明 次普供養 次讚四智若、加入日小

次授所得尊印明

受明灌頂時、授以一印、令座一處誦之、教王記云、只授大日印明、五股印、歸命阿

〔五供養〕 瞿醯經卷下十二行左

〔所得尊印明〕 瞿醯經卷下初三行 ○傳法要決四云、示云、智光後記、授金剛號、事云、示大日者可云、遍照金剛等云々、若爾者、授華尊、縱餘尊、密號、既可、大日所得印明、可授大日、歟、口決、此意見、雖得、何尊、可授、大日、云々

護摩壇——滅罪生善(空) 大壇——大日自受法樂(中) 正覺壇——表他受用八相成道、化儀(假)

〔護摩〕 鸚鵡抄云、私云、護摩、梵名、Homa者、燒淨、義也、所以燒五住、煩惱、顯五智、如來、燒三、惑、塵垢、成三觀、法林、貌也、云々

〔寂災護摩〕 大日經左九具緣品、義釋六右八、瞿醯經下、左、一面授抄云、寂災、息災也、此護摩、山門、阿闍梨、勤之、或用手代也、東寺護摩、師別必置之也、仍大阿闍梨、護摩事、無之也、山門、縱用手代、三摩波多、阿闍梨、勤之、云々、見聞私抄云、問灌頂之時、護摩、如何、答今、護摩、爲成就受者、三昧耶、修之、故名、寂災、等也、凡寂災者、滅罪、義也、降伏、義也、云々、尋云、三摩波多者、其義如何、示云、三摩波多者、此云、事究竟成就、義也、護摩者、滅罪、義又降魔、義也、次灌頂者、生善、義也、又正覺成就、義也、正覺成就、畢、必證三德、祕藏、妙理、以之名、三摩波多也、云々、尋

決云、令坐一處者、有多弟子、故去壇前、令座一處、召餘弟子、若有一人時、不必去壇前也、云々

次引入餘弟子

一々如前

次寂災護摩

決云、彼、夜先、火爐、加炭、火、令熾炎、

師即著護摩壇

決云、不用、懺悔、禮佛、等、此、護摩、爲、弟子、滅罪、修也

先加持香水、灑淨諸物、次加持供物、次

去垢

次清淨 次光澤 次羯磨 次金剛輪

火天段 如常

淨火 扇火 投房花 合掌誦偈 召請 四字 嗽口 取杓法 油 粥

云。三摩波多時以杓三返轉受者頂上意如何示云轉三惑以法性智火斷除之義表也云々

飯。生各三反花。乳木三枚。芥子。粳米。胡

麻各七反。香。大杓油。祈願。嗽口。投

花。撥遣

諸尊段 如常決云一曼茶羅衆會請供之云々

淨火。扇火。投散華 曼茶羅主明一阿子種

合掌觀尊 急可想一曼茶羅大體。召請 大鈎召印。粥。飯。生

四字。嗽口。大杓油 已下三。粥。飯。生。

房花。乳木三枚。芥子。粳米。胡麻。香。

大杓油

次以寂災真言護摩一々諸尊各七反

但勞故唯惣三反許投之

唵薩婆幡波一切薩波多破摧娜賀那燒焚唵日羅

耶爲金剛婆嚩賀金剛者即慧火也

次三摩波多法 聖裏書云即授灌頂之夜握大指微香告曰是名三摩波多護摩法等將弟子

於護摩處於阿闍梨左邊座草座阿闍梨左手

乍取杓作忿怒拳覆以小指鈎弟子右忿怒

拳拳而仰大指用曼茶羅主真言用牛酥護摩

七反 小杓

囊○南歸命一阿子種阿

復以寂靜真言護摩牛酥七反 小杓

復以牛酥用同真言於其弟子頭上右轉三

反而作護摩小杓是名三摩波多護摩法也

三摩波多(samadhi)者梵語究竟成就之義也



次嗽口 次投散花 奉送花常右方投之然而大壇方送意左與投後 次奉

送 已上護摩竟

復以袖袋繫於右膊 復以塗香塗手按其胸上隨意持誦 誦香真言如上 而發遣去 袖袋塗香現行不修之

若有他弟子者皆如先作法可作三摩波多法

次觀施法 阿闍梨身親用物可施之云意也

師大壇南門前向西立召弟子師前也西長跪兩手橫棒布施若有受者師向資讀文令弟子取次第

弟子先當奉獻衣裁二通然後捨施餘財阿闍梨受施 師受施之時布施咒願云々 而告之曰

〔觀施〕 羅醯經下右大日經二右一義釋六十鸚鵡抄云行者隨身衣服捧ベシ假者施也○大日經云行者護摩竟應教令假施金銀衆珍寶象馬及車乘牛羊上衣服或復餘資財文○五分律云食後施衣物名達嚩文要覽云嚩錢云梵語達嚩拏 (Chakṣu) 此云財施云々

〔登蓮臺〕 鸚鵡抄云左足蓮華門踏事從三昧安詳而起貌也右足蓮華臺踏事智果至義也又定因智果意也私云蓮華座事智論云問諸床可座何必座蓮華答諸床爲世間白衣座法又蓮華濡淨柔脆欲現神力能坐其上令華不壞故又以莊嚴妙法座故文傳法要決四云大壇灌頂壇向樣可一具大壇向南今西定灌頂壇可同仍受者同曼荼羅所向灌頂壇上可坐也云々

〔蓮華門蓮臺〕 而授抄云蓮華門者蓮臺四方畫蓮華形也如金剛界蓮華門蓮華臺者蓮臺中心花實畫處也  
〔寶冠〕 鸚鵡抄云五智五佛冠戴貌也五智頂號大日五智弘名釋迦灌頂者五智淨水灌弟子頂義五時者五智說教被所化機貌也山家云三世常住大日如來妙法教主亦名釋迦文吾山大講堂本尊胎大日也印鉢印也則說法華釋迦貌也顯

今此勝福田 三寶之謂也 一切佛所說 爲欲廣饒

益 一切諸有情 奉施一切僧 當獲於

大果 無盡大資財 世說常隨生 以供

養僧者 施具德之人 萬德所具大阿闍梨位人也 是故世尊

說 應當發歡喜 隨力辨肴膳 而施現

前僧 已上備施頌備了布施置本所以上自性會儀式也

次引入蓮臺 若有他弟子者唯留一人余且令出道場外以後全入唯佛與佛境界也資向西胎藏大日也

先將向弟子於蓮臺之處師乍立用辨事真

言 不動咒也云々教王記云勝三世云々 加持座物 座草 安置蓮花臺上

次阿闍梨復爲弟子護身

先以不動明王本印 刀印慈教 用除諸障 左右轉

密兩宗本地三身釋云智證依一行阿闍梨釋者法華本佛是胎藏大日如來也文大日經云華嚴大日初門釋迦文瑜伽記云珍路問于法全和尚大日與釋迦爲一爲二和上答曰本來一佛無有二林但約機見似有差別文然今正覺草座化儀顯密一致可觀之也サレハ此座四教成道有之禮盤下虛空虛空爲座圓教成道八葉華臺別佛成道蓮臺種子上坐具展天衣通佛化儀草座三藏樹下正覺也仍四教一念成等正覺也是又五智具足密觀也文

〔十二執供〕大日經二左十一具緣品義釋六略出經四十七而授抄云十二執供是十三座供養云事有之其故十二執金剛今新佛心數也新佛其心王也仍心王心數十三座蓮臺而供也小壇狹小故大壇移供也文鸚鵡抄云教化供養心也私云行者結繩十二因緣即十二神將順此

十二執金剛法輪轉十二分教被云也十二光佛二六時中供養可觀知之文又云新阿闍梨中臺奉教供尊諸曼荼羅可意得也是則十三大院也去四執金剛佛部法身四奉教蓮華部報身四使者金剛部應身也文具支灌頂第九云經云中央示法界不可思議色文者即是此嚙字作純白色所謂不思議法界之標幟也復次深祕釋者方壇即是大因陀羅心王金剛界往無戲論即是本源清淨三世無障礙智戒由此戒故一切戲論皆息故得成無師大悲塵翳都盡如淨虛空故名虛空無垢如虛空中無垢障時極目十方無所不觀般若亦爾離一切相故於一切種無不見聞覺知故名無垢眼如明眼人則能自在作諸事業今以無礙悲普觀一切根緣已即當普現色身而導利之故名著雜色若以此四種金剛慧印於一心中共具足無缺即能鎮此心地堪持灌頂慧身猶若普

次用三種三昧耶入佛法界轉法加持三處頂心

次以金剛薩埵印明加持支分五古印加持五處

曩○報切歸命一戰拏惡極摩訶大魯灑拏怒吽

次令依吉祥座法

弟子以左脚踏蓮花門以右脚踏蓮華臺中心覽面向西

座結跏趺坐云結薩埵印內五股

先以寶冠令著之寶冠彼淨蓮處之蓋上在之即取

次阿闍梨往於大壇供十二尊（現行多道場係代修）

踰踞二手捧器先稱名號次誦飲食明供之○先四菩薩

南無恭敬供養惣持自在菩薩摩訶薩

南無恭敬供養念持菩薩摩訶薩

南無恭敬供養利益心菩薩摩訶薩

南無恭敬供養悲者菩薩摩訶薩

次四執金剛者四角花瓶外東南爲首順迴供之

南無恭敬供養住無戲論執金剛菩薩摩訶

薩

南無恭敬供養虛空無垢執金剛菩薩摩訶

薩

南無恭敬供養無垢眼執金剛菩薩摩訶薩

南無恭敬供養被雜色衣執金剛菩薩摩訶

薩

次奉教者西門四器左右相變供之左右且約行人

提樹下從金剛地際以來皆悉堅實是故如來成道時不傾不陷也四伴侶者心所有法是心王伴侶言此淨法心王成就四法能行四種如來事則堪灌頂受法王位初云陀羅尼自在王者即是通建阿字門見此真言王時即能於一切陀羅尼門皆得自在故以為名又以總持自在故成如來念覺如意三昧王能持萬佛國如彼龍宮祕寶能持大海不令泛溢亦能持之令無耗竭故曰念持已得如是念寶便憶本願普雨法財充滿法界遍施衆生故名利益心已出無盡資財作無限大施而諸下劣衆生無心受用不肯求之為此與大悲心種々方便調諸窮子故曰悲者菩薩等言奉教者即是陀羅尼自在王所爲事業滿願是念持如意寶王所爲事業無所罣礙是大慈悲法施所爲事業解脫是大悲方便拔苦衆生所爲事業故名四奉教者也

〔以五供供弟子〕見開私抄云問辨進五供養華鬘冠傘等意如何答是即表示三昧惣持無量莊嚴具足新佛歟問供養新佛意如何答是即人天可被供養表示也問何有師而供養弟子哉答灌頂時更無供養徒非師誰表供佛哉又是常事也文殊是雖釋尊師也師文殊弟子釋尊如供養古佛既爾也新佛不爾哉問灌頂着寶冠服絡膊意如何答云寶冠者即表五智具足絡膊者表示無漏五陰戒定慧三昧惣持等諸功德莊嚴身謂夫行者觀行日積三密時熟有漏五陰塵垢殄滅覽字觀行智曜妄情雜穢者洗滌鏤字想念理水無上願智寶冠顯現烏瑟首上總持萬善瓔珞俄發生金麗膚問義也文

南無恭敬供養著雜色衣奉教者  
南無恭敬供養滿願奉教者  
南無恭敬供養無碍奉教者  
南無恭敬供養解脫奉教者  
次阿闍梨還到灌頂壇向蓮臺前花机而座  
以五供供弟子  
先加持供物  
次闍伽 塗香 花鬘 燒香 飲食 燈  
明  
次阿闍梨從座而下取白傘  
後以杵誦慈救明加持白傘去垢除障 次

以大日真言加持之  
師自執  
用覆弟子上  
次阿闍梨右手取白拂口誦吉慶伽陀唐音  
每句終以白拂三遍順排受者肩  
次說其訓耳語受者  
諸佛都史下生時 釋梵龍神隨侍衛 種々勝妙吉祥事 願汝今時盡能得  
迦毘羅衛誕釋宮 龍王澍沐甘露  
水 諸天供養吉祥事 願汝灌頂亦如是  
金剛座上爲群生 後夜降魔

〔白拂〕鸚鵡抄云、律云、比丘患草虫、聽作拂子、僧祇云、佛聽線拂、列髻拂、芒拂、樹皮拂、制若、貓牛尾、馬尾、拂並、金銀裝柄者、皆不得執、文

〔吉慶讚〕略出經四、灌頂儀軌、瞿醯經下、左、五、偈、中、六、卷、帖、ニ、出、ス、所、ノ、梵、語、讚、ハ、最、初、ノ、三、偈、ノ、ミ、也、第、四、偈、ハ、略、出、經、及、ビ、灌、頂、儀、軌、ニ、出、ツ、第、五、偈、ハ、灌、頂、儀、軌、ニ、出、ツ、大、日、經、疏、卷、八、義、釋、卷、六、ノ、吉、慶、阿、利、舍、偈、ハ、現、用、ノ、モ、ト、異、レ、リ、見、聞、私、抄、云、問、吉、慶、讚、歎、其、意、如、何、答、說、如、三、藏、佛、作、佛、密、教、成、佛、例、復、相、似、也、文、傳、法、要、決、二、云、見、此、吉、慶、漢、語、皆、是、應、身、八、相、成、道、儀、式、也、真、言、意、成、佛、云、ハ、ン、ス、ル、ハ、自、性、自、受、內、證、可、爲、本、歟、コ、ソ、覺、ヘ、タル、ニ、正、覺、壇、儀、式、專、約、應、佛、化、儀、事、尤、不、審、事、歟、是、法、身、相、好、ナ、ン、ト、ノ、様、取、成、於、內、證、本、源、此、儀、式、可、有、ナ、ン、ト、ト、リ、ナ、ス、ヘ、キ、歟、而、天、台、流、圓、密、一、致、意、得、故、如、

此義理天台意不可異法華教主法身自受用見事アレモ衣瓔少殊ナント釋スルハ應身見歟開述顯本秘奧約應身沙汰子細有之歟然灌頂壇儀式應身化儀約事強不可苦勞事也大壇名本覺壇灌頂壇號正覺壇是即性德修德又是內證外用可當歟付此等甚深法門等可有之率爾難盡事也文

〔後夜降魔〕鸚鵡抄云、初夜正覺ヲ成シ玉ベキヲ魔王障礙故一指、舉降魔、漸時節移、後夜成道、玉フ也、一指者、風指也、經云、如風於空中一切無障礙、文サレハ、風指立計怖魔印云也、所詮虛空佛性、觀住魔界佛界一如降魔名也、一義云、現降三世身、伏之見降三世者可爲成佛障、三世怨敵降伏義也、以吽字爲種子、業不可得心也、サレハ踏玉フ處、煩惱所知二障也、左足踏自在天、表斷煩惱障、右足踏烏摩后、表斷所知障也、煩惱魔故、囑男強之フ

成正覺、現諸希有吉祥事、願汝此座悉能成鸚鵡抄云、此一段、降魔成道、二相也、波羅奈苑河莊嚴、爲五仙人開妙法、成就無量吉祥事、願汝今時盡獲得鸚鵡抄云、此段、八相、中、轉、法輪也、諸佛大悲方便海、普利法界衆生界、盡未來際無疲倦、四無碍智汝當得鸚鵡抄云、此段、轉、法輪、度生、義、再說也、次阿闍梨置白拂及傘、至佛前頂禮曼荼羅一切尊、南無歸命頂禮蓮華臺上摩訶毘盧遮那如來十三大院諸尊聖衆悉地成就

次起立壇前合掌合、啓白諸尊云、今與受者某甲將授五瓶灌頂、仰願諸尊海會特垂加悲愍聽許之、次還灌頂壇立弟子側授所得部印真言解弟子所結之內五股印令改結之、次擊水罐繞壇反三、受者此間座蓮臺結所得印誦其明、先阿闍梨捧中臺瓶順廻壇誦其明、曩○南阿、次讚衆上藹捧東南瓶、廻賢善、曩○南歸命一暗惡子種莎訶、次藹捧西南瓶黃廻、廻勒彌

所知障、細故、囑、女和踏之也。此忿怒、悲現貌。凡夫、瞋、忿怒、各別也。文。

〔五仙〕鷓鴣抄云、異說有之、弘決六云、陳如、頌、躡、提、十力、迦、葉、釋、摩、男、文、中、本、起、經、云、一、拘、隣、二、頌、躡、三、跋、提、四、十、力、迦、葉、五、摩、訶、男、文。

〔四無碍〕鷓鴣抄云、四無碍、法、無碍、說、法、無碍也。義、無碍、義、理、無碍也。辭、無碍、言、辭、無碍也。辯、無碍、樂、辯、無碍也。文。

〔繞壇〕大日經二、右、三、同、四、密、印、品、義、釋、六、廿、灌、頂、儀、軌、瞿、醯、經、下、左、水、鐘、繞、壇、者、祈、願、意、也。具、支、灌、頂、大、日、一、瓶、持、邊、壇、灌、頂、口、決、四、瓶、水、中、瓶、移、繞、壇、云、々、胎、隨、要、記、云、若、阿、闍、梨、不、得、自、捧、令、捧、他、人、阿、闍、梨、在、後、迴、而、耳、但、受、者、尚、可、坐、蓮、座、也。文。鷓鴣抄云、私、云、瓶、者、如、意、珠、同、鉢、萬、法、出、生、今、五、佛、智、水、滿、瓶、內、無、邊、應、用、施、萬、機、貌、也。大、日、經、云、親、對、諸、如、來、而、自、灌、其、頂、文。

〔四瓶次第〕見開私抄云、大日經卷一、具緣品第二、說相、普賢慈氏除蓋障(即觀音)滅惡趣(私云、文殊入滅)文、次第、列、今、依、之、也。

文、鷓鴣抄云、私、云、具、緣、品、普、慈、除、滅、次、第、祕、密、品、普、文、觀、彌、次、第、云、々、私、記、普、文、慈、觀、列、子、タ、リ、義、釋、此、次、第、也。丑、寅、普、賢、辰、巳、文、殊、未、申、彌、勒、戌、亥、觀、音、云、々、是、實、義、也。曼、茶、羅、普、文、觀、彌、次、第、義、軌、普、觀、彌、文、次、第、也。仍、現、行、加、持、次、第、具、緣、品、意、也。私、云、彌、觀、次、第、慈、悲、二、字、此、語、便、也。觀、彌、次、第、悲、慈、二、字、此、義、便、也。壇、圖、東、南、普、西、南、文、西、北、觀、東、北、彌、次、第、也。文。

〔加持瓶〕鷓鴣抄云、問、曰、瓶、者、五、佛、智、水、也。然、五、佛、種、子、上、可、立、也。何、角、立、之、歟。答、曰、胎、因、曼、茶、羅、顯、也。角、因、方、果、也。申、瓶、大、日、無、所、不、至、大、日、經、云、以、一、音、聲、四、處、流、出、普、遍、一、切、法、界、與、虛、空、等、無、所、不、至、文。東、南、普、賢、居、衆、伏、頂、云、普、在、斷、道、終、云、賢、文。西、南、慈、氏、彌、勒、慈、悲、所、成、菩、薩、故、也。西、

囊 ○南摩訶大瑜誡 應相瑜擬寧 瑜詣誑縛

履 欠 惹利計 莎訶

次 蔞捧西北瓶 廻

囊 ○南阿薩怛縛 系多 弊 盟 藥 多

怛藍 莎訶

次 蔞捧東北瓶 廻

囊 ○南特帽 娑難 阿毘度達羅

拈 薩怛縛 馱敦 莎訶

各誦明繞壇三通

若阿闍梨不得自捧令他人捧阿闍梨在後迴耳若又人少時只一兩人度々捧五瓶廻了或說灌頂支捧中臺一瓶云々

次更如法加持四瓶 五股印

中瓶 正等覺心

東南瓶 普賢 虛合如未敷蓮花唯中指少開

西南瓶 慈氏 金剛合掌當心相著

西北瓶 除蓋障 虛合二地二水入內背相著

火二風作寶形

東北瓶 除惡趣 定慧合掌

次 灌頂 先覽字觀

阿闍梨至灌頂壇跏趺而坐先結火印當心觀想弟子身在阿字方壇金輪之中頂有覽字發生智火焚燒一切煩惱罪障乃至身除身同金輪然後誦明以印投外於

北除蓋障菩薩名也亦云除一切熱惱天台云蓋者蓋覆纏綿心神昏闇定慧不發故名爲蓋文蓋障煩惑除貌也私云二地二水內入四住煩惱或凡夫聲聞緣覺菩薩四障治意也二火二風又四乘觀智也二空佛果大空也千手經云觀音得除蓋障三昧矣東北滅惡趣私云十界惡滅十地行願全林顯貌合掌也文

〔七事〕鸚鵡抄云顯教七位也十信十住十行十回向十地等覺妙覺也文

〔第一火印等〕入秘密曼荼羅法第十二鸚鵡抄云祕要記云先覽字觀阿闍梨至灌頂壇跏趺而坐先結火印當心觀想等如式大日經云眞言遍學者通達祕密壇如法爲弟子燒盡一切罪壽命悉焚滅令彼不復生同於灰燼已彼壽命還復謂以字燒字因字而更生一切壽及身生清淨遍無垢也文私云大日四菩薩次第因分從果向因意此佛意邊也次四菩薩大日次第

弟子身三遍散之

次以四瓶次第灑之

師起座到五瓶所立各誦其瓶眞言灑之

先赤瓶 普賢

囊 ○南暗惡 子種 莎訶

次黃瓶 文殊

囊 ○南阿 子種 吠娜 尾泥 者知 莎訶

次青瓶 慈氏

囊 ○南摩訶 大 瑜 誡 瑜 擬 寧

相應者 瑜 誡 誦 縛 履 在 欠 惹 利 計 生 莎 訶

次黑瓶 除蓋障

囊 ○南沒 馱 佛 達 羅 尼 持 娑 沒 唎 底 念 沫

羅 馱 囊 迦 履 益 作 馱 羅 馱 羅 馱 羅 馱 野 馱

羅 野 持 上 自 持 薩 鏤 切 一 婆 誡 縛 底 尊 世 阿 迦 羅

相形 縛 底 具 三 摩 曳 誓 本 莎 訶

次白瓶 日大 囊 ○南阿

次 鏤 字 觀 師 著 本 座 或 乍 立 結 水 印 業 八 當 心

觀 想 弟 子 心 上 有 圓 明 於 中 有 鏤 字 其 色

純 白 而 生 水 輪 猶 如 白 乳 而 注 死 灰 生 淨

菩 提 心 佛 種 子 也 所 謂 阿 鏤 覽 哈 欠 也 然

後 誦 鏤 字 明 於 弟 子 身 而 以 散 之

義釋十一 五輪觀

結 五 輪 印 弟 子 身 上 想 有 五 字 此 卽 鏤 字 緣

兩 火 動 因 和 合 所 生 也 變 此 五 字 各 成 五 輪

果分從因至果意此機情邊也從因至果機情深佛意淺從果向因機情淺佛意深也私云因灌頂大日佛因云義也實大日者非因非果假令對機情立因果角因方果化儀辨也世間意立太子灌頂也文

〔四瓶灌頂〕見聞私抄云大日經卷一住

心品第一說相普賢文殊彌勒除蓋障列

除蓋障ハ觀音ナリ此ノ時ハ文便ナリ

彌勒ハ慈氏ト名ク故ニ慈悲ナリ具緣

品(第二)祕密曼荼羅品(第十一)ニハ普賢

文殊彌勒觀音ト列ス今之レニ依ル文

現圖曼荼羅ハ普賢文殊觀音彌勒ト列

ス是レ廣大軌ト同シキ也文具支灌頂

記第九云復次四寶所成瓶者卽是毘盧

遮那四德之寶慈氏は無盡饒益衆生寶

除蓋障は無盡淨知見寶除諸衆惡趣無

盡大悲方便寶復次普賢是淨法界淨菩

提心慈氏是此淨心於胎藏中發生根芽

莖葉除蓋障是此淨覺樹王妙嚴華果顯

現開敷除一切惡趣是收果實後種一切衆生田中如是旋轉相生無有窮已故以四寶之瓶盛滿種種寶藥諸穀所漬性淨之香水用灌蓮華臺中不思議法界心是故得名法王之子當知一種寶瓶還與一菩薩一金剛一使者機感相應以方位法門對之則可知之也文灌頂私見聞云問因灌頂時何大日四菩薩酒耶答因灌頂云一向非因故因果不二此酒心爲生佛芽果灌頂時四菩薩酒也此因果不二意也

〔鑊字觀〕入秘密曼荼羅法品第十二面授抄云弟子心上有圓明者只月輪也注死灰者先覽字身燒灰也死灰灑鑊字智水生菩提種子也文灌頂私見聞云問此說意鑊水次即生五字心如何答地水二大是五大中增上緣也故地上酒水即五字生也謂五字重生是爲成塔形標幟也理實五大各々具五大緣如俱舍等也

四大種等也故鑊字水中即具五大五大故從鑊字即生五字也云々文  
〔佛芽〕鸚鵡抄云大日經云阿字第一命文阿字命點草木キザス貌也即佛果芽莖萌義也是云因灌頂也大日經云此阿字一切如來之所加持真言門修菩薩行諸菩薩能作佛事普賢色身於阿字門文私云方壇者阿字形方故也○師云佛芽灌頂三形塔也生長成樹王謂正成佛身也文

〔五輪觀〕灌頂私見聞云問何故因灌頂五輪觀用耶答真言意以字印爲因形爲果故五輪即大日三昧耶也故灌頂因凡有便也文鸚鵡抄云大日經云阿字遍金色用作金剛輪加持於下林說名瑜伽座鑊字素月光在於霧聚中加持自臍上是大悲水覽字初日暉形赤在三角加持本心位是名智火聚哈字劫災熾黑色在風輪加持白毫際說名自在力佉字及空

誦各々明印彼五處成率都婆

地輪歸命阿 脐下 水輪歸命鑊 脐上

火輪歸命豐 心上 風輪歸命哈 額

空輪歸命欠 頂 已上名佛芽灌頂面授抄云是弟子生種子芽莖也

次第十二真言王成法器等同諸佛

結羯磨印 弟子身上想十二字誦各々字

印弟子之其處

暗佛眼 右耳 糝蓮華部衆 右肩 鑊千手 右足臍上

欠釋迦 頂 惡遍知印 項 哈般若菩薩 喉 鶴中臺 心 藍勝三世 臍 落不動 腰

暗左耳 大勇猛 索金剛部衆 左肩 縛金剛藏 左足臍下

次第五暗字等觀

先結普印 弟子頂上想有暗字黃色 百光 遍照 誦

暗字明印頂上

次結佛頂印 弟子心上想有阿字黃色 成阿字變

誦阿字明印其心上

次結火印 弟子胸上想有藍字誦羅字明

印其胸上即想弟子心中阿字白蓮開敷大

日如來座其上然後灑之

次第六正灌頂師起座到五瓶處

先本尊灌頂若直得大日者別不作本尊灌頂只四菩薩 四佛 大日 灌之

師結其尊印置弟子頂誦其明弟子亦同結誦其印明

次誦其明以其瓶水灌之皆三反許

點想成一切色，加持在頂上，故名爲大空。文而授抄云：雨火動云：先覽鏡，二字水火二因也。仍雨火云也。文。

〔十二眞言王〕大日經卷五祕密曼荼羅品第十一，入祕密曼荼羅法品第十二。鸚鵡抄云：私云，在因十二因緣在果十二眞言王也。上中下三分，佛蓮金三部也。欠等佛部、娑等蓮華部、覽等金剛部也。中臺受者，自身也。此眞言壇上受者，師自身布演スベキ也。○布字者，周遍法界義也。

〔第五暗字等觀〕大日經卷三轉字輪品第八。鸚鵡抄云：普印、大空、遍、普、貌也。依之暗字，觀普印本分，全林也。佛頂印，心上炳現。阿字，貌也。此印左地水法性，無明右地水大智大悲也。四同入本源內證，四智也。二火平等無碍，悲智也。此悲願周遍事，風力依故，風指以押之也。智願既處不至，無故大空歸入相表，以二空終押二火也。火印心上胸中，無垢染表也。文。

〔第六正灌頂〕而授抄云：是即本尊灌頂也。以之爲正宗，故本尊灌頂名正灌頂也。文。鸚鵡抄云：果灌頂又云樹王灌頂，亦云職位灌頂，亦云授職灌頂，卽世卽位灌頂也。私云：四行者四菩薩事也。是則因分行中故也。云々文。

〔本尊灌頂〕傳法要決二云：示云：本尊灌頂者，多分略之私記。若直得大日不可用本尊灌頂云。故不得大日入先可修本尊見妙心大意。縱雖受明灌頂也，受大法人成，必不可修本尊灌頂見。歟。況今傳法也，仍不用之。歟。云々同第四云：示云：本尊灌頂有無二說。舉私云：初說甚有道理。云々此可用本尊灌頂云。說被證明也。而代々現修兩壇合行傳法時，本尊灌頂略之也。○本尊灌頂專第二第三三昧耶行相ナルヘケレバ至第四第五時必略之。條似有階級歟。如此旨趣，都常人所不辨知也。文。

若得八葉尊者，別一度灌頂惣，一度入葉都合同瓶二度灑之。若得地藏虛空藏院尊者，灑其方瓶。若得文殊院文殊釋迦院釋迦者，八葉釋迦文殊瓶灑之。

次普賢（名一切支分生印） 赤帶瓶灑之（其作法如前）

次文殊（運合中指稍開，名如來法住印） 黃瓶

次慈氏（金合低左右，名世尊迅疾持印） 青瓶

次觀音（運合火圓，名世尊陀羅尼印） 黑瓶

次南沒馱達羅尼娑沒唎底沫羅馱那

次南摩訶瑜譏瑜擬寧瑜詣誥縛履欠

次惹利計莎訶

次南阿吠娜尾泥莎訶

次南阿吠娜尾泥莎訶

羯履多羅々々馱羅也々々薩鏤薄伽

縛底阿迦羅嚩底三麼曳莎訶

次寶幢（運華合掌地風散，名世尊大威德印） 赤瓶

次華開敷（前印屈風置空輪，名世尊金剛不壞印） 黃瓶

次南藍落莎訶

次南鏤縛莎訶

次阿彌陀（以初印散水火入葉印，名運華藏印） 青瓶

次阿彌陀（以初印散水火入葉印，名運華藏印） 青瓶

次磔索莎訶

次鼓音（先印二地入掌，名如來萬德莊嚴印） 黑瓶

次南哈鶴莎訶



〔大日四菩薩印〕秘密八印品第十四。鸚

鵝抄云。中瓶五結也。五結者五智也。今外  
五結。用內五結。自證性德。根本智也。外五  
結。化他利生。後得智也。故也。普賢中指。開發  
心。因花開貌也。文殊二空。立修行。智德發  
貌也。慈氏金合。低左右。慈力愛戀貌也。觀  
音。蓮合火圓。心性靈智圓滿貌也。自鉢。蓮  
華也。又云。中瓶。非因果。故無運動。四瓶  
角。運。因。被。云。運。方。果。被。云。然。四。瓶。中。瓶。  
作。因。故。中。瓶。遠。離。因。果。法。鉢。四。瓶。法。然。具。  
因。果。振。舞。也。因。果。自。本。一。鉢。故。四。智。瓶。方。  
角。不。同。依。因。果。辨。也。文。

〔百光王〕大日經卷五布字品第十七

〔第七百光王〕鸚鵡抄云。百光王表百界。  
十界互具。百界一乘。十乘立。觀不思議境  
等也。十乘互具。百乘也。古抄云。大日如來  
百光王。身現時。阿彌陀也。根本印。金剛合  
掌也。十指即百光明也。互具貌也。又暗。大  
空。阿字。百光作用起也。字相邊際也。文。

次大日五股印

養○南阿

即想弟子同大日亦想已同十方諸佛灌以  
法水授法王位。  
已上可名佛果灌頂。而授法王位也。

次第七百光王

師著本座。弟子結五股印。

師結普印。弟子頂上想有暗字。即誦暗字。明  
印。彼頂上而搖動之。次同印。次外一輪。廻布  
十二字。伊等十即誦十二字。以印廻轉。次以同  
印。想從暗字放百字光。總等廿五。總等廿五。總等廿五。照弟  
子身。於身四處。心顯明。百字隨現。然後想誦一々  
諸字。以印廻轉。印弟子身四處。然後以印當

白帶瓶已上作法

〔換衣嚴身〕

〔換衣嚴身〕 瞿醜經下。右鸚鵡抄云。私云。  
不立座。可換衣。其有深旨。由古抄見。不當流ハ  
祕要記。至壇西南。隅令換受者。濕衣等。師  
手自取。新衣等。令著之。文。或。東南云々。又  
以屏風。可隔本尊。文。私云。受者兼淨衣二  
具用意。入道場時。一衣著。次換衣時。淨衣  
著。カヘ入堂時。一衣獻。阿闍梨也。古抄云。  
換衣者。本分大日。裸體金色也。而不動寂  
場。而遊化鹿苑時。應身莊嚴。ナス。是ヲ嚴  
身云。珍衣。脫。燹衣。更換衣云云。此。時。蓮  
臺。不起。嚴身スベシ云々。雖然。下。蓮臺。屏  
處。シツライ換衣スル事便宜也。即脫。脫。脫  
衣。著。珍衣。相貌也。二義可見之。○脫。脫。脫。著  
妙云。事異途。料簡也。今正覺壇儀式。應中  
論三劣。應所具成道。顯是。即三藏如來。而  
為。境本於色相。成四見不同。故也。然。百字  
百佛世界。分身散影。而光王云。故。應中。報  
身。智光也。サテ換衣嚴身。應中。應身。用海  
也。但釋尊成道時。此嚴身無之。是大日如

心 觀想暗字及十二字轉成中臺藏四處

百字轉成胎藏界四重曼荼羅爾時弟子都為

曼荼羅身舉行決云。百光布字。時不必結印。若結印。若普印。若定印。

次換衣

弟子從蓮臺下往淨蓮邊性問不。蓋傘。乍立脫濕衣

裳懸牀子了奉施阿闍梨

師自取新衣等令著之先裳。次衣。教王記。或令讚

衆著之

次以廿一結修多羅繫右肩自右肩繫之左

脇而下繫之翻著袈裟也。註云二端垂左帶。

次以花鬘變結兩肩謂以花鬘二條各以一

來阿迦尼吒天宮亦云色究竟天此處儀  
式也大日自本尊特身故脫離著妙云義  
不肯乍去受者嚴身遠壇貌從華藏世界  
出同居娑婆利益衆生入重玄門粧也文  
〔修多羅〕 鸚鵡抄云修多羅五色五時五  
智表也又名神線也修多羅梵語也或云  
經慈悲智慧經緯利益門綫貌也或云  
契能所師資契約結貌也或云線流傳イ  
トスチ無斷絕貌也サテ七結ヅ、三處  
結結鬘義也利益門莊嚴貌也七結宛三  
處三七廿一結即小乘十二部教大乘九  
部教都合廿一結也云々  
〔華鬘等〕 鸚鵡抄云ハナカヅラ即兩肩  
莊嚴也○以五色絹四葉切花即五色重  
一トノ廿五處貫之五色五佛也四葉花  
四葉因花四葉果實也廿五處於覺悟五  
佛各五智具足義於迷情廿五有表相也  
臂釧腕釧臂嚴也茅環指嚴也無明指煩  
惱濕水也約化他煩惱降伏義約自行惑

條打懸左右肩前後垂之長等身也前後一結也  
次以臂釧腕釧令著其臂腕先左臂大次同  
腕小次右臂大次同腕小內方結緒次右  
次以茅環左右無名指中節懸之次左  
次更令戴寶冠々々上更著白縉  
或灌頂了後不令脫寶冠至于此處寶冠上更著白縉云云可依此說  
繪二端在後腦後程閉之爲令不落也  
次師以寶縵白隱受者經大壇前令登蓮臺  
左足踏門右足踏臺坐了作法界定印誦阿字明印明也大日即是大日即去  
傘了藍木所也  
次阿闍梨對座捧五供養左方  
師弟俱可住受者已成佛之想

智不二莊嚴也白縉慈悲貌也  
〔戴寶冠〕 略出經第一左六金剛頂義訣  
〔闍伽〕 面授抄云弟子觀大日最後身故  
初闍伽弟子足洗可思也漱彼口可思之  
也餘供可准知

〔五鉢偈〕 略出經四右廿灌頂儀軌傳法要  
決二云示云諸佛金剛等偈隨三部灌頂  
金剛言或蓮華等可用替云說裏書見是  
三部各別時事也今三部都法也爾者佛  
部可爲本意歟佛部ソトバ也若爾者諸  
佛塔婆可誦云古來金剛句通用歟文  
〔五鉢杵等〕 大日經具緣品第二十義釋  
六卅已下略出四廿菩提心義云能壞斷常  
二邊契中道中有十六大菩薩位假亦表  
十六空空爲中道兩邊有五股五佛五智  
義亦表十波羅蜜能摧十種煩惱便證十  
地文見聞私抄云問授縛曰羅等道具意  
如何答此等道具者即是表示法身如來  
三昧總持內證外用等無量無邊功德莊

先塗香 次花鬘 次燒香 次飲食  
次燈明 次普供 次讚  
先所得尊讚若先大日尊次所得次僧讚三反次四智三反各打鉢讚衆同音  
次闍伽待僧讚終可供  
次授道具以下弟子蓋不用之  
師右手取五股讀偈文弟子每句取次第  
諸佛金剛灌頂儀 汝已如法灌頂竟  
爲成如來體性故 汝應受此金剛杵偈問堅  
誦偈了授弟子兩手並橫置之也次授真言弟子每句取次第  
唵跋折羅剛金禰鉢提主尊微性林怛鏗汝於阿鞞訶

嚴，其中五。鉢金剛杵。是大日如來。五智金剛。摧破諸障。鉢相也。如大日如來。五智金剛。五佛金剛之鉢。周遍法界。可摧衆生惑障。是則金剛杵。義也。次金。鉢。義釋六十三者。諸障對治。說如。大日如來。往昔觀持阿字。法藥。除瘴。自身無明。後爲化他。周遍法界。對治衆生妄想。諸障。灌頂者。受持真言。妙藥。金。鉢。周遍法界。可對治群萌。諸障。作法。表也。次授明鏡。義釋六七十者。表示灌頂者。受得三身之義。應身如來。隨可化機。緣。示現種種。形貌。者如。研鏡。而顯現。差々。色相。形貌。報身如來。畢竟無相。離有爲。無爲。諸相。者如。雖現鏡。而諸。色像。取其。鉢質。終無。實。鉢。法身如來。有佛。無佛。性相。常然。周遍法界。者如。鏡。色像。若有。若無。共。不。離。鏡。灌頂者。即證得。是。相。即。三。身。明。鏡。鉢。周。遍。法。界。可。利。群。生。是。授。明。鏡。義。也。次。授。輪。寶。義。釋。六。三。十。事。者。輪。者。是。表。三。轉。法。輪。

者冥灌我今底瑟吒住跋折羅剛金三摩曳誓本薩怛鏤  
(明問橫)

論曰。汝已灌頂。獲得金剛。尊主。竟此。跋折羅。常住。汝所爲。三摩耶。

次授金剛名號

於弟子本名上加金剛字呼之。  
金剛佛子 遍照金剛

可誦此密語

弟子每句取次第

唵跋折羅剛金薩怛鏤摩舍我阿毘說者冥頂灌

跋折羅剛金娜莽名步剛毘囉迦多頂灌係聲呼跋折羅剛金

論曰。我與汝灌頂訖。以金剛名號與汝作字。汝名金剛某。

甲。而後師取五股置本處。

次加持道具

道具加持正受者一人計用之

師起座。臨入道具宮。蓋乍立。不取。上。只誦。一一。明。以。杵。一。々。加持。之。若。一。々。用。其。印。明。加。持。之。

先加持金鉢 火印 囊○南覽子種

次加持明鏡 金合 囊○南曼子種

次加持法輪 轉法輪印或輪壇印明

囊○報諸歸命普遍 諸執金剛縛日羅剛金怛摩句身含也我

次加持商佉 法螺印 囊○南暗子種

次授金鉢

先師眼 次資眼

於弟子兩目觀覽字。淨其目中垢障。即右手掌橫持鉢。先以右頭拭右目。次以左頭拭左目。只橫拭也。而後授弟子雙手說偈。弟子取次第。

教法。摧。惑。譬。如。世。輪。諸。碎。草。木。灌。頂。者。轉。於。權。實。諸。乘。教。法。之。輪。周。遍。法。界。摧。衆。生。惑。是。輪。寶。義。也。次。授。法。螺。者。表。行。者。爲。法。界。群。生。可。說。權。實。教。法。如。大。日。如。來。周。遍。法。界。吹。大。法。螺。利。益。衆。生。灌。頂。者。亦。周。遍。法。界。吹。大。法。螺。可。利。群。生。是。法。螺。義。也。鸚。鵡。抄。云。私。云。上。根。受。者。三。摩。耶。道。具。授。成。就。壇。意。也。中。根。印。契。授。大。悲。壇。意。也。上。下。歎。根。種。子。授。祕。密。壇。意。也。鏡。意。密。輪。螺。口。密。籌。身。密。也。又。五。鉢。自。證。餘。四。化。他。也。又。云。私。云。五。鉢。橫。三。反。授。事。橫。十。方。如。來。五。智。傳。持。貌。也。又。手。仰。五。大。橫。列。也。又。手。合。橫。置。五。大。豎。並。也。口。決。可。聞。云。々。又。合。因。分。仰。果。分。云。義。有。之。文。私。云。五。鉢。大。日。鏡。寶。幢。鉢。花。開。敷。貝。彌。陀。輪。釋。迦。也。文。又。云。鏡。大。日。經。云。復。當。執。明。鏡。爲。顯。無。相。法。說。是。妙。伽。陀。式。文。偈。私。眼。醫。者。金。籌。ア。タ。メ。眼。醫。ツ。ク。ロ。ウ。ガ。如。ス。レ。ハ。妄。想。膜。忽。拂。五。智。慧。眼。開。本。性。心。鏡。顯。此。鏡。者。無。自。

性ナリトイヘ依外縁像、ウツス、鏡モトヨリ不生不滅ナレバ像亦不生不滅也行者、一心明了ナレバ萬法歷然也依之鏡像圓融、法門顯密、淵源也委之不遑云々種子、曼字、吾我不可得、義也行人、心鏡十界、大我不生不可得、實義也又云、輪螺、私云、依金、具足五眼、依明鏡發解、心地自行已成、就故化他、門戶出轉法輪、者妙樂云、輪、是礙惑摧伏等、義、文、輪、王、輪、ナ、グ、レ、バ、山、川、溪、谷、皆、平、地、成、ル、カ、如、ク、救、世、輪、持、ス、レ、バ、邪、曲、有、情、悉、正、路、佛、地、歸、貌、也、サ、テ、無、上、法、螺、吹、テ、ハ、迷、闇、睡、眠、サ、マ、ス、義、也、世、貝、吹、武、勇、悍、強、敵、對、治、風、情、有、之、云々、文

佛子者受佛日大為汝、決除無智膜、猶如世醫王、善用於金籌傷了師取、置本所

次授鏡先寫師面、次寫資面

又現前示彼、明鏡當觀、瞞字、淨其心中、垢障、然鏡授弟子、雙手令見之、而為說、偈、弟子取、次第

諸法無形像、清淨無垢濁、無執離言說、但從因業起、如是知此法、自性無染汗、為世無比利、汝從佛心生傷了師取、置本所

次授法輪並商佉

先取輪授弟子、左手令持、跏趺之上、指末向、右、當臍立之、或覆安之、次取法輪授弟子、右手如將吹之勢、令持之、指末向外、即師授

〔人天蓋〕義釋六三、右疏八、瞿醜經下云、一紫二緋、文自在、金剛集三云、真言宗紫不用、台密緋不用、云々〔邊壇〕鸚鵡抄云、化他邊壇、內院、外院、出貌也、胎隨要記云、次旋邊壇、時阿闍梨、次持傘、用覆其上、引令旋邊、曼荼羅、三通、先邊、第一行道院、次邊、第二行道院、後邊、第三行道院、如是行道時、阿闍梨當誦、吉祥極吉祥等、偈、或可誦、吉慶讚、梵文、見聞私抄云、問師執傘、蓋覆弟子、上壇、繞、心、如何答、執蓋、繞壇、以下表示、未來流通、利益、無邊、義也、即是、灌頂者、成佛以後、現作、無量、無盡、淨穢、諸土、於其中、應以、佛身、得度者、即現佛身、而為說法、乃至現、九界、身、應得

偈

汝自於今日、轉於救世輪、其聲普周遍、吹無上法螺、勿生於異慧、當離疑悔心、開示於世間、勝行真言道、當作如是想、宣唱佛恩德、一切執金剛、皆當護念汝

傷了師輪螺、取收、以上正覺壇作法畢、萬全記云、但、是迄ニテ受者登大覺位畢

次邊壇

表出化他門

弟子從蓮臺下、即繞大壇、結誦五、師持傘、蓋覆弟子、隨後、旋繞三通、邊三、重行、此、問誦、吉慶、梵語、讚、々、衆、同、音、初段之間、一通、次於壇前出第二段、一通、次又於壇前出第三段、一通、如是、三通了、打鈸、每段、畢、不打之

度者以其身而為說法以種種形遊諸國  
土度脫衆生名皆執蓋繞壇義也又傳法  
要決二云三返行道事曼茶羅三重繞儀  
成也三重各有行道院見今敷蔓茶羅彼  
行道悉大壇上有之故準彼大壇外三返  
繞也每度讚於大壇前可令出也文

〔啓請〕 瞿醯下右七

〔三昧戒偈〕 胎隨要私記云私云義云前  
云耳語言告一偈者猶如僧祇家授六念  
薩婆多授五時法以此驗知曾受具戒不  
以今此四戒如受具戒竟已略示戒相當  
知即是祕密藏中四波羅夷也如人為化  
斷頭命根不續則一切支分無所能為不  
久皆當散壞今此四戒是真言乘命根亦  
是正法命根若破壞者於祕密藏中猶如  
死屍具修種種功德行不久敗壞云々文  
灌頂私見聞云問三昧耶戒偈於門前授

次禮拜

即於壇前第一重二重教弟子懇懃令禮曼茶羅徐々立其傘當  
隨身上下而以蔭之

次啓請

令弟子向壇令長跪師乍立白諸尊云我

爲某甲灌頂竟今付囑諸尊令傳明藏

某甲爲某甲灌頂竟今付囑諸尊令傳明藏

次說三昧耶戒

令彼起立對曼茶羅前耳語說之偈曰

佛子汝從今 不惜身命故 常不應捨法

捨離菩提心 慳恪一切法

之今又重授之相如何答門前時爲自行  
今爲化他也總此偈真言行者四波羅夷  
也顯教經如此不說第一不應捨正法南  
方寶生尊戒鉢捨離菩提心者寶幢佛戒  
鉢慳恪一切法者彌陀佛戒鉢不利衆生  
行者鼓音佛戒鉢也此四箇即自行化他  
上戒鉢上二句文

〔告言〕 大日經一具緣品二義釋三十四疏  
三

〔傳法阿闍梨〕 灌頂私見聞云傳法灌頂  
阿闍梨者內證明察又世間力有又智慧  
明是傳法機堪故若見衆生堪可授次傳  
教阿闍梨者智慧內證設無印明等傳也  
文

次禮拜

即於壇前第一重二重教弟子懇懃令禮曼茶羅徐々立其傘當  
隨身上下而以蔭之

次啓請

令弟子向壇令長跪師乍立白諸尊云我

爲某甲灌頂竟今付囑諸尊令傳明藏

某甲爲某甲灌頂竟今付囑諸尊令傳明藏

次說三昧耶戒

令彼起立對曼茶羅前耳語說之偈曰

佛子汝從今 不惜身命故 常不應捨法

捨離菩提心 慳恪一切法

不利衆生行 佛說三昧耶以下阿闍

汝善住戒者 如護自身命 護戒亦如是

應至誠恭敬 稽首聖尊足 所作隨教行

勿生疑慮心

次教誡 弟子向壇起立

告云汝今已成就曼茶羅傳法阿闍梨竟諸

佛菩薩及真言主一切天神已共知汝若見

衆生堪爲法器恰愍彼故當爲建立曼茶羅

而教授之義釋三十四佛子汝已祕密藏中隨順修

學具足明了堪能教授於他汝今已得善利

乃至諸賢聖衆亦皆稱歎今已作灌頂竟汝

當以真淨心傳持流布使如來祕藏久々不滅文

如是隨其所應種々慰諭已即應得爲人作曼荼羅阿闍梨也

次中間護摩供養新佛即受者護摩也

今度護摩供養弟子心中法界曼荼羅衆會也

此間弟子坐便宜所教王記云居大壇前結誦所得尊印明云

諸尊段如前二段修之但略時諸尊段許也 加持供等無之

淨火 扇火 散花義○南阿

合掌觀尊觀一曼荼羅大鉢 召請大鈎召印義○南阿曳隨誦

四字 嗽口 大杓油阿明三反 粥 飯 生

〔中間護摩〕瞿醯經下右四鸚鵡抄云私云最初護摩息災義中間護摩敬愛義也記云私謂前爲一尊而作護摩今令弟子成佛身竟爲彼作護摩是供弟子文中間最後護摩一反燒之兩種護摩供養成就二義也凡火物燒故護摩滅罪義水物潤故灌頂生善義也云々

花 乳木三枚 芥子 粳米 胡麻 香已上明阿婆縛

大杓油

次用曼荼羅主真言義○南阿護摩牛酥七反若三反復

以寂靜真言護羅七反若三反 次嗽口 投花

奉送

次教印真言不用之云云

次召餘弟子一々如是灌頂已畢

三昧記云大壇闍伽小壇闍伽佛供等可奉獻替之先受者暫可出堂外

次供養法令弟子座壇前令供左方壇花等

教令弟子修五供養

先塗香 次花鬘 次燒香 次飲食 次

燈明 次普供養 次讚四智弟子誦之 若所得尊

〔供養法〕而授抄云此弟子供前後供養名得佛供養也供所得尊意也文又云闍伽私記無之必用之云々

〔讀般若〕此陀羅尼出大般若經五百七十一卷第六分所得品第九瞿醯經下右九阿闍梨次教諸弟子等次第令坐自讀般若經令彼等聽云々般若陀羅尼大宮孝潤大僧正譯(附錄ノ梵字參照)

次師立壇前讀般若大般若經中令法令彼等聽弟

子向師座每句取次第師北立陀羅尼曰

但姪他所阿虎洛勿屈洛罰底能虎刺拏莎

免障者窶茶其德者遮者遮者折尼諸忿阿奔惹利多

邪惡非法利多摧利延多滅利也盡莎訶歸敬

此ノ一段ハ怖畏スベキ或ル冥力ニ對シテ具德者(即正法護持者ニ一切怖畏障害等ノ事無カラシメ更ニ諸忿怒尊ニ對シテ一切ノ邪惡不善非法ノ摧破斷滅祈念スルモノナリ)

陝末尼羯洛能令寂靜者鄔魯彌滿セヨ鄔魯罰底具擯

(正法ヲ意味ス)迦邏跋底具長久者迦故阿鞞

奢底尼息姑莎刺尼於流杜闍者勝杜闍末底克服者

部ヲ意味スルナラン歟阿罰始尼自在神罰尸罰多及其眷屬罰多

奴娑理尼隨從者部多奴悉沒栗底念願提罰多鬼神

奴悉沒栗底念願莎訶歸敬

此ノ一段ハ平和ノ將來者即チ正法ニ彌々廣ク彌々長久ナルベク告勸シ更ニ勝利者克服者(即チ金剛部歟)等ニ正法ノ宣布ニ姑息ナキヤノ反省ヲ促ガシ諸天善神等ニ至ルマデ令法久住ニ總動員ヲ祈念スルモノナリ

次爲都說三昧耶戒師立責坐說戒令聞之

一汝等從今日常於三寶及諸菩薩諸真言

尊重恭敬供養

二於摩訶衍經恒生信解

三凡見一切受三昧耶者當生愛樂

四於尊者所恒起恭敬

五不應於諸尊所懷嫌恨心及與信學外道

經書

〔三昧耶戒〕瞿醯經下十八行已下文三昧也義釋六十四

〔傳法密印〕見聞私抄云問授傳法密印意如何答是即說付囑流通故名傳法印也可思之文

〔最後護摩〕瞿醯經下左七

六凡來求者隨力施與

七於諸有情恒起慈悲

八於諸功德勤修習

九常樂大乘於真言行勿得懈廢

十所有祕密之法無三味耶者不應為說

次師授傳法密印若傍有別人退之勿令見聞之

於壇前師資相向座師北資南即授傳法密印等

或本次告之曰此法是毘盧遮那如來之心肝金剛薩埵

菩薩之瞻咐也是故揀器授之待時傳之自非上々堅固

之信心如來大悲之加持不應獲得若見若聞至誠傳持

次最後護摩

今度為弟子入壇所得三昧耶成就也

火天段

如最初但不用加持等

諸尊段

淨火。扇火。散花阿明。合掌觀尊一曼荼羅大體可想之

召請大鈎召印南阿毘醯四字。嗽口。大杓油阿明三反

粥。飯。生。房花。乳木枚三。芥子。粳

米。胡麻。香已上阿婆轉明

大杓油

次以曼荼羅主真言阿明護摩七反若三反

復以寂靜真言護摩七反若三反

又三部心真言護摩三反許

漱口。投花。奉送



〔結緣灌頂〕略出經第一二四卷本別本經

六卷本教王經下右傳法要決二云示云如私記者投華之後於小壇邊灑瓶水隨人可授印明見小壇灌頂壇也心靜尤如然可行用歟但若結緣衆ナント多可移時投華バカリニテサテモアルヘキ歟寺家灌頂結緣灌頂申結緣受明兼授作法也仍灑水印明授ノミナラス剃道具授之作法アリ此等隨人隨宜可進否也

〔繞壇〕灌頂私見聞私云又於正覺壇正唱三身成道其故結得佛印明誦吉慶漢語問指傘以白拂法身成道也サテ酒五瓶水報身也後嚴身應身成道也サテ此後繞壇三通前順從因至果今地鉢逆可三通也雖然忌逆故順三通也此意出界內同居士利益衆生意也是蒙本佛加持出如今大阿闍梨已成力蒙新佛出利衆生也故又三通也

次施食法

十方神供取去前神供更備之全如前作法此間誦諸天漢語讚並雜神供等不異初度

次出門前灑水

大神供畢弟子於換衣所脫寶冠瓔珞等合讚衆修十方神供則不用此灑水著金剛令座淨

次結緣灌頂

召入結緣灌頂者等令投花位示之後於小壇邊以瓶水灌頂又授印等

次後供養法

結緣灌頂事畢移五瓶於大壇先五瓶移大壇次拔取散杖加香水器寶淨記云

阿闍梨就座 受者出座佛面可想與師共

修供養

先入三摩地 次根本印 次五供養左方

次普供養乃至奉送等

次下座與讚衆相共行道三匝誦四智讚打

鉢如常各禮曼荼羅出堂

阿闍梨讚衆並受者立順逆在意云次繞壇也

次第二日護摩近來現行不修之

次分施物法近來現行略之

〔分施物法〕灌頂七日行事鈔卷下云次遣一弟子收囉施錢綾絹等物依前處分法用其處分文云已下出集經散道場日其佛前物宛作佛用般若前物寫般若經及諸經等諸菩薩物作菩薩用其金剛物及天等物入阿闍梨仍如法用其頭冠絹及二傘蓋並繫水鐘絹亦入阿闍梨用同十三遣一弟子收壇內食次阿闍梨分作三分一分送與寺內供養大衆一分施與貧窮乞兒一分布施水陸虛空諸衆生等諸入壇弟子及阿闍梨並主人等皆不合食如其食者法皆無驗文

〔示像〕灌頂七日行事鈔卷下云次阿闍梨把於松明領諸弟子等一一次第巡行入壇示徒衆云此是某佛座此是般若此是某菩薩此是某金剛此是某天此是某神鬼此是某龍如是一一次第具悉示令記念後以淨泥悉掃除却壇上色座莫到日出所有餘法皆亦如是自外一切於後散除文

金剛界

本云  
建長三年十月廿四日於小河草了

同五年三月三日於關東大藏谷書畢

遍照金剛(尊澄(承敷))

建武二年十一月十八日託行賀金剛書寫畢

清淨金剛澄豪

應永九年秋八月之比以祖師傳法和尙御本書寫之訖

遍照金剛圓俊

金剛界灌頂私記標條

一、門前作法……………	二五	引入蓮臺—十二執供……………	二六
二、引入道場……………	二九	新佛供養……………	二九
三、投華……………	三三	白拂……………	二九
四、前供養……………	三五	繞瓶……………	三一
五、正覺壇作法……………		瓶加持……………	三一
六、繞壇……………	四六	灌頂……………	三三
七、授三昧耶戒……………	四八	五佛繫鬘……………	三八
八、傳法密印……………	五〇	換衣……………	四〇
九、護摩……………	五二	授杵……………	四一
十、後供養……………	五五	祕密道具……………	四四

金剛界灌頂私記梗概

- 一、門前作法……………總て胎に準して知るべし、四禮は後に五瓶灌頂を得んが爲に今四佛を恭敬禮拜して一切如來の眷屬部の中に入ることを得るなり。
  - 二、引入道場……………香象を越へて道場に入り、印明の加持を受け誓水を飲み金剛の密語を誦し、投華得佛して開面するに到る間に於て金剛界の十六大菩薩生を經過することを表すなり。
  - 三、投華……………投華は本尊に華鬘を繫るの義なり、此の華鬘を受者の頂上に置くは入我我入して本尊大悲攝受の力に依り速疾に一切の悉地を得ん爲めなり。
  - 四、前供養……………投華既に終るを以て三昧耶會八供の印明結誦し曼荼羅の諸尊に對し至心に供養し奉るなり
  - 五、正覺壇作法……………引入蓮臺—十二執供—新佛供養—白拂等其意總て胎藏界と異なることなし、繞瓶は佛の周圍を繞る義なり、旋遶禮拜共に恭敬の儀なり。
- 瓶加持—略出經の説示に依り先つ大日及四菩薩の印明を以て加持す、蓋し因果相應して全く不二なる旨を顯すもの歟、次に五佛の印明を以て受者を加持することは受者既に五相三密の觀行に依り自行圓極し佛身圓滿するが故に更に五佛加持の印明を結誦し已成五佛新成の如來を加持し、四智の徳を堅固に

し三昧耶を成就せしむる義を表す。

灌頂—金剛界には因灌頂なき故に直ちに五佛五智の法水を受者の頂上に灌くなり。

五佛繫鬘—前に五佛灌頂の印明を結誦することは五佛の寶冠を戴く意なり

今寶冠の印明を結誦するは前に戴く所の寶冠に五佛三昧耶の寶鬘を繫て之を莊嚴する意なり

換衣—授杵—秘密道具 大旨胎藏界と異なることなし。

六、繞壇……大旨前の如し

七、授三昧耶戒……灌頂の事業既に成り法王の位を繼て他を攝化せんとす、故に三昧耶戒を授け諸佛の體性

金剛薩埵所持の五智杵を授け常に蓄持して廢忘せざらしむるなり。

八、傳法密印……其意胎の如し、告言は二乗の如き厭離の心を生ずる勿れと誡むるなり。

九、護摩……已灌頂者をして災障を除き上來修する所の功德を成就せしめんが爲めなり。

十、後供養……自他の事業成就して大曼茶羅の聖衆を供養し奉るなり。

〔胎金曼茶羅〕灌頂私見聞云、胎、因曼茶

羅ナルカ故、東爲本其故、世間草木春季、必花開敷、卽是因相也、曼茶羅色、白色也、是淺略門、時事也、深祕時、胎理也、理者實相也、其色萬法、根本故、諸色、本白色也、金果曼茶羅也、故西方爲本、其故、世間草木、秋菓實故、果、云也、曼茶羅色、赤也、智門、故果曼茶羅也、云々、○問胎曼茶羅、十界輪圓、曼茶羅、云、意如何、又二重、出生、樣如何、仰云、眞言教主、本、出過毘盧、一智、本地也、雖然、此時、迷機、心無之故、爰、本、內證法身、內證、理智、德、義、分也、此、內證、出生、始智也、是、金剛界、大日也、於、爰、全、不見、機、是、故、金、不、列、十、界、輪、圓、也、文

〔灌頂壇〕略出經四、六、正覺壇大、二、肘、十、二、尊、名、灌、頂、壇、文

〔護摩〕略出經四、三、壇、大、四、肘、高、一、磔、手、爐、經、一、肘、深、十二、指、兩、重、緣、高、廣、內、各、一、指、指、外、各、四、指、指、○經、四、二、出、火、天、諸、尊、世、天、三、段、又、後、火

### 金剛界灌頂次第

受者 振鈴前降三世後佛眼

先莊嚴道場

引幕懸八色幡張天蓋如胎不改之

曼茶羅 道場近西後除行道所對大壇懸之

大壇 向西立之 又壇敷以新可引替之

灌頂壇 大壇東北之邊移立之壇西立蓮

臺受者壇東立禮盤壇師壇南立机壇與蓮臺中分立之

護摩壇 大壇東南之邊移立之壇東立禮

盤師座禮盤左邊南敷草座表座也

淨蓮 如胎不改之但嚴身具中寶冠可取替

門前机等如胎但覆面用赤色 廂曲 門前邊敷座

立屏風 讚衆座便宜所敷之

次排比供物

大壇 食道可用赤色其上備供具如胎十

二執金剛等供如胎但東方壇門四器置之

壇上敷金曼荼羅四角端角置羯磨或寄懸

概立之五部鈴杵兩壇不用之

五瓶中四方五佛蓮座上立之白中赤東黃

南青西黑北也於灌頂壇加持畢移之但重不加持無失

示云五瓶五鈴立時中瓶大日與法波羅蜜中間立之塔

鈴大日座上立之輪金剛波羅蜜與金剛薩埵中間立之

或塔鈴下敷

左右脇机置物胎如但佛布施五裹也

又誓水料小土器水盛禮盤右方置之或讚衆冠限取出之

示云後夜香水入水瓶置便宜所剋限入

之

灌頂壇 闕伽等可用新器不用胎用

机西端立五瓶中四方也餘如胎

護摩壇 燒供等全如胎

十方神供

先以淨葉草座也敷諸天鬼神位

〔十方神供〕金隨要私記云先以淨葉敷儲諸天鬼神位若依四卷經者可儲八方神位若依六卷經者可儲十方神位云々文灌頂私見聞云凡略出經善無畏不空誤渡時風荒吹故智海沈其殘三卷在之是號教王經是善無畏金剛智誤四卷譯不空六卷譯略出經四卷本說八天金界用八天北方置二器諸鬼神諸夜又列也若爾者多門天何不供哉師云此事委可問サレハ今此北方三器也一器毘沙門料胎界時北方置八器毘沙門眷屬四人又吒枳尼眷屬四人也爲八人八器時毘沙門器無之故今此置九器尤可尋也尋云諸鬼神諸夜又其不同如何仰云諸鬼神者有形栖大地者也諸夜又無形栖天者也文

次加持稠粥加持飲食須彌王 各々位所置之、八方上下各一器更下方一器都盧十一杯也  
雜神供 如例修法等時可儲之、

### 金剛界灌頂私記

#### 五瓶加持

入堂以前於灌頂壇加持之作法在別

#### 先阿闍梨入堂

未入堂前讚衆受者念誦事可示之振鈴已前降三世鈴後佛眼真言誦之唱禮等受者同起居可誦之

讚衆在前發音四鏡鉢放響受者以傘侍後蓋阿闍梨入堂但到堂前受者留堂外廂曲所令隱居也

次阿闍梨入堂內與讚衆三匝繞壇繞壇打鉢誦

了讚衆出於幕外

次阿闍梨就座 加持香水 灑淨供物等

例如

〔入堂行道〕面授抄云胎金初後共順也合行時初後共順或初順後逆是常現行也文密宗開書云智泉流雙嚴流云穴太流內如此分事覺範付法院昭賴昭付法行嚴也而賴昭早御入滅故行嚴覺範御傳受事共有之仍智泉房流云者覺範一資雙嚴坊流云者賴昭相承事也サレハ合行曼供行道逆スル事此起ナリ智泉房流兩界時モ解界ナレバトテ逆行道シ玉フ也雙嚴坊流順ニシ玉フ也其如此行道時共ニ御相承事故順スルハ根本雙嚴房流也合行時後行道逆ニスル事ハ智泉房方ヲ兼玉フ也

淨地乃至金剛持大

次啓白神分等 次供養文 唱禮 五悔

等弟子在堂外同音誦之 次五大願

次供養法乃至普供養只成身會許也

讚衆受者發願以後念誦降三世真言振鈴以後誦佛眼真言近代振鈴之後讚衆出百字讚等

次讚百字 百八 四智 普賢

次供養諸方天等

此同讚衆誦諸天漢語讚又此同修雜神供

阿闍梨自座起順廻供示云讚衆一人在前續燭付火

洪云東北爲首各誦本明取器一周供之

勝林記或二手捧器誦嚕迦々々明供之極略時也

先東北自在天 唵遏哩除爾曳自在天 莎訶

〔供養諸方〕略出經卷四右七丁

次上方梵天東方先供之 唵鉢羅惹鉢多曳梵天 莎訶

訶

次東方帝釋 唵遏移達羅耶帝釋天 莎訶

次東南方火神 唵遏姑娜曳火天 莎訶

次南方琰魔王 唵琰魔曳琰魔天 莎訶

次西南方羅刹婆 唵邏差娑地婆多曳羅刹天

莎訶

次西方諸龍及水神唵婆羅那水天 莎訶

次下方地天西方次供之 唵鉢哩體吠曳地天 莎訶

有歸命

次於下方施諸鬼神

密止々々毘舍遮南神鬼莎訶

蛩々愚勇反部馱南神鬼莎訶

次西北方諸風神 唵轉夜微神風莎訶

次北方諸藥叉 唵藥叉苾陀達犁明持莎訶

訶

如上施已出門前灑水灑淨自身也

次奉佛布施准胎用之阿闍梨還就禮盤取佛布施

先灑淨次薰燒香而兩手捧之當額奉獻諸尊

尊

次就座念誦普門持誦是也 若自若以先受弟子於師邊可結諸會 又諸會不必盡之

根本印行位 薩埵 佛眼

念誦大日 行位 薩埵 佛眼

次引入弟子

先阿闍梨從座起頂禮諸尊三反念誦了頂戴念珠未入定以前起座也

歸命頂禮三世常恒清淨法身摩訶毘盧遮

那如來九會曼荼羅諸尊聖衆悉地成就

次阿闍梨器出經卷四十九乍立壇前應作是念為某甲

灌頂唯願諸佛菩薩降臨道場受我供養文

諦想所請佛菩薩衆皆來集會

次召入承仕令取去禮盤

次移大壇五瓶置灌頂壇側花机上

〔夢相好相〕略出經四十一云既觀已日前觀之相也諸弟子各隨所安應言之言汝各端心而念禮諸佛已繫心睡眠求境界相汝所見者晨來具說作此教已令隨意去彼所見夢晨於師所如實說若境界顛倒多妄想者是不清淨相應取牛五種味所謂乳酪酥糞屎等相和淨濾施加金剛密語二十一遍與之令服若身心淨者取白檀水同用金剛密語二十一遍令服密語曰唵縛曰羅鄒陀迦吒水也如法服已至其夜分引至壇室門外教令發露懺悔一切罪障隨喜廻向一切功德文



次第白、赤、黃、青、黑、中四方立之、以袂、木、中瓶、加大壇灑水、散杖、讚衆之中勤仕之、

次阿闍梨出道場外到於門前乍立結誦大

鈎召印明胎召之隨召弟子來立機邊

囊歸命菩薩阿種行也薩縛一切怛羅處鉢羅底訶諦行菩提

無無比力義對無礙也怛他藥來如矩奢召鈎冒地行浙里也菩提

鉢哩布羅迦足滿莎訶

次加持香水通降三世明以杵加持之灑淨弟子頂

次含香 令弟子含之

次教令弟子作四禮印明向道場之方乍立結之以上灌頂儀軌無之

唵東佛命歸薩命歸縛命歸怛命歸他命歸誡命歸多命歸布命歸儒命歸波命歸薩命歸佉命歸囊命歸野命歸

〔舍香〕大教王經下左略出經四右十二

承事 怛摩喃身已備哩耶多獻奉夜弭今我薩縛怛他

誡多如來一切縛日囉薩有情怛縛有金剛地瑟持加娑縛持加唵

我於 吽子種

意云、爲供養承事一切如來故我今奉獻己身願一切如來金剛薩埵加持異護於我

唵南佛命歸薩命歸縛命歸怛命歸他命歸誡多如來一切布命歸惹命歸毘命歸囉命歸迦命歸耶命歸

怛摩喃身已備哩耶多獻奉夜弭今我薩縛怛他誡

多如來一切縛日囉如來薩如來怛如來囊如來毘如來說如來者如來唵如來捨如來 怛如來洛如來

子種 意云、爲供養灌頂故我今奉獻己身願一切如來與我金剛寶灌頂

唵西佛命歸薩命歸縛命歸怛命歸佉命歸誡多如來一切布命歸惹命歸鉢命歸囉命歸縛命歸哩多命歸

那耶轉爲展但摩喃身已爾哩耶多獻奉耶弭今我薩縛  
但如來他一切識多縛日羅達磨法金剛鉢囉縛哩多耶  
唵轉爲我紇哩子種

意云爲展轉供養一切如來故奉獻己身願一切如來爲我轉金剛法輪

北佛 唵 薩縛但如來他一切識多布惹業供羯磨尼業事阿  
但身已摩喃獻奉爾哩野多今我夜弭今我薩縛但今我他今我識  
多如來縛日羅剛金羯磨業事矩虛作唵我嚧子種

意云爲供養一切如來事業故奉獻己身一切如來爲我作金剛事業

次覆面

先以降三世眞言加持之

阿闍梨以赤色帛掩閉其眼文告言

〔覆面〕大教王經下左略出經四右十二灌頂儀軌

〔三昧耶薩埵錢〕鸚鵡抄云此眞言大日四菩薩種子也但普賢大日因果異也仍因果不二故二合一也

掩閉一切惡趣門能開清淨五眼

次師教令結金剛薩埵契外縛忍願如針口授密語三

反

三音觀味殊文耶勒彌薩大日埵普賢錢三遍使弟子唱之是憶念已前所受戒也

師以右手執其印末忍願指端取之引入壇場越香象

入道場行步之間授此密語三反

三昧耶吽

即到壇前師北立資南立應告之言

汝今已入一切如來即大眷屬部中我今令汝生金剛智汝等應知由此智故當得一切如來悉地事業然汝亦不應與未入此等壇場

〔告言〕略出經卷四十二灌頂儀軌

〔即到壇前〕或記云已下至投花作法傳法灌頂人用不任意先已受學法灌頂故若用之只擬前耳又投花爲供養宿世有緣之尊也

〔眞言〕此梵文出大教王經卷下右三十、卷大教王經爲漢語

人說此法事汝儻說者非但違失汝三昧耶  
自招殃咎耳文眞言曰資取次第  
阿彌也今薩怛鑠汝此薩縛怛他藥多如一切句犁  
藏鉢羅尾瑟吒立薩多娜悍諦舌縛日羅剛金  
枳惹娜智母怛跋那以使也彌起生曳那枳娘  
泥那智依其怛鑠汝薩縛怛他藥多如一切悉地就成羅  
比跋羅鉢旦嘶連到金布那羅況爾也他悉駄  
藥就成那遮勿怛縛耶汝依涅哩瑟吒見被摩訶曼  
拏羅寫茶曼縛羯多尾閻言可摩帝三摩瑜越三尾  
也他彌諦說演

汝今已得入一切如來曼拏羅中當觀我即從彼金剛智

〔告言〕略出經卷四下左二大教王經下右三

所生由是金剛智故汝即當得一切如來一切悉地況餘  
所有悉地法邪若有不見大曼拏羅者汝不應爲說此三  
昧法若爲說者違越三昧  
次師大教王經下結普賢三昧耶印置弟子頂上誦普賢三  
味耶明  
三摩耶本誓也薩怛鑠汝  
告曰此是三昧耶金剛契汝若輒向未入  
壇人說者令汝頭破裂汝於我所莫生疑慢  
應當深生敬信汝於我身當如執金剛菩薩  
我所教誨當盡奉行若不爾者自招其禍或

〔誓水〕大教王經下右灌頂私見聞云誓水二義有之一五智法水受者心中納意也二世間書起請吞如今水其意也

〔次師結普賢三昧耶印〕略出經卷四十二左覆醮經傳法要決三云示云如私記先告言次授真言樣見而決云師先結印授真言弟子取次第後可有告言云々此決尤可然歟告言此是三昧耶金剛云何物此是指ヤラント覺ヘヌヘキ也若先結印授真言弟子取次第此是三昧金剛云尤可順道理也文

〔告言〕略出經卷四十二右灌頂儀軌之好相也隨要記者投華之以前問受者若彼見白相者應教最上悉地智見黃相者教義理所生悉地智見赤相者教奉事供養悉地智見黑相者教阿鞞遮盧悉地智見雜色教一切羯磨悉地智若不見好色相者即是罪障應以鉤罪障契鉤彼諸罪以摧破諸罪契而摧破之云々○如是作法已又應問之如無好相者但可引入授三摩耶不應與其灌頂文

〔投華〕大教王經下右同略出經四十五左同十六灌頂儀軌灌頂儀軌投華前見好相故若不見好相者但應引入授三昧耶不應與其灌頂云々儀軌註云花墮佛面佛眼等尊成就墮佛中分成就心真言華墮佛下分成就使者真言文鸚鵡抄云投花安弟子頂上私云因華即飯頂上果極貌也文○或記云今準覆醮經下而料

令中天死墮地獄汝應慎之

次誓水 應期小土器盛之入白檀抹之隨名讚衆役穴太云智泉見行予當加持役以三三加持

弟子如本結普賢三昧耶印向壇立

師先取水器誦誓水真言一反 弟子取次第 即令飲

之三反真言曰

縛日羅薩怛縛薩縛延 薩縛延已自諦爾耶力依威 紇利

那曳心於娑摩縛悉體 住 哆涅避爾也 其智 薩哆

有怛乞又南 那其利 夜耶爾也爾 他 沒魯耶爾 々人

難那閻 令歡喜 縛日路娜迦折 令剛生者

次作此教已次汝今令求請一切如來覆護

令金剛薩埵入其身心唯願一切如來加持

金剛薩埵遍入 文

次師結普賢三昧耶印 告言此是三昧耶

金剛名爲金剛薩埵願入汝身以爲無上金

剛智誦此密言 文取次第

跋折羅 剛金 藥舍 入遍 跋折羅 剛金 藥舍 入遍 婀 金剛薩埵種子也

次阿闍梨應作此言 我 其中 如法作此曼荼

羅將弟子入隨其福德 善宿 種性 宿世 及與成就

所堪 上中下等 法器唯願於此曼荼羅中示現

其相

次以花鬘令掛其針 也印 上授此密語三反 取次第

唵鉢羅底車 跋折羅 剛金 護 剛金

簡花若墮毗盧遮那身上則成就一曼荼羅諸尊真言若墮四方四佛身上各隨其部成就一部諸真言近觀若墮四親近等尊上唯成就其真言若墮尊身上分則成就上品悉地若墮身中或下分隨亦成就中品若下品悉地若花墮處去彼尊遠者當知久遠方可成就若墮所供食上隨所屬尊得彼真言墮兩尊中間隨近所尊得彼真言若先墮於內院即却起出外院者當知彼人信心不具若強持誦得下成就若墮諸界道上當知彼人無決定心不獲成就應棄彼人後時將入餘曼荼羅若欲強將入者當爲作護摩然後擲之還若不著更作護摩如是三回猶不著者則須攢

出文

誦已教擲所掛鬘於壇中願彼因業受所著處即令念誦其部密語當知速得

次即取彼所擲花鬘誦此密語置彼頭上

真言言以葉末倒一度安頂上即誦如是三反受者取次第

唵鉢羅底訖哩恨拏受攝怛嚩縷摩含此薩埵

縛摩訶波羅力大

論曰願大力菩薩攝受汝

告言 由此繫鬘故得摩訶薩埵攝受速疾

成就諸勝悉地汝未來學得其如來位必將

引濟一切衆生

次誦此密語解所掩眼物密語曰取次第

〔梵語〕大教王經下七略出經四十六灌頂儀軌

唵 跋折羅薩埵縛薩縛焰帝提親我斫具  
數 伽吒那 怛鉢羅 嚩陀伽吒野提開合  
薩縛阿具鼉五一切眼也 跋折羅斫具鼉金剛 阿耨  
怛羅上無

論曰 金剛薩埵親自專爲汝開五眼及無上金剛眼

則開面了誦見真言令見道場取次第

係跋折囉跋捨見真言呼彼令觀道場遍示壇中諸部事相

意云見壇法

次令弟子禮曼荼羅

次令修五供養壇前半圓右方捧之 此間師猶立也

闕伽 燒香 花鬘 燈明 塗香 飲食

〔五供養〕略出經三八

如已上明 普供 如金 讚 四智

次授與所得部尊印明即於道場而令坐一處 以屏風等圍之使不見餘人作法也 誦之

私云若准胎別業雖得何尊可授大日印明歟然者羯磨三昧耶隨一獻羯明三印歟已上自行終

次引入餘弟子其法則同前

次引入蓮臺 受者多時留始一人引入蓮臺餘暫出門前令隱居(資向東金剛界大日也)

先於花臺上想有弟子 圓點真如圓寂法身涅槃義

次以辨事明 世三 加持座物 草茅 安置蓮臺上

唵 命歸 寧 三 婆 降三世 跋折羅 剛金 吽 忿怒 發吒 壞破

次阿闍梨為弟子護身

〔降三世〕或記云照見三毒本不生之佛智名曰降三世三毒也又云加持弟子三毒成五智之時五部諸尊身心顯也

以不動明 刀印 用除諸障

次即引弟子令座蓮華臺 以左足踏蓮華門以右足踏花臺上 面向東

座令結薩埵印 內五古或所得契 即以寶冠令著

次阿闍梨往大壇供十二尊 踰羅二手持器先稱名號次誦飲食明供之

先四菩薩 瓶內花 東南為首右廻供之 東北為首云々依此說云々

南無恭敬供養陀羅尼自在王菩薩摩訶薩

南無恭敬供養發正念自在王菩薩摩訶薩

南無恭敬供養利益衆生自在王菩薩摩訶薩

薩

南無恭敬供養大悲者自在王菩薩摩訶薩

次四執金剛 四角花瓶外 東南為首順廻供之 東北為首云々

〔十二尊〕略出經卷四丁七觀想蓮華中臺上置阿字真如圓寂法身涅槃義也八葉四隅吽字十二執金剛侍衛也

〔引弟子令座蓮華臺〕灌頂儀軌云當引所灌頂者左足踏華門右足踏華心入天帝方門坐華臺上以種種華陰香燈明旛蓋清妙音樂而為供養如不辨者隨力作之所以爾者謂此人坐佛位故復以種種讚詠歌歎令其殷重生歡喜心文

南無恭敬供養住無戲論執金剛

南無恭敬供養虛空無垢執金剛

南無恭敬供養清淨眼執金剛

南無恭敬供養持種々倚麗衣執金剛

次四奉教者 東門四器左右相變供之

內左南無恭敬供養修轉勝行奉教者

內右南無恭敬供養能滿願者奉教者

外左南無恭敬供養無染著奉教者

外右南無恭敬供養勝解脫奉教者

已上十二尊名勝林記等全同胎

次還灌頂壇向蓮臺前机而坐

先加持物 誦降三世明以杵加持五供

次闕伽 明如金 右方 次右方五供 香花燈塗食明如金 一々誦其明捧供之

次阿闍梨起坐立弟子邊左手取傘蓋以杵

誦降三世明加持之次以大日真言加持之

以覆弟子上 決云傘合 持讚業

次阿闍梨右手執白拂口唱吉慶伽陀唐音

每句終以白拂順拂受者肩 次說其訓耳

語受者 誦一段了披文讀其訓 畧出經卷四十八灌頂儀軌

諸佛觀史下生時 釋梵龍神隨侍衛 種

々勝妙吉祥事 願汝今時盡能得 經四作獲

迦毗羅衛誕釋宮 龍王澍沐甘露水

〔吉慶讚〕略出經卷四十八灌頂儀軌

〔河〕略出經四十作所

〔盡獲得〕略出經四十作成證獲

〔五瓶繞壇〕或記云中瓶阿闍梨起小壇坐執中央瓶以右風空取瓶頸火水地三指如覆瓶抱之仰左掌置瓶掌上持瓶于心間先至大壇前小揖了徐々右邊大壇三通行道之間瓶中觀於塔婆誦大日真言莫有間斷三通了安瓶於小壇本處

諸天供養吉祥事 願汝灌頂亦如是  
金剛坐上為群生 後夜降魔成正覺 現  
諸希有吉祥事 願汝此座悉能成  
波羅奈苑河莊嚴 為五仙人開妙法 成  
就無量吉祥事 願汝今時盡獲得  
諸佛大悲方便海 普利法界衆生界 盡  
未來際無疲倦 四無碍智汝當得  
次阿闍梨置白拂並傘至佛前頂禮諸尊  
歸命頂禮三世常恒清淨法身摩訶毘盧遮  
那如來九會曼荼羅諸尊聖衆悉地成就  
次起立合掌於壇前啓白諸尊云

〔黃瓶〕作法如上旋邊之間觀三瓣如意寶珠及誦寶生佛真言三通了置瓶于小壇本處

〔青瓶〕作法咸準上旋邊之間瓶中觀紅色開敷蓮及誦無量壽佛真言三通了置瓶于小壇本處

〔黑瓶〕法則如上行道之際瓶中觀十字羯磨杵並誦不空成就佛真言三通了置瓶于小壇本處

〔五佛真言〕略出經三十二右

〔五瓶加持〕略出經卷四十七云移大壇中寶瓶隨本方角置之又於壇周圍界外想四月輪使四淨人持上寶瓶住月輪中帝釋方人想如普賢琰羅方人想如彌勒龍方人想如滅諸障礙(除蓋障)夜叉方人想如離諸惡趣(滅惡趣)私云四瓶以四菩薩印言加持本說歟

今與受者某甲將授五瓶灌頂仰願諸尊海會

特垂悲愍聽許之未見其文隨意啟白

次擊水罐繞壇各誦真言題私云加持明是也云々私云今依勝林記等說用羯磨會五佛明(出略出經三十二)

阿闍梨擊中瓶廻剛金 唵縛日羅剛金 馱覩界 鏤界

讚衆上擊赤瓶廻 唵惡乞菊毗也動不 吽子種

次薦擊黃瓶廻 唵羅怛曩寶 三婆縛生

怛洛子種

次薦擊青瓶廻 唵盧計世 濕縛羅在白 々々

惹王 紇里子種

次薦擊黑瓶廻 唵阿目伽空不 悉弟就成 惡惡



〔五佛〕鸚鵡抄云、三部秘釋云、問金剛界立五部、定尊位、胎藏界立三部、意何、答金剛界除障成身自受法樂、行相也、所以轉九識成五智、故立五部也、胎藏界化度利生他、受法樂、行相也、所以立三部、開大定智悲、三門、諸尊、皆接入三部、衆生悉、引接三門、即佛部、大定蓮華部、大悲金剛部、大智、故立三部也、文

〔五佛五持等〕鸚鵡抄云、加持、金剛堅固、義是、即、加持、者、擁護、義、故、也、次、五佛、灌頂、寶冠、義是、即、五智、頂置、故、也、次、五佛、華鬘、瓔珞、儀是、即、五色、珍寶、五重、華鬘、五佛、嚴飾、也、真言、摩羅阿毘、洗遮、鉢鍔、摩含、〔吾我〕縛、縛、是、即、我、執、業、縛、摩、字、縛、字、空、點、加、我、縛、斷、盡、貌、也、五佛、ハ、ナ、カ、ツ、ラ、ヲ、カ、ク、ル、故、我、執、縛、繩、ト、キ、モ、ス、ケ、テ、五、智、莊、嚴、佛、鉢、顯、故、鉢、鍔、句、加、也、文、又、云、五部、加持、第、一、心、上、佛、部、者、已、心、佛、鉢、也、大、劔、印、金、縛、々々、者、外、縛、堅、貌、即、金、界、月、輪、表、也、是、併、蓮、華、月、輪、一、鉢、實、義、サ、テ、中、指、劔、ナ、ス、佛、好、中、道、智、火、利、劔、發、得、煩、惱、業、縛、切、斷、義、也、以、二、頭、指、二、火、第、三、節、著、事、第、一、義、空、風、指、以、中、道、智、火、令、增、進、姿、也、二、大、右、押、左、事、左、理、裏、右、智、表、即、金、剛、智、界、也、是、名、佛、身、圓、滿、印、次、心、上、金、剛、部、心、佛、堅、固、貌、也、針、印、者、金、精、依、火、增、威、義、也、又、義、云、普、賢、金、剛、智、鉢、中、道、全、是、理、性、出、現、形、也、次

子種  
若阿闍梨不得自捧令他人捧阿闍梨在

後廻

繞壇三迴了五瓶如本立机上繞壇間受者

次繞了更如法加持

先中瓶 大日 智拳印

唵縛日羅 剛金 剛馱觀 界 鏤 種子 大日

次東瓶 普賢 五古印

唵三曼多跋捺羅惡 賢普 莎訶

次南瓶 彌勒 虛合二風屈入掌 甲相合二空並立

唵每怛隸夜 勃細 莎訶

次西瓶 除蓋障 梵蓋印

唵薩縛 切一 幡野 趣惡 惹賀野婆 去破 莎訶

次北瓶 應諸惡趣 內縛中二火端相柱二風從火背如三古

唵薩縛 切一 戍迦怛 趣苦 母爾唼伽多 去離 摩訶

曳暗 子種 莎訶

次正灌頂

先五佛加持 師立弟子後邊一々結印加 持弟子四處弟子同結誦

佛部加持 大日劔印 置心上

唵 身三 薩縛怛他 哦多 避三胃地 現證善提也 阿遊現三證

善目地 涅哩茶 固堅 縛日羅 剛底瑟吒 立起

金剛部加持 金縛二中如針 置心上

額寶部即寶形也次蓮華部蓮葉也何大  
劍印出生印也次頂羯磨部十字羯磨者  
羯磨形十文字形似故也即橫豎無窮義  
也羯磨者佛果事業也外縛中指中入心  
具靈智也地空立合萬法地大生諸佛性  
空歸姿也私云心額喉頂四處心佛依止  
位云也是即四方四佛四智四大也文

〔正灌頂〕灌頂儀軌或記云佛部想阿闍  
梨自心中有鑲字變成五輪塔塔變成大  
日尊全身成也次使受者住金剛界自在契

次取中瓶瓶中想五輪塔誦大日灌頂明  
灌之○金剛部想阿闍梨自心中有卍字  
字變成五股杵杵變成阿闍梨全身即阿  
次使受者住上薩埵金剛契次取赤瓶瓶  
中想五股杵誦阿闍梨明灌之○寶部  
想阿闍梨自心中有恒羅字字變成三瓣  
寶珠寶珠變成寶生如來全身即大受  
者住上金剛契次取黃瓶瓶中想三瓣寶  
珠誦寶生灌頂明灌之○蓮華部想阿闍  
梨自心中有頡利字字變成蓮華々々變  
成無量壽如來全身即無次使受者住上  
蓮華部三味耶契次取青瓶瓶中想蓮華  
誦蓮華部灌頂明灌之○羯磨部想阿闍  
梨自心中有羯字字變成羯磨々々變  
不空成就如來全身即不次使受者住  
羯磨三摩耶契次取黑瓶瓶中想羯磨杵  
誦不空佛灌頂明灌之文  
〔本尊灌頂〕傳法要決云示云此事例胎  
灌可知之若略本尊灌頂直以五佛灌頂

唵身三縛日羅剛金薩埵縛埵薩阿地瑟吒持加娑

婆摩含我於阿闍種子

寶部加持金縛二中如寶 置額上

唵身三跋折羅剛金囉怛那寶阿地瑟吒持加娑

婆摩含我於恒羅種子

蓮華部加持金縛二中蓮葉 置玉枕下

唵身三跋折羅剛金波頭摩華蓮阿地瑟吒持加娑

婆摩含我於利種子

羯磨部加持金縛二中入掌二大二小如針 置頂上

唵身三縛折羅剛金羯磨業阿地瑟吒持加娑

摩含我於阿種子

次應與其灌頂胎灌記云至灌頂壇跏趺而坐

先本尊灌頂隨要私記云觀想之間可用定印 正灌頂跏坐

先想弟子頂上有阿字上有圓點眞如圓寂法 身涅槃義字

放大光焰熾然赫奕又想弟子心中有月輪

輪內有八葉蓮華臺臺上亦有阿字於阿字

內想有率觀婆文 若得金剛部跋折羅若寶部者寶珠 若蓮華部者蓮華 若羯磨部者羯磨

師應想己身如毗盧遮那像

記云已上是本尊已後是傳法灌頂云々

次師立坐結弟子所得尊印誦其明置弟子頂

上弟子同結 誦其印明次師誦其部灌頂明以其部瓶

水灌弟子頂上

印明可灌瓶水，歟。但先本尊灌頂，云下經云，應與其灌頂，先想弟子頂上有阿字，上有圓點等觀法，必可用之。歟。若得金剛部以下，正本尊灌頂，行相有歟。又若得毘盧遮那部，想率都婆等，云本尊灌頂時，事五部都法，時同可用之也。決此意見，率觀婆者，或金界塔多寶塔婆，形也。云々。或兩部共五輪也。云々。淨師說，共用五輪說也。云

〔月輪八葉〕略出經四十八，鸚鵡抄云，凡金剛界智門，故月輪表蓮華裏胎藏界理門，故蓮華表月輪裏胎陰蓮華形，金陽月輪形，云事祕決有之。紙面憚之，サレハ外縛中心月輪外八指，則蓮華也是胎藏界サテ内縛スル中ハ八指蓮華形，外圓相心月輪也是金剛界也。文

〔五部灌頂〕灌頂私見，聞云，五佛灌頂寶冠，義也。五佛繫鬘，者瓔珞，義也。依此，印明功德五重可繫瓔珞也。

〔囉字羅字〕略出經四十九，鸚鵡抄云，囉字有相不可得，羅字其色金色，如觀金色中央色。羅字塵不可得，羅字ヲ以テ兩目ノ翳，焚燒スル也。〇二足無上兩足尊也。〇八幅ハ輪寶莊嚴也。大原記云，觀想之間，可用定印。云々。師資共住定印，可觀云々。所謂五部智水灌頂セラレテ資ノ面門ヨリ金色光放，其種子有相不可得。囉字也。此故轉肉眼爲佛眼，其智光燦然。種子離諸塵染，羅字也。然問定慧，二足均等。種々色爲法輪，相凡種々色者，兩足地大萬像，種色生義，是即法輪萬機益相準，仍輪寶相具云一義。又五智五眼具足，說法輪轉，轉ベシト觀念一義。兩反有之。文

〔塗香胸〕略出經卷四十九，鸚鵡抄云，胸中戒光塗，普賢行滿，身成大日覺王位，至金剛薩埵，悟開想ヘシ。文

次五部灌頂

五瓶一々可觀其部三形

先結誦大日灌頂印明印弟子頂上結誦大日

劔印

唵薩縛怛他藥戴如來一切濕縛哩耶在白毗囉迦

吽吽字我也我即大日故二義無乖

即以白帶瓶灌之

次結誦東佛灌頂印明印額結誦針印

唵縛日羅剛金薩埵婆埵薩阿毘訛遮頂灌唵我吽

即赤瓶灌之

次結誦南佛灌頂印明印頂右結誦寶印

唵縛日羅囉怛那實剛阿毘訛遮頂灌唵我怛羅

子種 即黃瓶灌之

次結誦西佛灌頂印明印頂後結誦蓮華印

唵跋折羅剛金鉢娜麼華蓮阿毘訛遮頂灌唵我頤

利子種

即青瓶灌之

次結誦北佛灌頂印明印頂左結誦羯磨印

唵跋折羅剛金羯磨業阿毘訛遮頂灌唵我惡子種

即黑瓶灌之

次於彼額上想有囉字色相如金想兩目上各有羅字其色如火上生光焰其二足間想

種々色爲法輪相八幅莊嚴觀想之間可結定印

次誦薩埵金剛心密語加持塗香已塗彼胸

前師取五供養中塗香器大壇中右塗香稍多盛之起立至弟子邊捻塗香塗其胸也

密語曰 三摩耶也 薩怛鑠汝

一本云略出經卷四十九隨要記云所以作作法加持者爲令弟子速成金剛薩埵故

次繫鬘弟子不結之或雖結各々佛印而不繫鬘

師結五佛契三昧耶印誦彼真言五佛契各々印彼心

喉頂三處已於額前以進力度三繞之如繫

鬘法頂後亦爾結了從頂上兩邊至肚從檀

慧散之

〔繫鬘〕略出經卷四十九灌頂儀軌

想自身爲以一切如來寶冠莊飾已

先佛部繫鬘大日印

唵薩縛怛佉揭多一切如來鼻三菩提現證菩提跋折羅剛金

阿毘訛遮頂灌摩含我鑠子種

次金剛部繫鬘針印

唵縛日羅薩埵婆金剛薩埵摩羅曼阿毘訛遮頂灌摩

含我鑠子種

次寶部繫鬘寶印

唵縛日羅剛金囉怛曩寶摩羅曼阿毘訛遮頂灌

摩含我鑠子種

次蓮華部繫鬘蓮印

唵縛日羅剛金鉢娜麼花蓮摩羅雲阿毘訛遮頂灌

摩含我鑿子種

次羯磨部繫髮羯磨印

唵縛日羅剛金羯磨業摩羅雲阿毘訛遮頂灌摩

含我鑿子種

鸚鵡抄云已上自行成就了

次換衣

弟子從蓮臺下往淨庭往間不乍立脫濕衣懸庭西小牀  
子了奉施師々自手取新衣令著之先裳次衣

○以廿一結修多羅繫右肩翻著袈裟也  
次以花鬘交絡兩肩各以一條懸左右肩

〔換衣〕略出經卷四十九嚴身準胎用歟。

前後垂之前後一結也

次臂釧腕釧先左臂 同腕

次茅環懸無名指先左

次寶冠或灌頂了後不令脫寶冠  
至于此處冠上更著白繒

次白繒 打懸寶冠上左右垂之

次師以寶繖隱受者將歸著灌頂壇令座蓮

臺左足踏花門  
右足踏蓮臺受者作智拳印而坐々了去傘

次授五股

師立道具机邊若立本觀羽執五股為說頌曰每句取

諸佛金剛灌頂儀 汝已如法灌頂竟 為

成如來躰性故 汝應受此金剛杵文

〔五鈷偏〕略出經四右灌頂儀軌。傳法要  
決三云示諸佛金剛。偈寶部ナラハ金剛  
句寶珠等註セルハ五部灌頂時事也傳  
法時不可用之。縱又五部各別時也通用  
不可有妨歟。道具中金界時法螺無之歟  
準胎被加也。文灌頂私見聞云問五鈷杵  
不加持授。故如何答能加持。故不用加持  
授也。

〔眞言〕路出經卷四十九灌頂儀軌

〔告言〕略出經卷四右

〔密號〕鷄鵝抄云隨部改之高祖慈覺大師胎得佛清淨金剛陀西方阿彌金得佛大勇金剛近阿闍四親也

〔眞言〕略出經卷四左廿丁大教王經三灌頂儀軌

〔五供養〕略出經四十七灌頂儀軌

頌了五股授其雙手

兩手並仰

次授眞言

取次

唵跋折羅

剛金部跋折羅句又依剛部可改之

彌鉢提

主微性林 恒鏤

於阿鞞

於阿鞞說者弭

底瑟吒

住 跋折羅

曳

薩恒鏤

剛金 三摩

論曰汝已灌頂獲得金剛是又剛部可改與謂佛部法界寶部寶珠蓮華部蓮華羯磨部羯磨等也

授明了告言 汝已灌頂獲得金剛尊主竟

此跋折羅常住汝所爲三摩耶身

次授金剛名號

於弟子本名上加金剛字作之呼之

應誦此密語

取次第

唵跋折羅

剛金部連華部鉢摩

薩恒鏤

汝 摩

含我阿毘

說者冥

跋折羅

娜莽

多

係

跋折羅

娜莽

論曰 我與汝灌頂訖以金剛名號與汝作字汝名金剛

而後師取五股收本處了

次阿闍梨對坐捧五養供

香 花 燈 塗 食

次讚

僧讚 四智

乍繞小壇邊誦之

次闍伽

〔道具〕略出經卷四丁廿一灌頂儀軌灌頂私見聞云錚授故如何答世醫師錚火アタ、メテ目膜翳ツクロウガ如大日遍照智火覽字錚アタ、メテ肉眼マクヲツクロウテ五眼用施意也問何故以鏡授耶答鏡者心鏡也此鏡者慢字即吾我不可得義也其不可得故鏡寫形躰有實不可得也此故非實亦非虛云意也私云萬法自本具足心法有其六情妄情所具躰不見鏡躰有雲留時不寫影若外因緣有此鏡トゲバ成明寫一切物今依三密修行風拂心法妄雲自本所具大日遍照躰吾身心得今以鏡カ様物授玉フ也サレハ錚鏡自行德也問法螺輪寶授故如何

次道具加持 臨道具蓋乍立加持之不取上之

先加持金錚 火印 曩○南覽

次鏡 普印 曩○南摩舍

次輪 輪壇印 唵縛日羅斫迦羅吽

次商佉 法螺印 曩○南暗

次授金錚

師執小金剛杵子 也錚橫拭其子弟兩目次左右口便

授弟子雙手 橫受之 告言

善男子 比丘比丘尼沙彌沙彌尼等各應改呼之若俗女則應呼善女人 世間醫王能治

眼翳諸佛如來今日爲汝開無明翳亦復如

是爲令汝等生智慧眼見法實相故 文

答佛自行滿趣說法利生吹無上法螺令蒙機心也輪寶者佛轉法輪相也利生時行六道嶮所必可見此功德也

說此語竟取收金剛杵子

次授鏡

師執鏡令其子弟觀照說此偈言

一切諸法性 清淨不可得 非實亦非虛

皆從因緣現 應當知諸法 自性無所依

汝今眞佛子 應當利衆生 文

取收鏡了師於弟子當生恭敬此人能紹諸佛種性故云々

次授法輪並商佉

先取輪授弟子左手令持跏趺之上輪當臍

立次取法螺授右手如將吹之勢令持之

告言 自今以後諸佛法輪汝應轉之當吹

〔授鏡偈〕略出經卷四丁廿一灌頂儀軌

〔告言〕略出經卷四丁廿一灌頂儀軌

〔陀羅尼〕鸚鵡抄云、陀羅尼、秦言能持、集種種善法、能持令不散不遮、肇翻總持云

無上法螺、令大法聲遍一切處、不應於此法中而生疑怖、諸羅陀尼、究竟清淨、修行理趣、汝應廣為衆生、方便開示、善男子、諦聽、若能如是、作者一切如來皆知、此人能報佛恩、是故於一切時處、一切持金剛者之所衛護、令汝安樂

然後收輪螺

次准胎繞壇

弟子從蓮臺下、結智拳印、若大繞壇三通、阿闍梨隨後、用傘覆其上、同迴阿闍梨、讚衆同音誦吉慶梵文、一段一匝了、如是

三段三匝了、打鈸

次准胎周畢、至東門、令其子弟慇懃禮拜、餘々立、居三反其傘當隨身、上下而蔭之

次准胎令弟子長跪阿闍梨、持傘乍立、啓請諸尊、作如是言、我某甲與某甲灌頂畢、今付屬諸尊、令傳明藏、然後即放傘

次准胎令弟子起立、對曼荼羅前、告云

汝今已成曼荼羅、傳法阿闍梨、竟諸佛菩薩及眞言主一切天神、已共知汝佛子、汝已祕密藏中隨順修學、具足明了、堪能教授於他、汝已得善利、乃至諸賢聖衆、亦皆稱歎、今已作灌頂、竟汝當以眞淨心、傳持流布、使如來

〔告言〕灌頂儀軌



祕藏久々不滅

如是隨其所應種々慰喻已即應得爲人作曼荼羅阿闍梨也

次准胎令坐一處教彼本印真言持誦之

有他弟子時事也一人者直說三昧耶戒

次准胎召餘弟子一々如是灌頂已畢

次爲說三昧耶戒即四重禁戒也  
令弟子堅固

阿闍梨引起弟子至大壇前若一人若多人壇前並  
居長跪合掌聽受之

告言善男子第一重戒汝應堅守正法第二重戒設遭

逼迫惱害乃至斷命不應捨離修菩提心第三重戒

於求法人不應慳吝第四重戒於諸衆生有少不利

〔告言〕略出經卷四丁廿左一灌頂儀軌

〔先言〕略出經卷四丁廿右二大教王經三六廿  
灌頂儀軌

〔真言〕略出經卷四丁廿右二大教王經下六廿  
灌頂儀軌

益事亦不應作此是最上句義聖所行處我

今具足爲汝說竟汝當隨順如說修行文三摩  
耶戒

了頂禮阿闍梨也  
良僧正略此禮

次阿闍梨執五股杵而授與之棒杵誦偈云々

告言此是諸佛躰性金剛薩埵手所執者

汝應堅護禁戒常畜持之至于成佛之日不

可離身文

弟子受已授此決定要誓密語令其誦之密語曰取次第

唵薩婆怛他揭多如一切悉地成就跋折羅三摩耶

金剛三昧耶底瑟吒住願翳今沙怛縛汝含我於馱羅野

冥持我今跋折羅薩怛跋薩埵係々々々々々々々々々

〔教誡〕略出經四右廿云、如是作法、已所有  
一切曼荼羅祕密三摩耶智、應教授若弟  
子於三摩耶契有退失者、師應遮制、莫令  
毀壞

〔莫生厭離〕鸚鵡抄云、衆生ニ哀愍ヲナ  
シテ利益衆生ヲ厭事ナカレト也、略出  
經云、三界極重罪、不過於厭離、汝於貪欲  
處、莫生厭離心、文此經、金剛界說也、而厭  
生死、欣涅槃、二乘孤調心、菩薩廣大、利他  
背、故永不成佛、嫌三界極重罪名ヲル、  
也、故利益爲ナラハ諸苦根本タル貪欲  
ナリトモナスヘシト許ス貌也、又義云、  
汝應貪欲處、莫生厭離心、者貪欲卽是道  
心云々

論曰、一切如來金剛薩埵、成就三摩耶願住、我所我常  
守護此弟子言也  
師代爲讀之也

決云、於大壇、前師卽告云、入收懷中云々、此杵至于成佛  
之期、不可離身云々

### 次授金剛界傳法密印

大壇、前師資對坐、授諸家密印等穴太云、授密印、可依器

### 次教誡

阿闍梨告言、弟子於師應恭敬尊重、莫見  
師短於同學、所莫相嫌恨私云、可略之

聖行、裏書云、已上不行、此事給云々、決云、入壇、夜不聞之、  
更可問之

### 次應告之言

〔告言〕略出經卷四左廿二灌頂儀軌

汝於一切衆生、常生慈愍、哀矜示誨、莫生厭  
離而說偈言師偈、讀之、弟子取次第

三界極重罪、不過於厭離、汝於貪欲處、  
莫生厭離心文

〔偈〕略出經卷四左廿二灌頂儀軌

次欲令弟子堅持歡喜、故爲說偈言文  
此等三昧耶、諸佛爲汝說、守持善愛護

當如保身命文

次弟子受師教、已頂禮白言

如師教誨、我誓修行師教弟子云、如師教誨、我誓修、行云、三反禮、師禮問師立北

次寂災護摩

先著坐、灑水、加持供物等常如、羯磨

〔寂災護摩〕略出經三廿曰、爲諸已灌頂弟  
子、令其圓滿寂靜法、故爲除其災障、故應  
與作護摩法、文是卽爲滿足功德

金剛輪

次火天段

淨火 扇火 投房花 合掌誦偈 召請

四字 漱口 取杓 油 粥 飯 生

花 乳木枚三 芥子 粳米 胡麻各三七反

香 大杓油 祈願 漱口 投花 撥遣

次諸尊段

淨火 扇火 投散花欸轉曰淨 合掌觀尊可想

粥 飯 生 花 乳木三枚若三 芥子 粳

米 胡麻 香已上護世羅 大杓油欸轉曰淨

〔三摩波多〕鸚鵡抄云、此云究竟、只是供養成就、義也。師資結手、事芳契冥符、義也。三杓、身口意業、因燒貌也。此時行者、資頂上、酌カタル觀想アルヘキナリ。廿一杓、三世七支、過罪、ヲク也。七支者、身三口四、煩惑也。

〔告言〕略出經卷四丁廿左五

〔羯磨三昧耶會八供〕面授抄云、羯磨會三昧耶會八供、印明大旨略之也。私云告言、後弟子修左方八供、故如此不用之也。

次三摩波多法

召弟子令坐師左邊師乍執杓以左拳覆檀度鈎弟子觀

羽智度右拳仰之以小杓誦寂災真言護摩廿一反

唵薩縛婆縛一切娜賀那燒焚縛日羅耶剛莎訶

漱口 投花 奉送

次阿闍梨從座起就大壇位召弟子壇前

告弟子言 諸佛為利益一切衆生故說此

殊勝福田妙法汝應隨力辨香花供養大衆

能令汝得無量果報文

次教令弟子向大壇令結誦羯磨會三昧耶會

八供養印明

〔羯磨會八供〕鷓鴣抄云、羯磨會印應結、金剛拳等引而兩分、成二金剛拳印。○私云、羯磨會、化他門而二門、故左右兩拳、各別作也。先嬉悅懽、義也。故兩手、腰收、頭低、右權智化他門、方向左、實智自行、方也。次鷺色相莊嚴也、兩手八葉、即花鬘、是額上安、三鬘、細カクル姿也。次歌、妙音也、從臍至口、兩手散事、息風丹田口舌出音聲、發貌也。次舞、和樂貌也。三舞、金合化儀成就、舞收タル風情也。次燒香、下向散心、我等心內、悅懽スル貌也。次華鬘、向上散心、法界華藏貌也。次燈明、大指並立、心大空、慧燈貌也。次塗香、向胸、胸中淨土姿也。文

〔三摩耶會八供〕鷓鴣抄云、自行門不二門、故兩手與合也。其心自行化他、不二一致也。准羯磨會可知之。

〔四智漢語〕鷓鴣抄云、私云、金剛薩埵、東方大圓鏡智嬉菩薩、外相ヨセテ低左也。

得爲無上、南方平等性智、靈菩薩故、當額著靈貌也。金剛言詞、西方妙觀察智、歌菩薩故、音聲出入口、臍爲所至也。願成金剛北方成所作智、舞菩薩故、心前マイカナヅル也。古抄云、無相佛果、供養受義、雖無之、衆生應同此化儀、設クル也。次歌詠、句、高聲唱事、音曲口辯、句、故也。文

〔四種供養〕略出經卷四丁廿五同右廿六

〔自供養〕鷓鴣抄云、私云、自他成辨、大曼荼羅、供養奉貌也。文

先羯磨會

嬉登歌舞  
香花燈塗

先羯磨會八供養

嬉  
二拳置、腰向、左方、空、少、低、頭

縛日羅 暹細 護(子種)

鬘  
二拳、反、額、上、頂、後、各、三、反、迴、繞

縛日羅 摩黎 怛羅吒(子種)

歌  
二拳、並、仰、二、地、中、節、少、側、立、從、臍、至、口、散

縛日羅 擬諦 擬(子種)

舞  
二拳、心、上、左、右、脇、右、旋、舞、三、反、金、合、散、頂

縛日羅 涅哩諦 訖哩吒

香  
二拳、而、相、合、下、散

縛日羅 度閑 阿(子種)

花  
前、印、向、上、散

縛日羅 補滋閑 唵(子種)

燈  
二拳、而、相、合、禪、智、立、並、如、針、念、燈

縛日羅 路計 爾(子種)

塗  
二拳、合、中、節、而、向、胸、橫、置、孔、上、三、開、拳

縛日羅 獻弟 虐(子種)

次三昧會 嬉登歌舞 (如行記)  
次復以金剛讚歎密語作四種供養  
師向壇前中心居 資師左方居 師弟並讚衆同音誦四智漢語隨句師資共作印  
金剛薩埵攝受故 師弟共金合當胸而左方仰如嬉菩薩儀  
得爲無上金剛寶 金合當額著  
金剛言詞歌詠故 金合端下向仰散之 歌菩薩印勢  
願成金剛勝事業 心前左脇邊右脇邊各舞之舞菩薩儀也  
穴太云三反了 鉞一反 行用讚一反無鉞  
次阿闍梨教令弟子修事供養  
先五供 香 花 燈 塗 食 左方

次普供

次讚大日 所得尊 四智 或唯大日

次闍伽

次與花或略之 或略之 私云此花與齒木同可畜持也

阿闍梨取壇上所獻花鬘花器花一房也大 壇右花鬘云々 賜諸弟

子授弟子 復令作重要誓云 萬全記云此華 不可失示

如授弟子 復令作重要誓云 萬全記云此華 不可失示上所說不得輒說此法即說意云如上諸事爲無 三昧耶人輒不得說之

次令弟子各令脫寶冠等了即令座淨筵邊

次結緣灌頂

次五瓶移大壇取散杖 加香水 敷禮盤等

次師著坐受者坐師後右 可想共修供養 次入定

〔與華〕略出經四六廿鸚鵡抄云次花一房受者與事上件重事敢向未入壇人不可語之云契約也文

〔結緣灌頂〕略出經一右二丁此金剛界大壇場說引入金剛弟子法其中且入壇者爲盡一切衆生界救護利樂作最上事成事故於此大壇場應入者不應揀擇器非器所以者何世尊或有衆生造大罪者是等見此金剛界大壇場已及有入者一切罪障皆得遠離文云々

次根本印 次八供養等行法 如常

次下座與讚衆行道三匝誦四智讚 打鉢如常

次出堂

御本云 建長三年十一月一日於小川草畢

同五年三月十四日於關東大藏谷書了

無障金剛 尊(承)澄記之

延元元年八月七日行賀金剛書寫了

澄 豪

應永九年秋八月三日以祖師傳法和尙御本書寫之訖

無障金剛 圓 俊

### 胎金合行灌頂次第

先引入作法總如胎藏界加金四禮 次覆面 次授三昧  
 耶戒 次引入道場 次誓水金如 次投華  
 次解面 次弟子五供養 次護摩供三有  
多摩波 次觀施法 次引入蓮臺 次阿闍梨  
 五供養 次十二執供 次白拂偈 次啓  
 白諸尊 次繞瓶 次胎界因灌頂 次師  
 還座觀想護字觀五輪觀 次十二真言王 次暗字  
 觀等 次胎界正灌頂 次下已金界灌頂  
 先十二執供 次師修八供養 次白拂偈

次佛前頂禮偈 次繞瓶 次師還座觀  
 想金如 次五佛灌頂 次師還座觀想金如  
 次五佛繫鬘 次弟子換衣 次授五鈷  
 次金剛號胎如 次道具加持胎如 次授道具  
金鉢鏡輪螺胎如胎 次弟子繞壇 次師啓白諸尊金如  
 次弟子八供養 次中間護摩 次說三摩  
 耶戒胎如 次授金剛杵金如 次般若陀羅尼  
胎如 次說三昧耶戒胎如 次授兩部密印  
 次教誡金如 次歡喜偈金如 次最後護摩  
 次四智漢語金如 次誓華金如 畢

安永五丙申年八月廿九日書寫畢以鎮莊嚴藏  
別當探題前大僧正良謀

三摩耶戒  
胎藏金剛  
灌頂式文  
終

正誤表

頁	行	誤	正
二二	一	三昧の下耶を脱す	吒
二二	一五	同上	智
二二	二一	知	あればなり
二二	二五	ばあり	は
四〇	一	に	移置
四三	一	置移	尊(承歟)澄
四八	二	尊澄(承歟)	陀羅
一〇二	三	羅陀	
四六	二	以上本文	
一五	一	絡の文字削除	
七二	二	下の以 <sup>〇</sup> 來の二字削除	
七七	一	義	儀
八一	八	字	字
八一	八	也の下	後を脱す
八七	四	上の縛	後を脱す
一三七	六	以上蓋頭	

昭和十三年八月廿五日印刷  
昭和十三年八月廿八日發行

編輯兼 發行者 澁谷慈鎧  
京都市左京區淨土寺眞如町一番地

印刷者 河田貞次郎  
岐阜縣大垣市郭町百五十三番戶  
西濃印刷株式會社代表者

印刷所 西濃印刷株式會社  
岐阜縣大垣市郭町百五十三番戶

## 附 録 小 序

古來より五種不翻といつて梵語原典を漢譯する際に、祕密の故多義を含む故、此土に無き故、古例に順ふ故、善を生ぜん爲の故等々の意よりして、梵語をその儘漢字を以て音寫したものが可なり多くある。眞言陀羅尼等は深祕の故を以て翻譯せずといはれ、又常識よりしても梵音の儘念誦の方が功德大なる事は論を俟たない。然し經軌等にもその意義を知りて誦すれば功德更に大なりといふ意味の事が説かれてあれば、眞言陀羅尼の有つ意義内容を諒解する事は修法者にとり又肝要な事と信じ、本書の著者たる吾が老師の徳通により茲に灌頂式文中の眞言陀羅尼の和譯を試み附録となした次第である。

いま佛教經典中の眞言陀羅尼の内容に就いて見るに總じて二種に分類されると思はれる。即ち一は主として所謂顯教經典及び初期雜密經典等に多く説かれるもので、神名、感動語、擬聲語等と思はれる語を多く用ひたものであり、その譯讀も頗る困難なものである。これに對して純密經典中に多く説かれるものは、法語を多く用ひその意義内容の諒解も比較的容易なものがある。式文中の眞言は後者に屬するものゝ方が多く、從て茲に多少の和譯を試み得たのである。

然し乍ら元來眞言陀羅尼は頗る奇形なものが多く（又これが眞言陀羅尼の特色であるが）普通の梵語の智識を以てこれを律する



事の不可なるはいふまでもなく、殊に淺學の不肖の如きにとつてかゝる試みの危険千萬なるは百も承知であるが、唯々大方の御教導を仰がんとために敢て印刷に附した次第である。

- 一、悉曇文字を用ひたるは本邦に於て古來多くこの書體が使用されてゐるによるものである。
- 二、ローマ字を以て發音を表はしたるは、日本の假名にては子音の發音不可能であり、且つ又合成語の分拆の便に供せんが爲めである。
- 三、一々の眞言陀羅尼につき、その出據、種々の考察等詳説すべきであるが紙數の都合上全部を之を省略した。又式文中の梵語讀についても譯讀を試みる筈の處、これ亦省略して後日の機會に譲る事とした。幸ひこれを諒せられん事を。
- 四、胎藏界の令法久住陀羅尼については大宮大僧正より玉稿を賜はり、これを載せさせて戴いた。又大谷大學教授泉芳環師には多大の御指導を辱うした。謹みて兩師に謝意を表し奉る。
- 六、尙梵語活字の書體については不滿のものもあるが種々の事情より印刷所在來のものを多く使用した。これ亦諒せられよ。

昭和十三年八月

森 定 慈 紹 識

## 三 摩 耶 戒 眞 言

### ○歸命啓請眞言 (歸依方便)

ॐ सर्वबुद्धबोधिसत्त्वैः शरणं गच्छे वज्रं ह्रीं

Oṃ sarva-buddha-bodhisattvāi śaraṇāni gacchāmi vajra-dharmāni hriḥ.

唵(密語……歸命、三身、供養、驚覺等の意)一切の佛と菩薩と金剛法に至心に我れ歸依し奉る。韻利(種子)

### ○運心供養眞言 (不空摩尼)

ॐ अमोघपुत्रं मणिपद्मवज्रं तथगतं विलोकितं समन्तप्रसारं ह्रीं

Oṃ amogha-pūja maṇi-padma-vajre tathāgata-vilokite samantaprasara hūm.

唵、不空なる供養よ。寶珠と蓮華と金剛の如き如來の觀見に於て遍在するものよ。 吽(種子)

### ○懺悔諸罪眞言 (出罪方便)

ॐ सर्वपापं क्षते फलं वज्रं ह्रीं

Oṃ sarva-pāpāni sphoṭa dahana vjarāya svāhā.

唵、一切の罪過を摧破焚燒する金剛の爲めに。莎訶(密語)

### ○發菩提心眞言

ॐ वृत्तिरुत्पादयामि

Oṃ bodhicittam-utpādayāmi

唵、我れ菩提心を生ぜん。

### ○加持誓水眞言(勝三世)

नमः सम्यक्संबुद्धं हृदि विद्म्यस्य सर्वगतं  
न विषयसंन्यस्तं हृदि विद्म्यस्य सर्वगतं

Namaḥ samanta-vajrāṇāṃ ha ha ha vismaye sarva-tathāgata-viśa-  
ya-sambhava-trailokya-vijaya hūm jaḥ svāhā.

一切の金剛に歸命し奉る。訶々々(笑聲)。尊大なるものよ。一切  
如來の境界に生ぜる勝三世よ。吽、惹(種子) 莎訶(密語……歸敬  
成就の意)

### ○淨三業眞言

ॐ स्वभावसुद्धिसर्वधर्मः स्वभावसुद्धिर्ह

Oṃ svabhāva-suddha-sarva-dharmaḥ svabhāva-suddho 'haiṃ.

唵、一切法の自性清淨なり、我れ亦自性清淨なり。

### ○護身眞言

नमः सम्यक्संबुद्धं वज्रमहापद्मं ह

Namaḥ samanta-vajrāṇāṃ caṇḍa-mahā-roṣana hūm.

一切の金剛に歸命し奉る。極惡大忿怒者よ。吽(種子)

### ○塗香眞言

ॐ वज्रगंधे ग

Oṃ vajra-gandhe gaḥ.

唵、金剛塗香菩薩よ。唐(種子)

### ○白華眞言

ॐ वज्रपुष्पे ॐ

Oṃ vajra-puṣpe oṃ.

唵、白華菩薩よ。唵(種子)

### ○香爐眞言

ॐ वज्रधूपे ह

Oṃ vajra-dhūpe aḥ.

唵、金剛燒香菩薩よ。惡(種子)

### ○燈明眞言

ॐ वज्रलोके दि

Oṃ vajra-āloke diḥ.

唵、金剛燈明菩薩よ。彌(種子)

## ○加持齒木眞言

ॐ नमः सम्यक्संबुद्धाय सर्वथाखण्डुगते स्फरा  
क्षय गगनखण्डु स्वहा

Oṃ namaḥ samanta-buddhānām sarvathā-khaṇḍu-gate sphara  
hemam gaganakhaṇḍu svāhā.

一切諸佛に歸命し奉る。一切處に空に生ずる者よ。實にこの虚空  
に遍滿せよ。莎訶。

## ○嚼齒木眞言

ॐ वज्रदमदम हः

Oṃ vajra-ḥasa-ḥasa haḥ.

唵、金剛笑よ。郝(種子)

## ○金剛水眞言

ॐ वज्रुदकं ॐ

Oṃ vajra-udaka ḥa.

唵、金剛水よ、吒(種子)

## 胎灌頂眞言

## ○大鈎召眞言

नमः सम्यक्संबुद्धाय सर्वत्राप्रातिहतातथागताणिकुशा  
बोधियारिपरिका स्वहा

Namaḥ samanta-buddhānām sarvatra-apratihata-tathāgata-anikuśa  
bodhicarya-paripūraka svāhā.

一切佛に歸命し奉る、阿(種子) 一切處に於て無碍なる如來鈎よ。

菩提行の圓滿せる者よ。莎訶(聖語)

## ○塗香眞言

ॐ वज्रगन्धे हः

Oṃ vajra-gandhe haḥ.

唵 金剛香菩薩よ。虎(種子)

## ○入佛三昧耶眞言

नमः सम्यक्संबुद्धाय असम्यक्समयसमये स्वहा

Namaḥ samanta-buddhānām asame-trisame-samaye svāhā.

一切佛に歸命し奉る。無等なる三平等なる本誓よ。莎訶。



## ○西南瓶(慈氏)

नमः सम्यक्संबुद्धैः महयुगयुगिणि योश्वरि  
खरिक्खि स्वहा

Namaḥ samanta-buddhānāṃ mahā-yoga-yogini yogeśvari khañ-  
jarike svāhā.

一切諸佛に歸命し奉る。大瑜伽を行ずる者よ。瑜伽に自在なる者  
よ。虚空に生ずる者よ。莎訶。

## ○西北瓶(除蓋障)

नमः सम्यक्संबुद्धैः सत्त्वहितअभ्युदगता त्रिभुवन  
त्रिभुवन स्वहा

Namaḥ samanta-buddhānāṃ ā sattva-hita-abhyudgata trīṇ trīṇ  
raṇ svāhā.

一切諸佛に歸命し奉る。阿(種子)有情の利益を現するものよ。  
恒藍々々(種子)藍々(種子)莎訶。

## ○東北瓶(除惡趣)

नमः सम्यक्संबुद्धैः ध्वानसानानि अभ्युद्धारि  
सत्त्वधतु स्वहा

Namaḥ samanta-buddhānāṃ dhvañsanāni(?) abhyuddhāraṇi sa-  
ttva-dhātuni svāhā.

一切諸佛に歸命し奉る。有情界を舉持する者よ。莎訶。

## ○黃瓶(文殊)

नमः सम्यक्संबुद्धैः वेदवेदि स्वहा

Namaḥ samanta-buddhānāṃ ā veda-vedi svāhā.

一切諸佛に歸命し奉る。阿(種子)眞智に悟入せる者よ。莎訶。

## ○黑瓶(觀音)

नमः सम्यक्संबुद्धैः बुद्धधारि स्मृतिबलधाम  
करि धरा धरा धारया धारया सर्वानुभगवति अकारवति समये  
स्वहा

Namaḥ samanta-buddhānāṃ buddha-dhāraṇi smṛiti-bala-dhāma-kari  
dhara dhara dharaya dharaya sarvaṇ bhagavati-ākāravati-samaye  
svāhā.

一切諸佛に歸命し奉る。佛の總持よ。念力の把持者よ。保持せよ  
保持せよ。一切を保持せよかし。世尊の形相を持せる本誓よ。莎  
訶。

## ○寶幢

नमः सम्यक्संबुद्धैः त्रिभुवन स्वहा

Namaḥ samanta-buddhānāṃ raṇ raḥ svāhā.

一切諸佛に歸命し奉る。藍落(種子)莎訶。

## ○華 開

नमः सम्यक्संबुद्धे नमः स्वाहा

Namaḥ samanta-buddhānāṁ vaiṁ vaḥ svāhā

一切諸佛に歸命し奉る。鑿罽(種子)莎訶。

## ○阿 彌 陀

नमः सम्यक्संबुद्धे नमः स्वाहा

Namaḥ samanta-buddhānāṁ vaiṁ vaḥ svāhā

一切諸佛に歸命し奉る。穰索(種子)莎訶。

## ○鼓 音

नमः सम्यक्संबुद्धे नमः स्वाहा

Namaḥ samanta-buddhānāṁ khaṁ khaḥ svāhā

一切諸佛に歸命し奉る。哈鶴(種子)莎訶。

## ○金剛杵真言

ॐ वज्रदिपतिस्तु मन्त्रिभ्यो नमः वज्रस  
मयस्तु

Oṃ vajra-adhipatibhis-tvaṁ abhiṣīcāmi tiṣṭha vajra samayas-tvaṁ

唵、金剛主によりて我れ汝に灌頂せん。起て、金剛よ。汝は本誓なり。

## ○金剛名號真言

ॐ वज्रसत्त्वमहामन्त्रिभ्यो वज्रनामभिक्षकः  
नमः वज्रस

Oṃ vajra-sattvam-aham abhiṣīcāmi vajra-nāma-abhiṣekataḥ he vajra-nāma

唵、我れ金剛薩埵に灌頂す。金剛名の灌頂より實に金剛名(の某甲)よ。

## ○加持法輪真言

नमः सम्यक्संबुद्धे वज्रसत्त्वमहामन्त्रिभ्यो नमः

Namaḥ samanta-vajrānāṁ vajra-ātmako 'ham

一切諸金剛に歸命し奉る。我れは金剛身なり。

## ○令法久住陀羅尼校訂復譯并に譯讀

此陀羅尼は大般若經第五百七十一卷并に共同本異譯なる勝天王般若經に出づ、共に漢字にての音譯なり、依て梵<sup>デーブナーガリー</sup>字所傳のものを印度出版の諸般若經中より見出さんとして努力せしも、遺憾なることには、此部分は或は原書未發見の爲めか、未だ出版し居られず。

即ち(一)シャタサーハスリカー(十萬頌)は大般若經卷第一より第四百まで



るならん、大正大學教授松濤誠廉氏は漢字の茶字は奈字の誤りならん而して西藏 **𑖇𑖫𑖞** (クナ) ならば正しく **𑖇𑖫𑖞** なるべしと云はる、今それに従ふ

ホ、**𑖇𑖫𑖞**、胎灌記には **𑖇𑖫𑖞** (又ハ **𑖇𑖫𑖞**) 長音、第六摩多に作る、明瞭なる誤りなれば今之れを匡す

ヘ、**𑖇𑖫𑖞**、大般若陝なり、陝は **𑖇𑖫𑖞** なり、勝天王奢に作り西藏亦其音なり故に **𑖇𑖫𑖞** とす

ト、**𑖇𑖫𑖞** 胎灌記 **𑖇𑖫𑖞** に作る今是正す

チ、**𑖇𑖫𑖞** 胎灌記 **𑖇𑖫𑖞** に作る、大般若、勝天王、共に羅なり羅は **𑖇𑖫𑖞** なり西藏亦然り **𑖇𑖫𑖞** を長音 **𑖇𑖫𑖞** にしたるは意義を通ずる爲めなり

リ、**𑖇𑖫𑖞** を一字切り離したるは勝天王金に作り金は **𑖇𑖫𑖞** にて (何故 = カ) の疑問詞なり西藏 **𑖇𑖫𑖞** 亦然り、故に大般若の迦字を疑問詞の意味として扱ひたるによる

ヌ、**𑖇𑖫𑖞𑖇𑖫𑖞𑖇𑖫𑖞**、大、勝、西、三本皆然り獨り胎灌記のみ **𑖇𑖫𑖞𑖇𑖫𑖞** に作る、意義は異らず、胎灌記が或は漢字音よりの復譯に非ずして獨立相傳のものならん歟と考慮せらるゝは唯此一語あるによるのみ全く諸本と同じからざるの點にあり、然れども前記多くの語によりて本邦にての復譯なることは復た否定の餘地なし、故に此語によりて自ら大、勝によらず何にか別本に依りたるものならんと思考せらるゝなり

ル、ヲ、ヅ、**𑖇𑖫𑖞** は **𑖇𑖫𑖞** 一 **𑖇𑖫𑖞** の連結、**𑖇𑖫𑖞** は **𑖇𑖫𑖞** 一 **𑖇𑖫𑖞** の連結、**𑖇𑖫𑖞** は **𑖇𑖫𑖞** 一 **𑖇𑖫𑖞** の連結なり、故に **𑖇𑖫𑖞** 字は必ず第二摩多を附したる長音の **𑖇𑖫𑖞** ならざる可らず、然るに胎灌記には此何れも短音の **𑖇𑖫𑖞** に作り是亦音譯の誤りなり

此陀羅尼の原文を右の如く考覈決定し而して是れを譯讀すること左の如し

考備(イ)  
(一) **𑖇𑖫𑖞** (所謂) **𑖇𑖫𑖞** (勿害) **𑖇𑖫𑖞** **𑖇𑖫𑖞** (能害者) **𑖇𑖫𑖞**  
**𑖇𑖫𑖞** (免離障害[具]德[者]) **𑖇𑖫𑖞** (諸忿怒尊)  
**𑖇𑖫𑖞** (邪惡[非法]摧破) **𑖇𑖫𑖞** (摧破) **𑖇𑖫𑖞** (斷滅)  
**𑖇𑖫𑖞** (滅盡) **𑖇𑖫𑖞** (祈念歸敬)

○此一段は怖畏すべき或る冥力に對して具德者(即ち正法護持者)に一切怖畏障害等の事無からしめ、更に諸忿怒尊に對して一切の邪惡不善非法の摧破斷滅を祈念するものなり

(二) **𑖇𑖫𑖞** (能令寂靜者ヨ 正法ヲ意味ス) **𑖇𑖫𑖞** (彌滿セヨ[或ハ廣大ナレ]) **𑖇𑖫𑖞** (具擴張者ヨ[正法ヲ意味ス])  
**𑖇𑖫𑖞** (具長久者[正法ヲ意味ス] 即チ久住ノ義) **𑖇𑖫𑖞** (何故) **𑖇𑖫𑖞** (姑息)  
**𑖇𑖫𑖞** (於流布) **𑖇𑖫𑖞** (勝者ヨ克服者ヨ——自在剛部ヲ意味スルナラン歟) **𑖇𑖫𑖞** (及其眷屬) **𑖇𑖫𑖞** (若干[多數]隨從者) **𑖇𑖫𑖞** (念願鬼神) **𑖇𑖫𑖞**



𑖀𑖄𑖔 (念願諸天) 𑖀𑖄𑖔 (祈念歸敬)

○此一段は平和の將來者、即ち正法に彌々廣く彌々長久なるべく告禱し更に勝利者克服者(即ち金剛部衆)等に正法の宣布に姑息なきやの反省を促がし、諸陣天善等に至るまで令法久住に總動員を祈念するものなり

備考 (イ) 𑖀𑖄𑖔の一語は嚴密に云へば陀羅尼の前句にて呪文其者に非ず、般若心經に例を取れば、羯帝々前の「即說呪曰」に當る語なり

(ロ) 𑖀𑖄𑖔𑖀𑖄𑖔𑖀𑖄𑖔を諸忿怒尊と譯したるは圓山達音氏著の陀羅尼字典に最勝王經によりて之れを 𑖀𑖄𑖔𑖀𑖄𑖔 と同一とせられたるによる、蓋し 𑖀𑖄𑖔 は元來狂暴、猛惡の義なれども從來明王部の形容、稱號等に用ゐられ、不動明王の慈救呪に「センダ、マカロシヤナ」とある「センダ」は即ち此 𑖀𑖄𑖔 なり

(ハ) 𑖀𑖄𑖔𑖀𑖄𑖔𑖀𑖄𑖔、胎灌記には 𑖀𑖄𑖔𑖀𑖄𑖔 に作れり同意義なり  
此語は次の 𑖀𑖄𑖔𑖀𑖄𑖔 の形容詞なり

右譯讀に就ては大正大學教授松濤誠廉先生が共に協力し呉れられ資する所頗る多く、又般若部及び其他の書籍參照に就ては帝大梵文學研究室の田中於菟彌先生が高楠博士よりの紹介によりて便宜と助力とを與へられたることに付き茲に深厚なる敬謝の意を表す

昭和十三年七月二十七日

大宮孝潤誌す

自分の藏書は昭和三年一月自坊火災の際、全部烏有に歸し、今に至るまで一切、參考に資すべき書籍なし、故に梵文に關する調査の如きは其都度上京して借覽するより外に方法なく、又滯京の餘暇もなく、諸書閱覽の不充分なることに就ては遺憾甚大なり請ふ之れを諒せ

## 金灌頂眞言

### ○東北自在天真言

𑖀𑖄𑖔𑖀𑖄𑖔 𑖀𑖄𑖔

Om āraṇye svāhā.

唵、自在天の爲に、莎訶。

### ○上方梵天真言

𑖀𑖄𑖔𑖀𑖄𑖔𑖀𑖄𑖔 𑖀𑖄𑖔

Om prajapataye svāhā.

唵、梵天の爲に。莎訶。

### ○東方帝釋天真言

𑖀𑖄𑖔𑖀𑖄𑖔 𑖀𑖄𑖔

Om aindrāya svāhā.

唵、帝釋天の爲めに。莎訶。

### ○東南方火神眞言

𑖀𑖄𑖔𑖀𑖄𑖔 𑖀𑖄𑖔

Om agnaye svāhā.

唵、火天の爲めに。莎訶。

## ○南方琰魔王真言

ॐ यमय स्वहा

Om yamāya svāhā.

唵、焰魔王のために。莎訶。

## ○西南方羅刹婆真言

ॐ रक्षसधिपतये स्वहा

Om rakṣasādhipataye svāhā.

唵、羅刹主の爲めに。莎訶。

## ○西方諸龍及水神真言

ॐ वरुणाय स्वहा

Om varuṇāya svāhā.

唵、水天の爲に。莎訶

## ○下方地天真言

ॐ पृथिव्यै स्वहा

Om pṛithivyai svāhā.

唵、地天の爲めに。莎訶。

## ○下方諸鬼神

ॐ मिष मिष पिशुनानि स्वहा

ॐ शू शू सुनानि स्वहा

Om miṣ miṣ piśacānāni svāhā.

Om khyo khyo bhūtānāni svāhā.

唵、開眼せよ。開眼せよ。鬼神のために。莎訶。

唵、叫喚せよ。叫喚せよ。鬼神のために。莎訶。

## ○西北方風神真言

ॐ वायवे स्वहा

Om vāyave svāhā.

唵、風神の爲めに。莎訶。

## ○北方藥叉真言

ॐ यक्षविद्यधारी स्वहा

Om yakṣa-vidyā-dhāri svāhā.

唵、藥叉の持明者よ。莎訶。

## ○大鈎召真言

前出胎藏界に同じ。

○東方阿閼禮真言

ॐ सर्वगतपुत्रपुत्रपुत्रं (ॐ सर्वगत  
सर्वगत वज्रसह मेवैष्ये सं ह

Oṃ sarva-tathāgata-pūja-upasthānāya-ātmanān niryātayāmi sarva-tathāgata vajra-sattva adhiṣṭhāsva mām hūm.

唵、一切如來の供養と承事の爲めに我身を獻じ奉る。一切如來よ、金剛薩埵よ、我れを加持せよかし。吽(種子)

○南方寶生禮真言

ॐ सर्वगतपुत्रपुत्रपुत्रं (ॐ सर्वगत  
सर्वगत वज्ररत्न मेवैष्ये सं ह

Oṃ sarva-tathāgata-pūja-abhiṣekāya-ātmanān niryātayāmi sarva-tathāgata vajra-ratna abhiṣiñca mām trāḥ.

唵、一切如來の供養灌頂の爲めに我身を獻じ奉る。一切如來よ、金剛寶よ、我れを灌頂せよかし。怛落(種子)。

○西方阿彌陀禮真言

ॐ सर्वगतपुत्रपुत्रपुत्रं (ॐ सर्वगत  
सर्वगत वज्रधर्म प्रवर्तय सं ह

Oṃ sarvatathāgata-pūja-pravartanāya-ātmanān niryātayāmi sarva-tathāgata vajra-dharma pravartaya mām hrīḥ.

唵、一切如來の供養展轉の爲めに我身を獻じ奉る。一切如來よ、

金剛法よ、我れに開轉せよかし。訖哩(種子)。

○北方不空成就禮真言

ॐ सर्वगतपुत्रपुत्रपुत्रं (ॐ सर्वगत  
सर्वगत वज्रकर्मा मेवैष्ये सं ह

Oṃ sarva-tathāgata-pūja-karmāṇi ātmānān niryātayāmi sarva-tathāgata vajra-karma kuru mām aḥ.

唵、一切如來の供養事業の爲めに我身を獻じ奉る。一切如來よ、金剛業よ、我れに爲すことあれかし。惡(種子)。

○金剛薩埵真言

समयस्त्वम्

Samayas-tvam.

汝は三昧耶なり。

○壇前教誠偈

महो म ह सर्वगतपुत्रं प्रवर्तय सं ह  
वज्रधर्मप्रवर्तय सं ह वज्रधर्म  
सर्वगतपुत्रं वज्रधर्म प्रवर्तय सं ह  
न व वज्रधर्मप्रवर्तय सं ह वज्रधर्म  
सर्वगतपुत्रं

Adya sa tvam sarva-tathāgata-kule praviṣṭas-tad-aham hi vajra-jñānam-utpādayisyāmi yena jñānena tvam sarva-tathāgata-siddhir-abhiprāpsyasi kiṁ punar-anyāḥ siddhiḥ na ca tvayā-adrṣṭa-mahāmaṇḍalasya vaktavyam mātisamayo vyātanyate.

茲なる汝は今や一切の如來種族の中に立てり、その故を以て實に我は金剛の智慧を生ずべし。その金剛智によりてこそ汝は一切如來の悉地を得べし。況んや他の悉地をや。

されど未だ曼荼羅を見ざるものに汝は語るべからず且つ又越三昧を演説する勿れ。

### ○誓水眞言

वज्रसत्त्व स्वयंतेजो हृदये समवासति तद्रूपविद्यां तत्क्षणं यया 'न्यानि पाुर्यानि नन्दया वज्रा-उद्गता

Vajra-sattva svayam-tejā hṛdaye samavasati tādrūp-vidyā 'stu tātkṣaṇam yayā 'anyāni pauryāni nandaya vajra-udgata.

金剛薩埵よ、己が威力は心に存するなり。その刹那他の人々を喜ばしむるが如き斯くの如き明智があれかし。金剛を生ずるものよ。

वज्रवेश वज्रवेश ह्री

Vajra-veśa vajra-veśa ah.

金剛攝入者よ。金剛攝入者よ。婀(種子)。

### ○投華眞言

ॐ श्रीं क वज्रं

Oṃ pratīccha vajra ho!

唵、受け給へ、オ、金剛よ。

### ○頂戴華眞言

ॐ श्रीं ह्रीं क वज्रं मय्यनवत्

Oṃ pratigṛhṇa tvam hemam sattva-mahā-bala.

唵、大力薩埵よ。此の汝を實に攝取し給へ。

### ○加持開眼眞言

ॐ वज्रसत्त्व स्वयंतेजो वदुश्चक्षुः परमं उच्चैर्लोकं महेन्द्रवज्रवदुर्हृत्परं

Oṃ vajra-sattva svayam-tejā-cakṣu-udghaṭṭanaḥ tat-param udghaṭṭayati sarva-akṣu-vajra-cakṣur-anuttaram.

唵、金剛薩埵よ。開眼すべき己が威力は専ら一切の眼たる無上の金剛眼を開かしむるなり。

### ○降三世眞言

ॐ श्रीं ह्रीं क ह्रीं

Oṃ nisumbha hūm phaḥ.